

伊東市
移住意向に関するアンケート
調査結果報告書

令和2年3月

伊東市

目 次

I	調査概要	1
1	調査の目的	1
2	調査項目	1
3	調査方法	1
4	回収状況	2
5	この報告書の見方	2
II	移住意向に関するアンケート 調査結果	3
1	あなた自身について	3
2	転入（転出）前後の住まいについて	13
3	転入（転出）して感じたことについて	34
4	クロス集計	43
III	移住意向に関するアンケート（WEB） 調査結果	49
1	あなた自身について	49
2	地方への移住について	52
3	静岡県伊東市について	55

I 調査概要

I 調査概要

1 調査の目的

人口減少・少子高齢化の進展の中、地方で進められる「まち・ひと・しごと創生」にかかる取り組みとして、地域の人口の現状分析及び将来の人口見通しを示す「伊東市人口ビジョン」の策定を進めている。この人口ビジョン策定にあたり、移住意向に関する現状や課題を検討するための基礎資料とするために実施した。

2 調査項目

調査種別	調査項目
①移住意向に関するアンケート (転入者)	1 あなた自身について 2 転入前後の住まいについて 3 転入して感じたことについて
②移住意向に関するアンケート (転出者)	1 あなた自身について 2 転出前後の住まいについて 3 転出して感じたことについて
③移住意向に関するアンケート (WEB)	1 あなた自身について 2 地方への移住について 3 静岡県伊東市について

3 調査方法

①移住意向に関するアンケート(転入者) (無作為抽出)

調査対象：平成 29 年 10 月 1 日～令和元年 9 月 30 日までの間に伊東市に転入した方 500 人

調査期間：令和元年 11 月 20 日～令和元年 12 月 16 日

調査方法：郵送配付・郵送回収

②移住意向に関するアンケート(転出者) (無作為抽出)

調査対象：平成 29 年 10 月 1 日～令和元年 9 月 30 日までの間に伊東市から転出された方 500 人

調査期間：令和元年 11 月 20 日～令和元年 12 月 16 日

調査方法：郵送配付・郵送回収

③移住意向に関するアンケート(WEB)

調査対象：首都圏（東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県）在住の 20 歳以上の方 1,110 人

調査期間：令和元年 11 月 20 日～令和元年 11 月 22 日

調査方法：インターネット

4 回収状況

	対象数	回収数	有効回収数	有効回収率
①転入者	500	162	162	32.4%
②転出者	500	123	123	24.6%
③WEB		1,110	1,110	

*有効回収数：回収数から全く回答がないもの（白票）を除いた数

5 この報告書の見方

- ・当該質問に回答した人の実数（回答母数）を表記する場合は「N」と表示した。
- ・集計結果の％表示は、小数点以下第2位を四捨五入してあるので、構成比の合計がちょうど100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答が可能な設問の場合は、すべての構成比の合計がちょうど100.0%にならない場合がある。

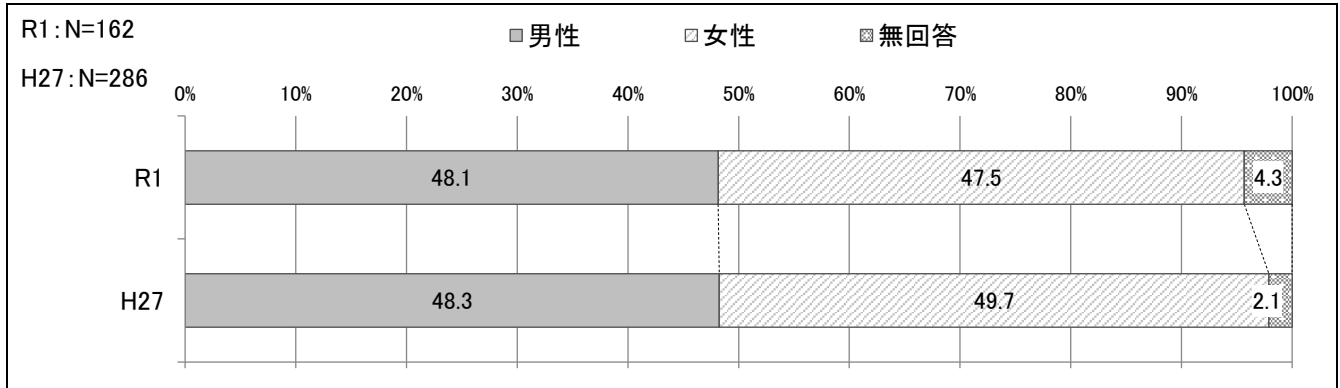
- Ⅱ 移住意向に関するアンケート 調査結果
- Ⅲ 移住意向に関するアンケート（WEB） 調査結果

Ⅱ 移住意向に関するアンケート 調査結果

1 あなた自身について

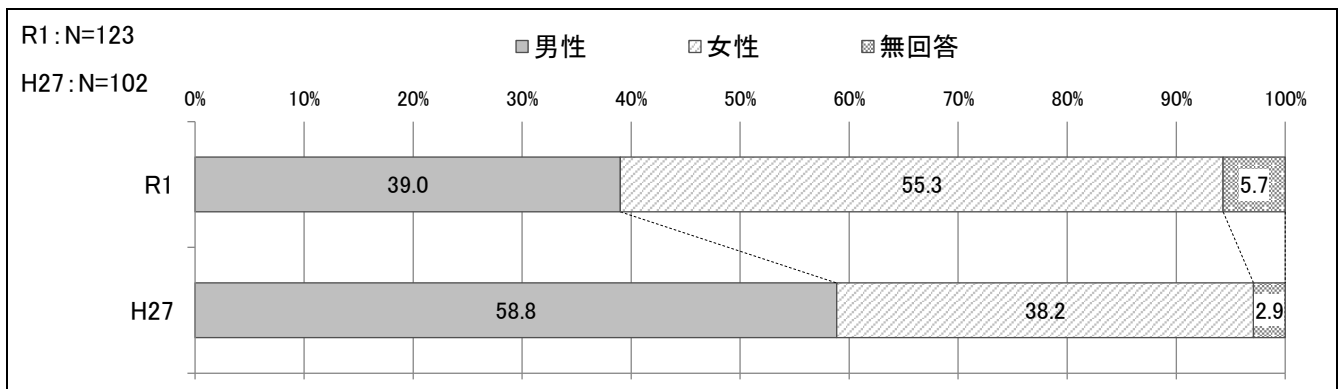
(1) 性別 (○は1つ)

【転入者：問1】



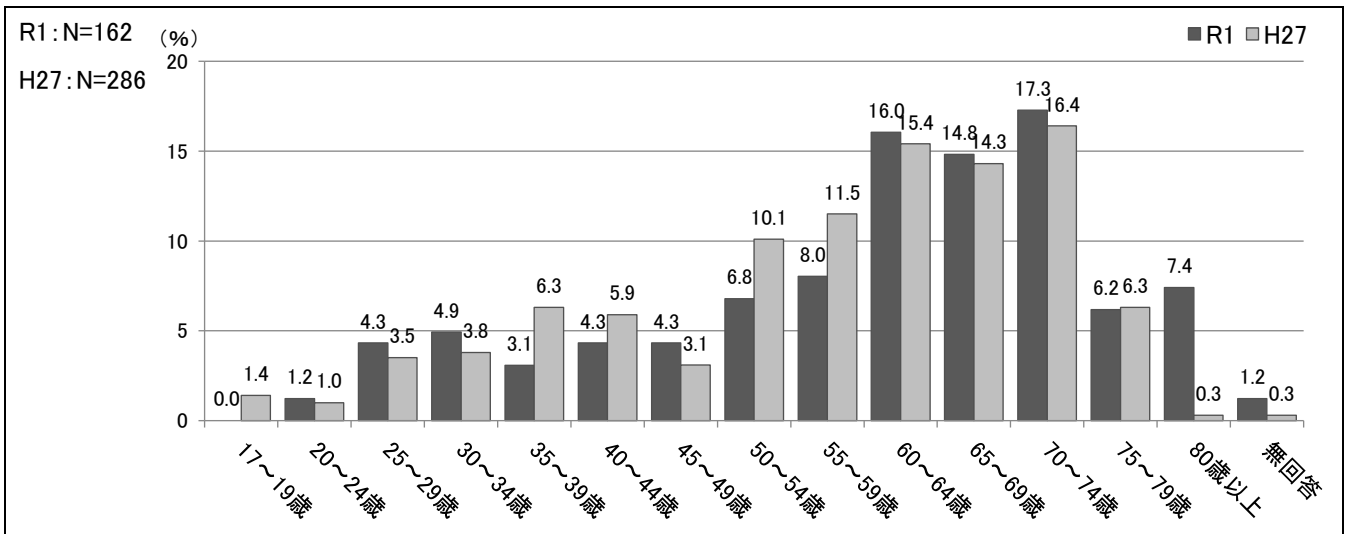
性別 (○は1つ)

【転出者：問1】



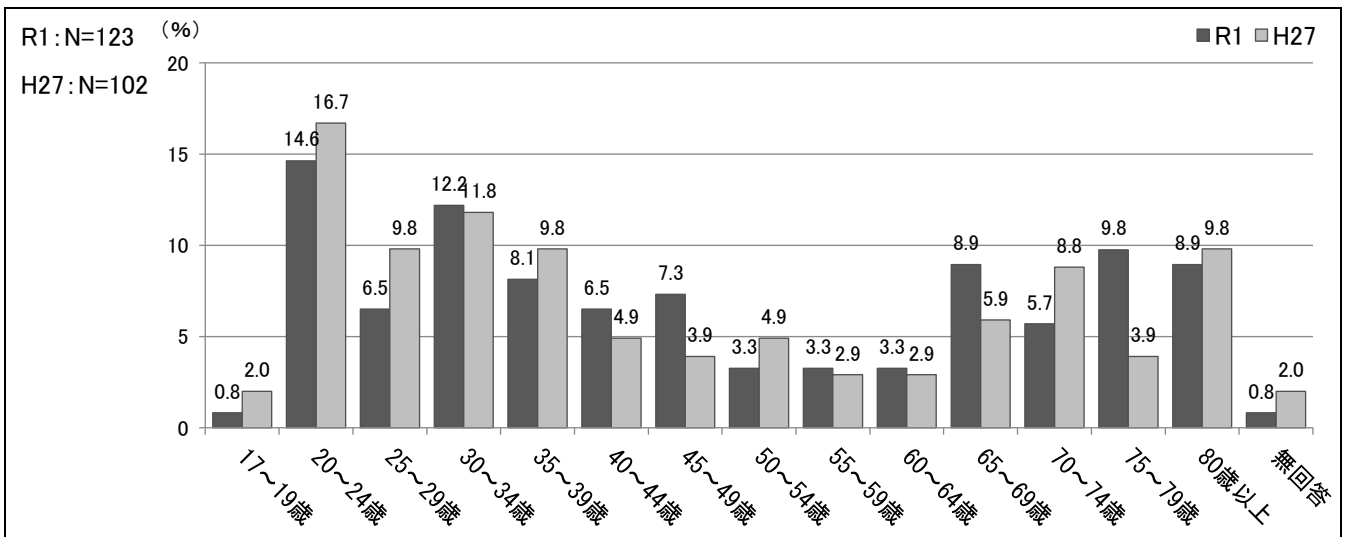
(2) 年齢 (〇は1つ)

【転入者：問2】



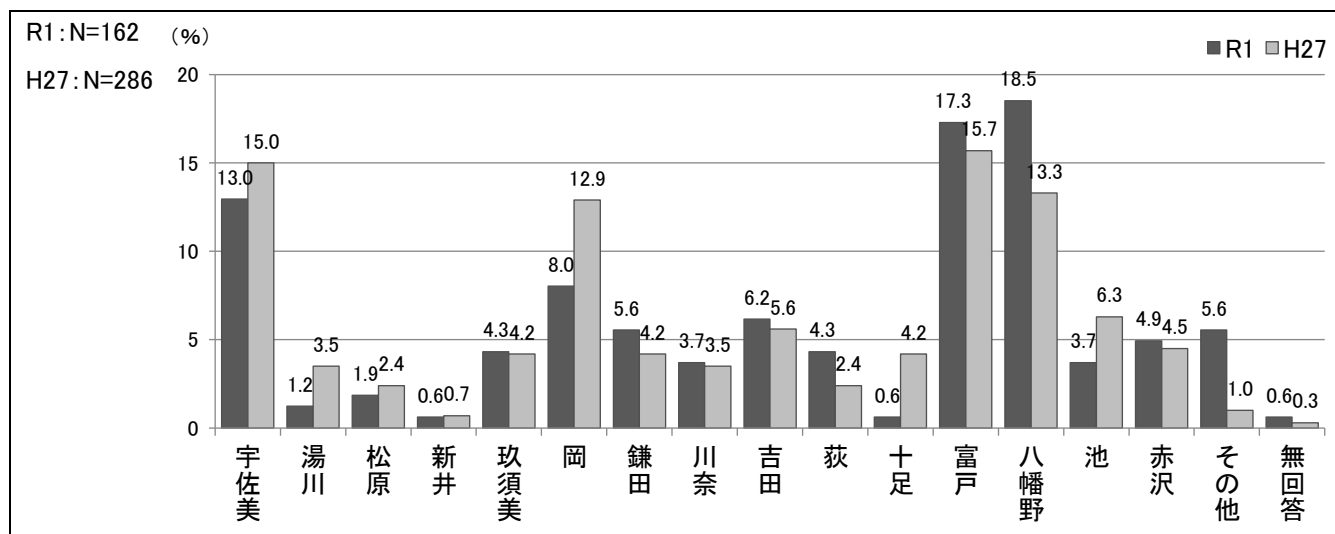
年齢 (〇は1つ)

【転出者：問2】



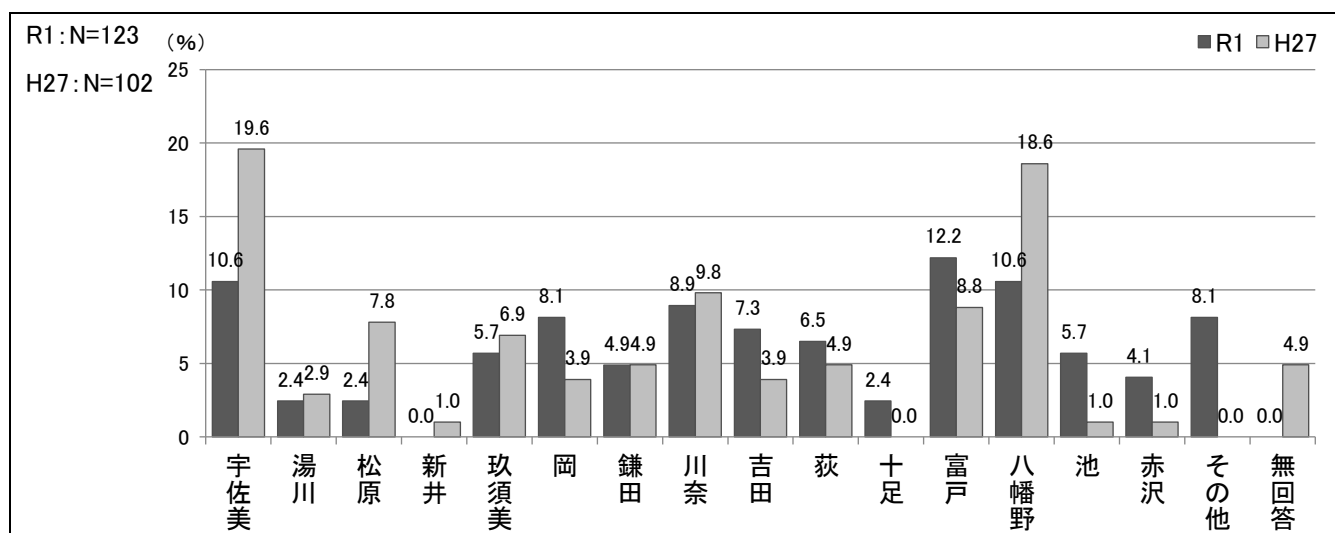
(3) 転入後の伊東市での居住地域 (○は1つ)

【転入者：問3】



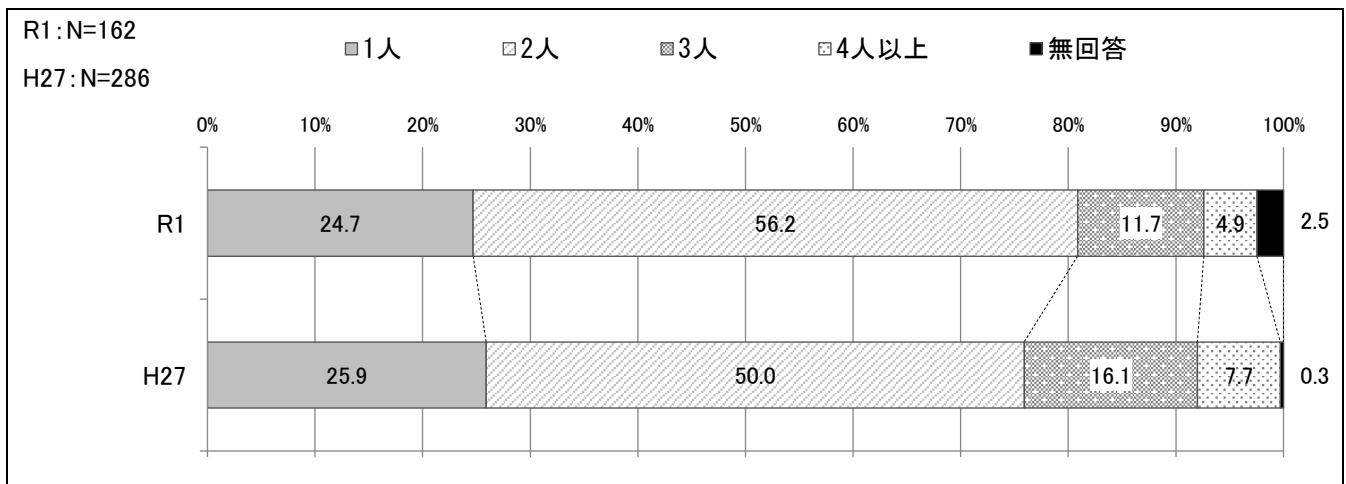
転出前の伊東市での居住地区 (○は1つ)

【転出者：問3】



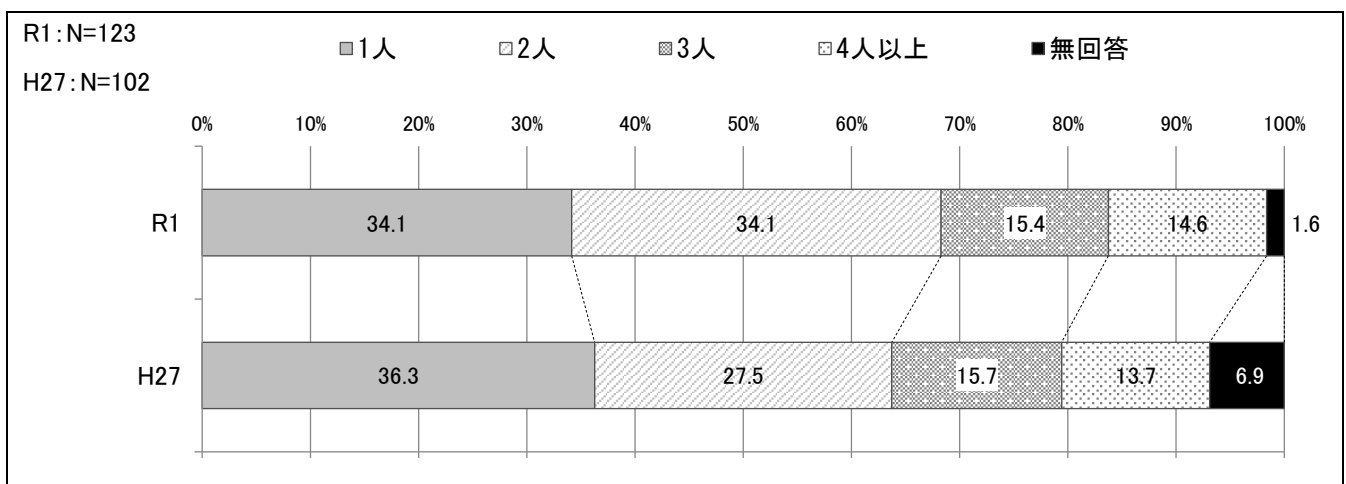
(4) 世帯人数 (〇は1つ)

【転入者：問4】



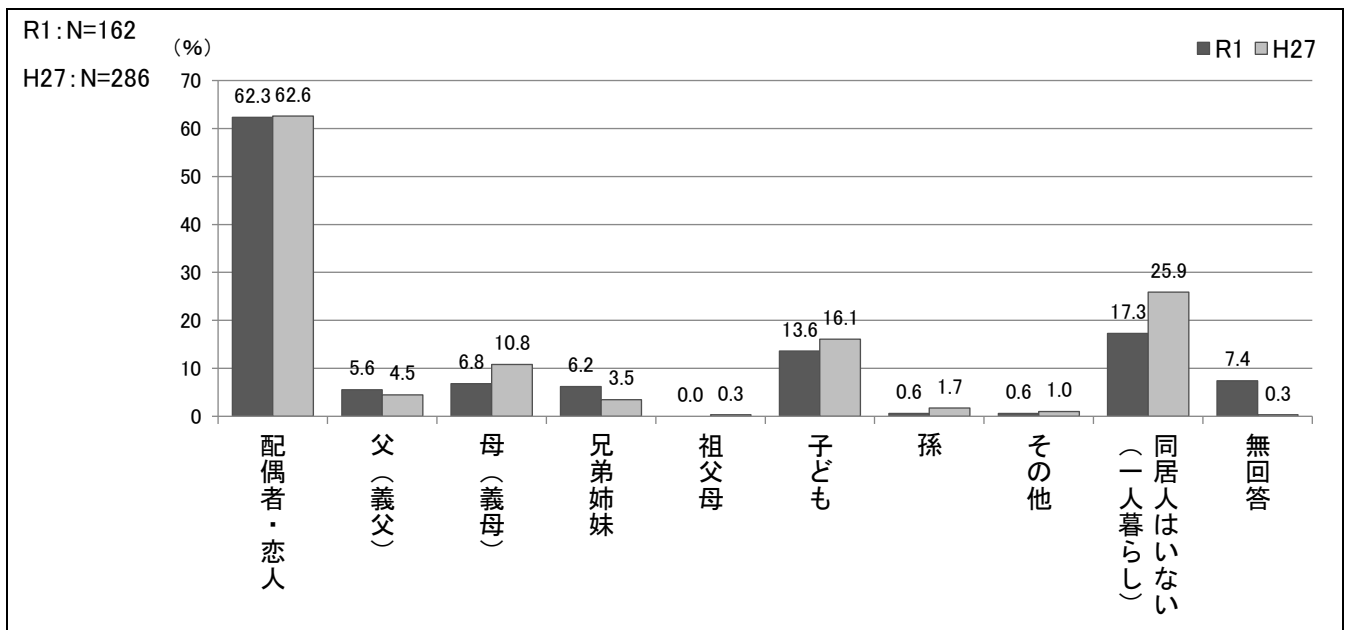
世帯人数 (〇は1つ)

【転出者：問4】



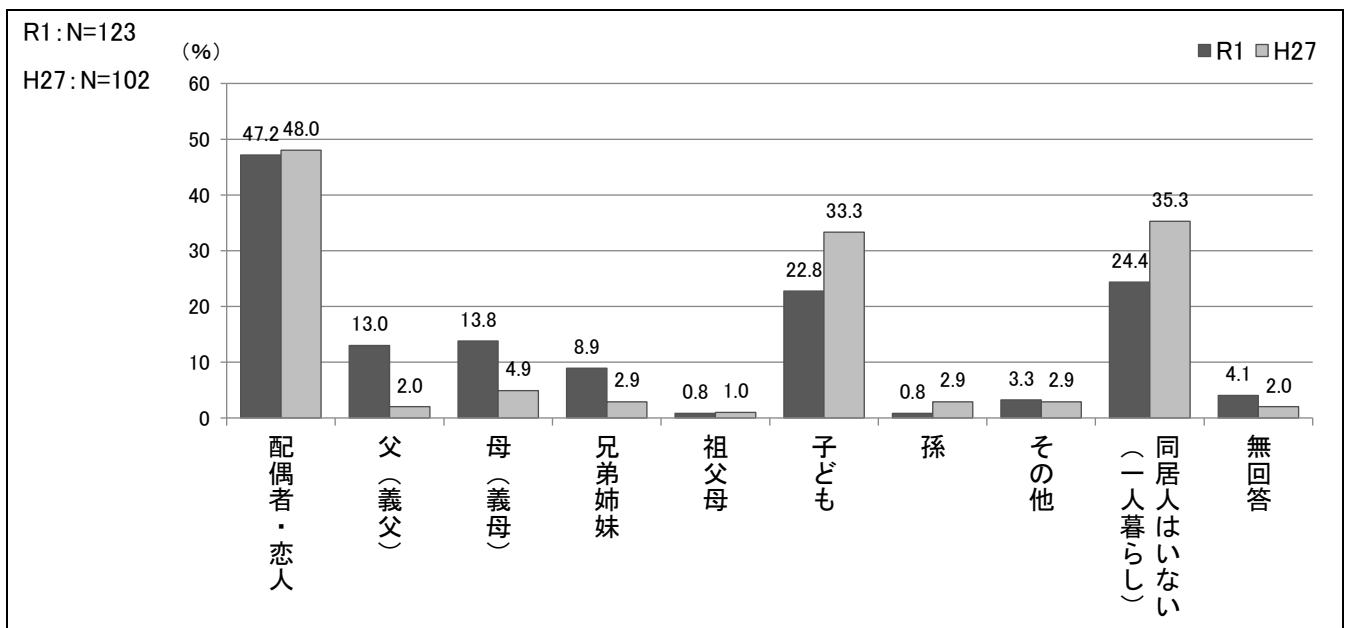
(5) 同居人 (○はいくつでも)

【転入者：問 5-1】



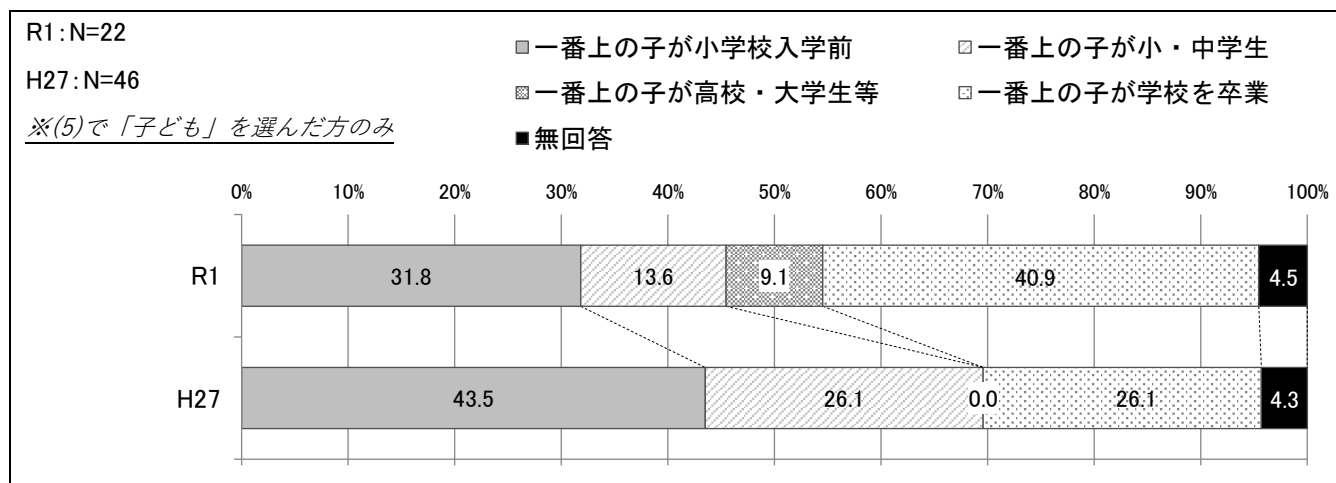
同居人 (○はいくつでも)

【転出者：問 5-1】



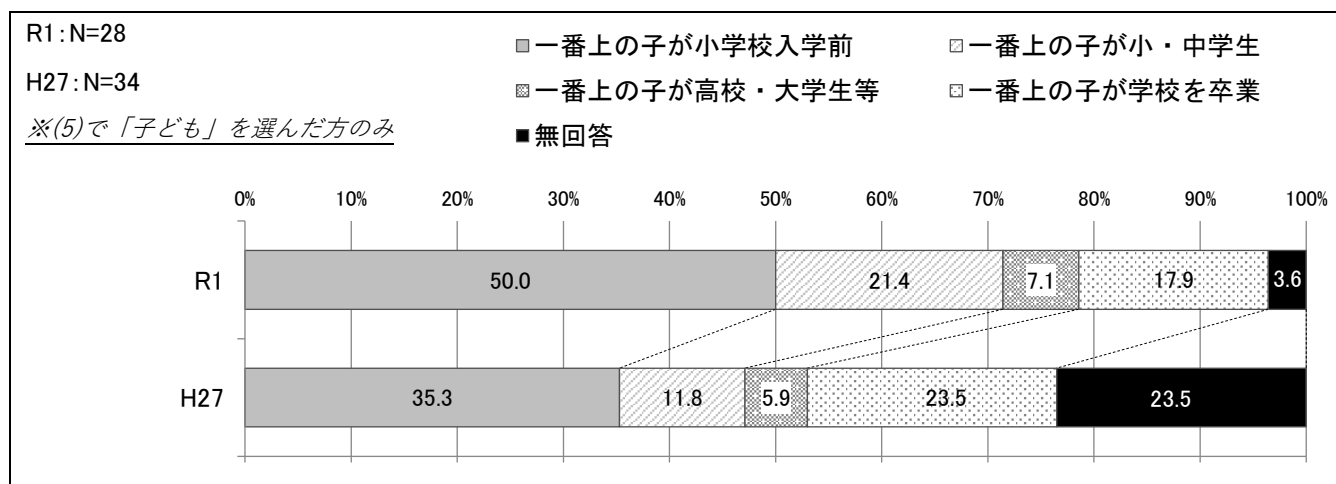
(6) 同居している子の状況 (○は1つ)

【転入者：問5-2】



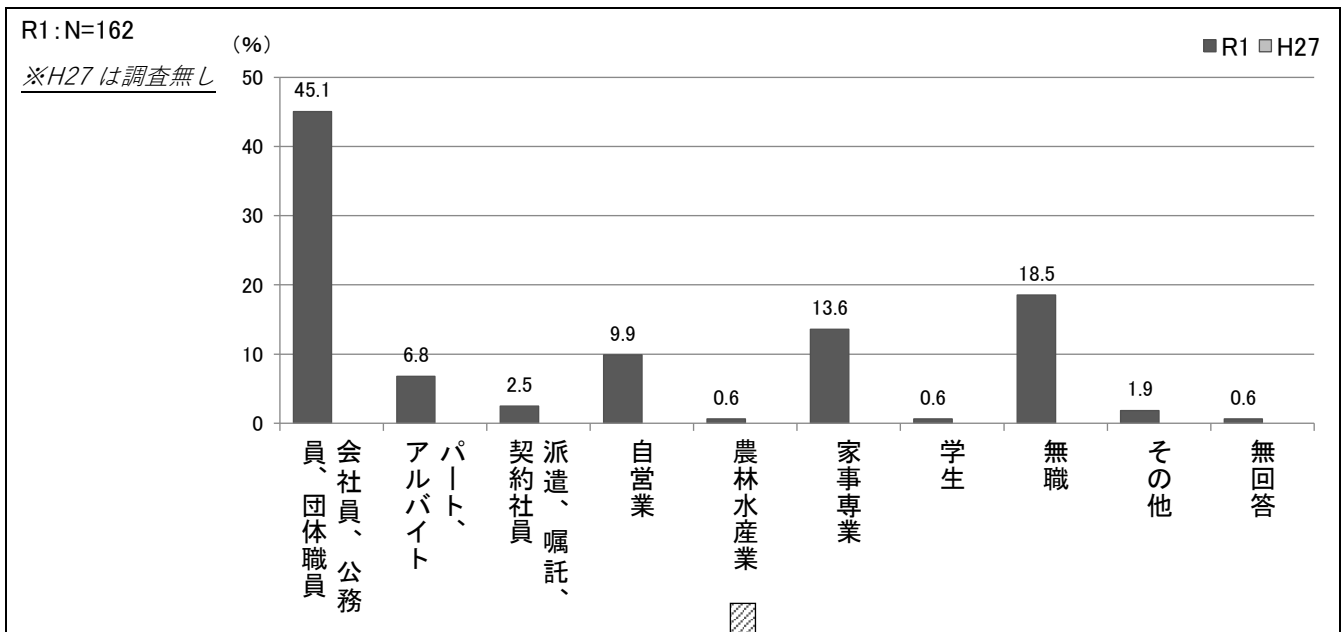
同居している子の状況 (○は1つ)

【転出者：問5-2】



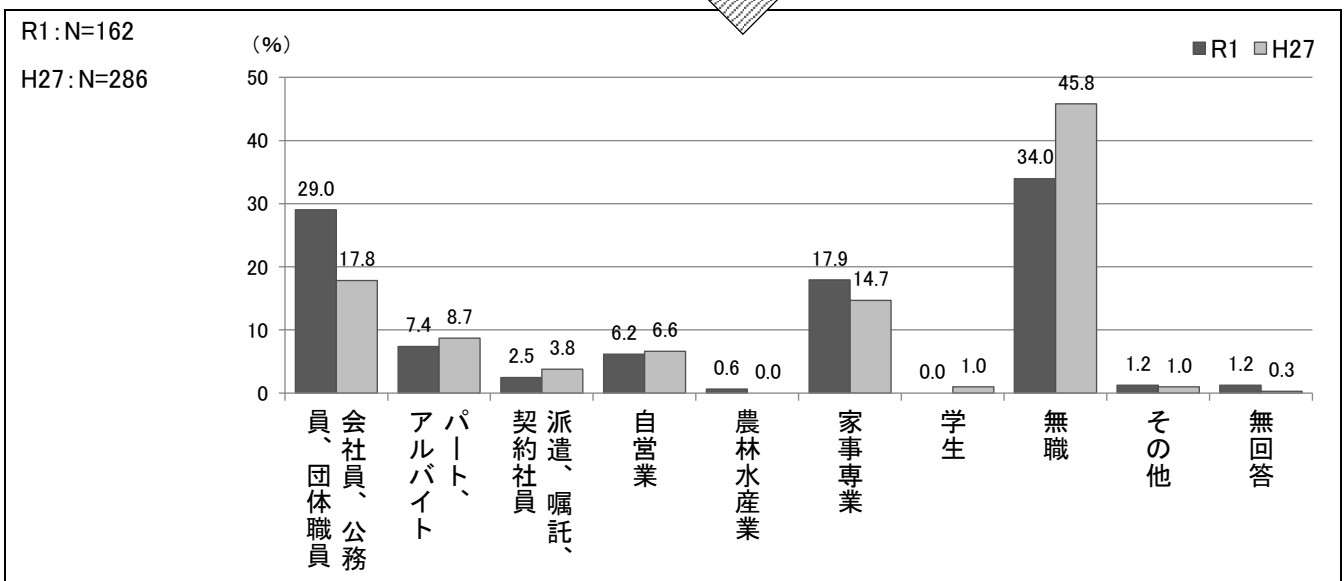
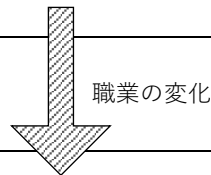
(7) 伊東市転入前の職業 (〇は1つ)

【転入者：問6】



(8) 現在 (伊東市へ転入後) の職業 (〇は1つ)

【転入者：問7-1】

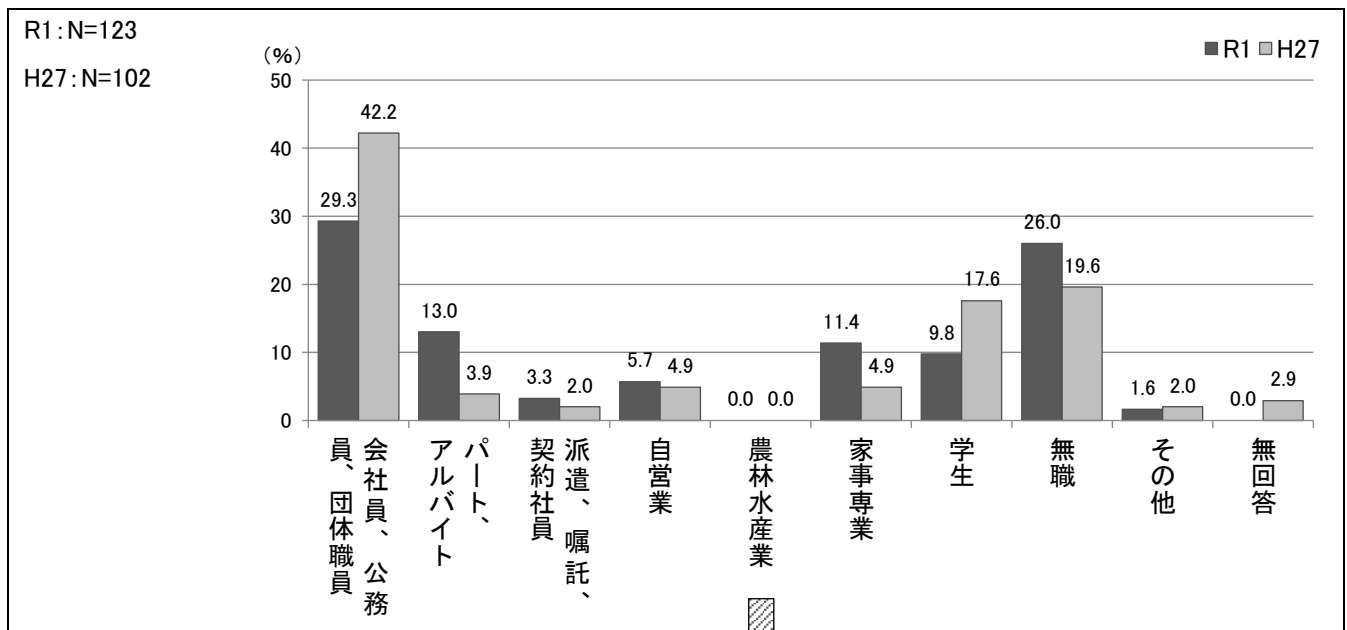


伊東市へ転入前の職業は、「会社員、公務員、団体職員」が45.1%と半数近くを占めているが、転入後は「無職」が34.0%と高く、次いで「会社員、公務員、団体職員」の29.0%となっている。

平成27年度と比較した場合、現在の職業については「会社員、公務員、団体職員」が11.2ポイントの増加、「無職」が11.8ポイントの減少となっている。

(9) 伊東市転出前の職業 (○は1つ)

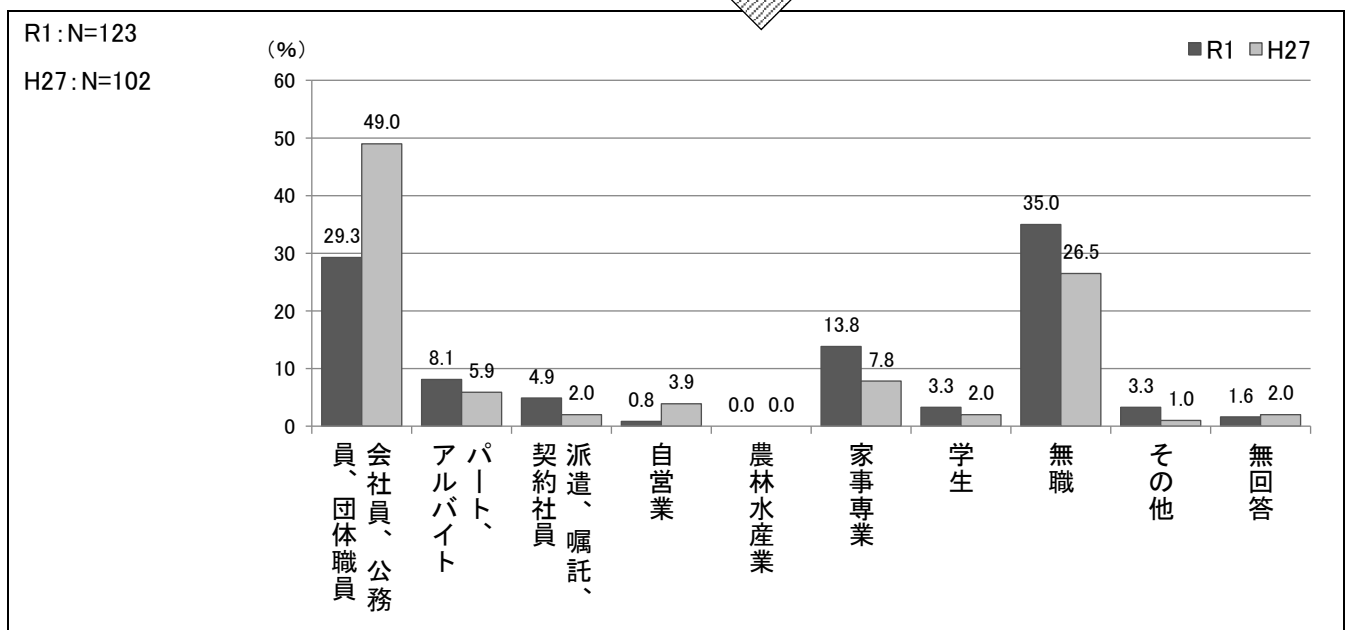
【転出者：問7-1】



(10) 現在 (伊東市転出後) の職業 (○は1つ)

職業の変化

【転出者：問6】

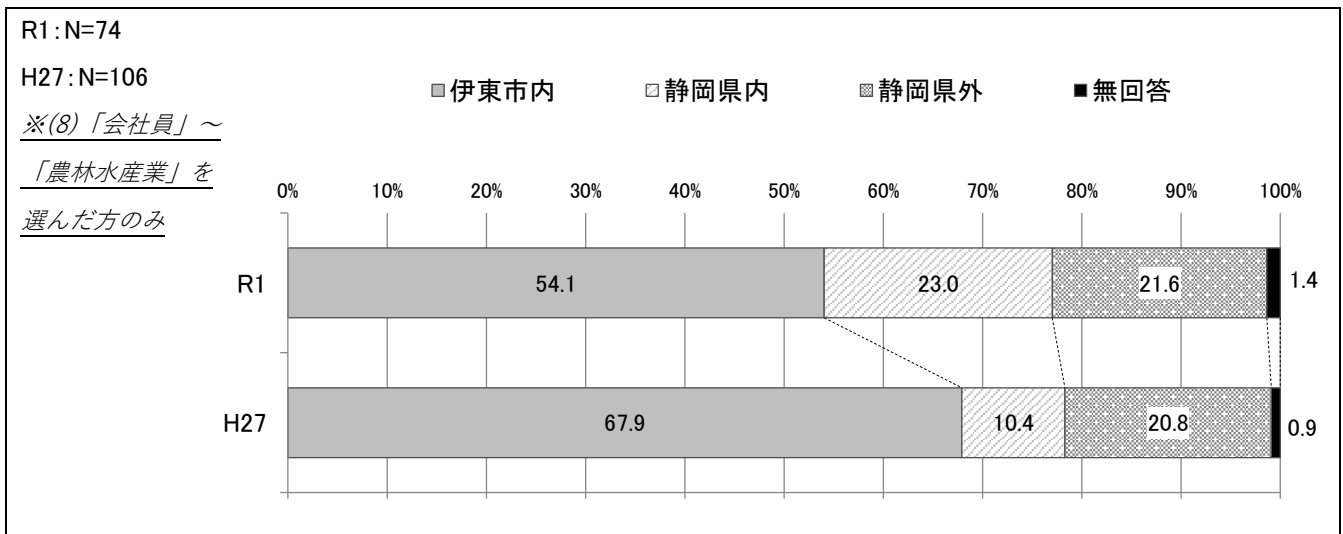


伊東市転出前の職業は、「会社員、公務員、団体職員」が29.3%と最も多く、次いで「無職」の26.0%となっている。転出後は、「無職」が35%と9ポイント増加しており、「会社員、公務員、団体職員」は29.3%と変わらない。

平成27年度と比較すると、「会社員、公務員、団体職員」の割合が、転出前で12.9ポイント、転出後は19.7ポイント減少している。

(11) 現在の勤務地 (〇は1つ)

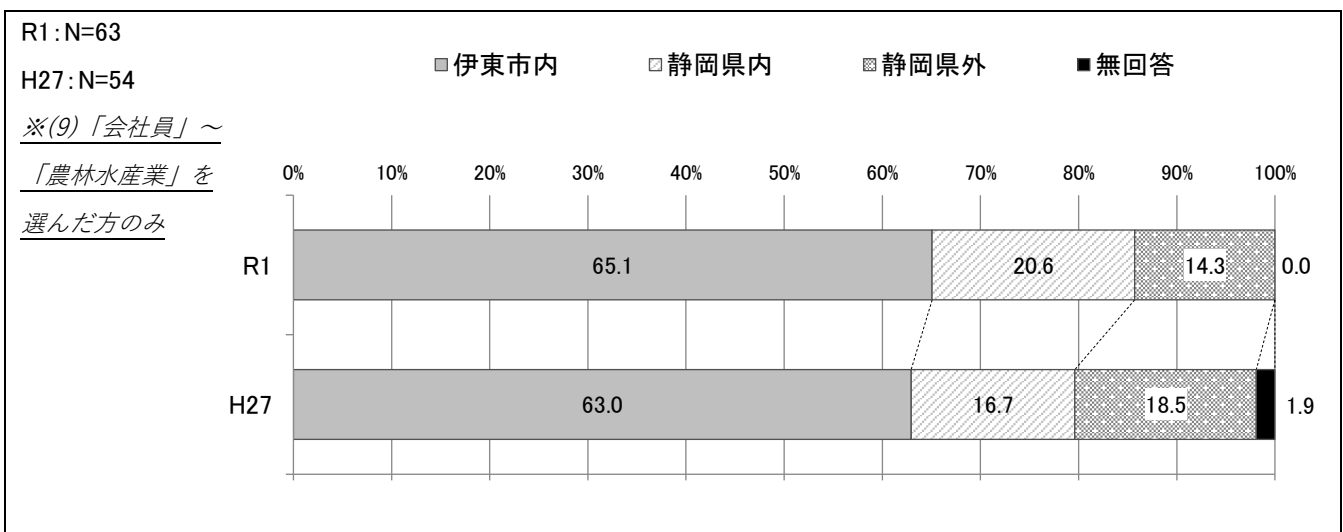
【転入者：問7-2】



転入者の現在の勤務地は、「伊東市内」が54.1%と最も多く、約半数を占めているが、平成27年度より13.8ポイント減少している。一方、「静岡県内」は12.6ポイント増加している。

(12) 伊東市転出前の勤務地 (〇は1つ)

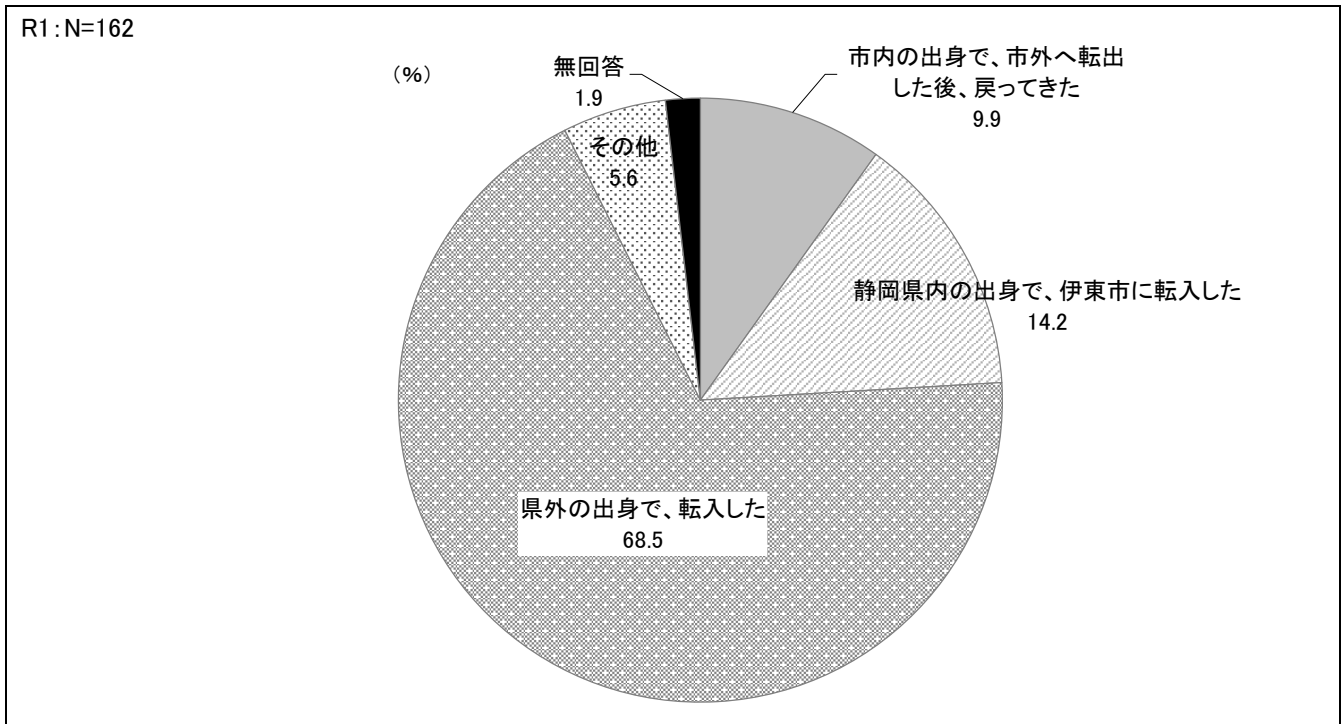
【転出者：問7-2】



転出前勤務地は、「伊東市内」が65.1%と最も多く、次いで「静岡県内」の20.6%となっている。平成27年度と比較すると、それぞれ2.1ポイント、3.9ポイント増加している。一方、「静岡県外」は4.2ポイント減少している。

(13) 出身地と伊東市の関係性 (○は1つ)

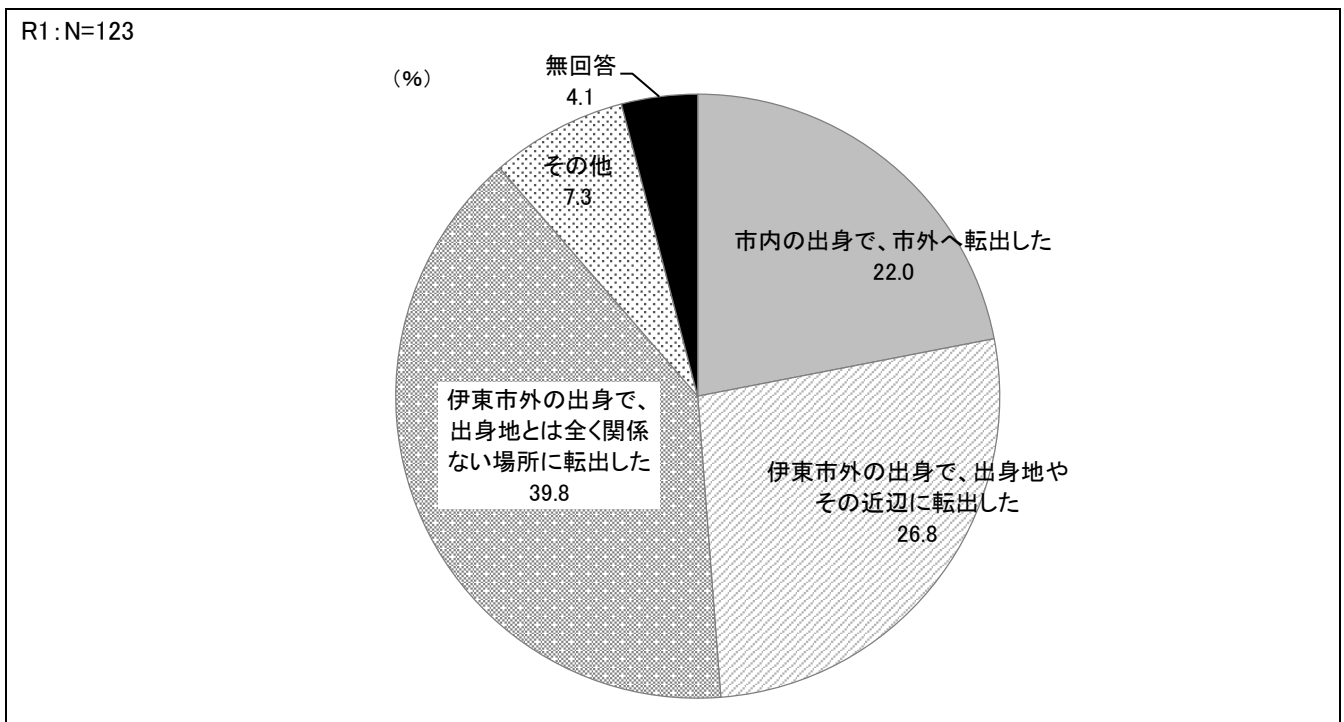
【転入者：問8】



「県外の出身で、転入した」が68.5%と7割近くを占めている。

(14) 出身地と転出先の関係性 (○は1つ)

【転出者：問8】

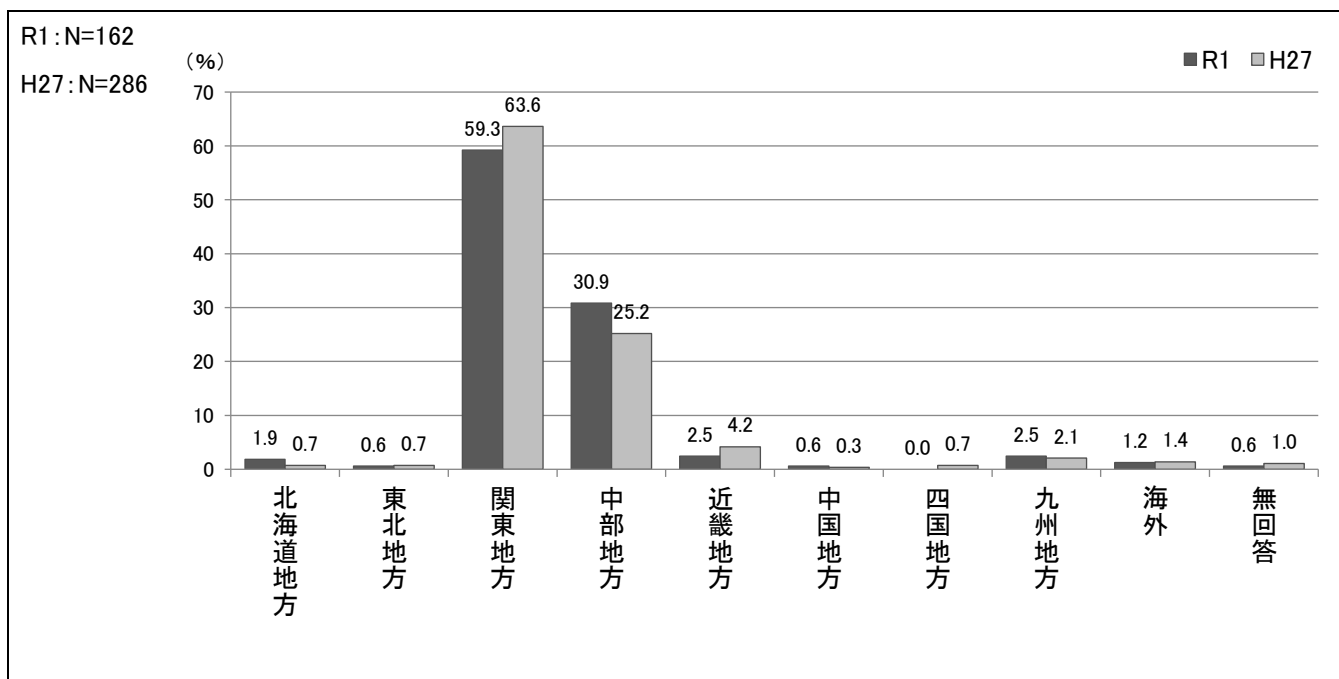


「伊東市外の出身で、出身地とは全く関係ない場所に転出した」が39.8%と約4割となっている。

2 転入（転出）前後の住まいについて

(15) 伊東市転入前の居住地域（○は1つ）

【転入者：問9】



伊東市転入前の居住地域は、「関東地方」が59.3%と最も多く、次いで「中部地方」の30.9%となっている。平成27年度と比べて大きな違いは見られない。

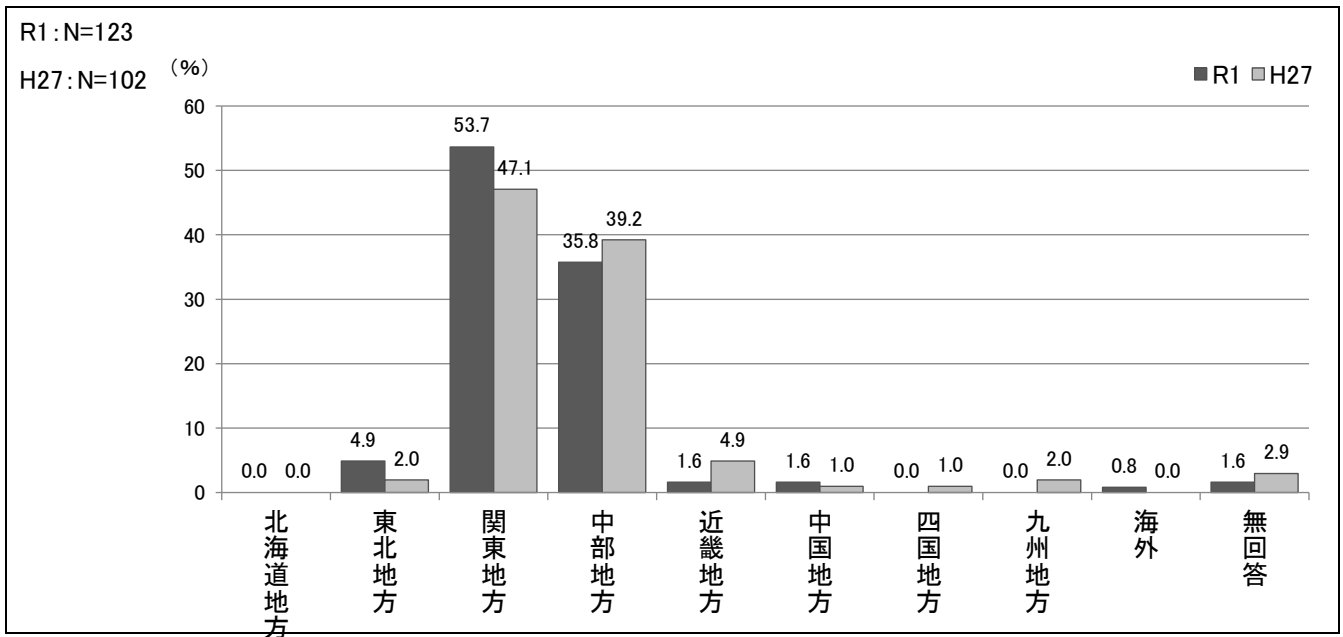
■伊東市転入前の居住地域の詳細

地方区分	都道府県名	H27		R1	
		人数	割合	人数	割合
北海道地方	北海道	2	0.7	3	1.9
	小計	2	0.7	3	1.9
東北地方	青森県	-	-	-	-
	岩手県	-	-	1	0.6
	宮城県	1	0.3	-	-
	秋田県	-	-	-	-
	山形県	1	0.3	-	-
	福島県	-	-	-	-
	小計	2	0.7	1	0.6
関東地方	茨城県	1	0.3	1	0.6
	栃木県	4	1.4	2	1.2
	群馬県	1	0.3	1	0.6
	埼玉県	23	8.0	11	6.8
	千葉県	13	4.5	9	5.6
	東京都	57	19.9	35	21.6
	神奈川県	83	29.0	37	22.8
	小計	182	63.6	96	59.3
中部地方	新潟県	1	0.3	1	0.6
	富山県	1	0.3	-	-
	石川県	1	0.3	1	0.6
	福井県	-	-	-	-
	山梨県	4	1.4	4	2.5
	長野県	2	0.7	6	3.7
	岐阜県	2	0.7	-	-
	静岡県	56	19.6	34	21.0
	愛知県	5	1.7	4	2.5
	小計	72	25.2	50	30.9

地方区分	都道府県名	H27		R1	
		人数	割合	人数	割合
近畿地方	三重県	1	0.3	1	0.6
	滋賀県	-	-	1	0.6
	京都府	2	0.7	-	-
	大阪府	3	1.0	1	0.6
	兵庫県	5	1.7	1	0.6
	奈良県	-	-	-	-
	和歌山県	1	0.3	-	-
小計	12	4.2	4	2.5	
中国地方	鳥取県	-	-	-	-
	島根県	-	-	-	-
	岡山県	-	-	1	0.6
	広島県	-	-	-	-
	山口県	1	0.3	-	-
	小計	1	0.3	1	0.6
四国地方	徳島県	-	-	-	-
	香川県	1	0.3	-	-
	愛媛県	-	-	-	-
	高知県	1	0.3	-	-
小計	2	0.7	-	-	
九州地方	福岡県	2	0.7	-	-
	佐賀県	-	-	-	-
	長崎県	-	-	1	0.6
	熊本県	-	-	-	-
	大分県	2	0.7	-	-
	宮崎県	-	-	-	-
	鹿児島県	1	0.3	1	0.6
	沖縄県	1	0.3	2	1.2
	小計	6	2.1	4	2.5
	海外	海外	4	1.4	2
小計		4	1.4	2	1.2
無回答		3	1.0	1	0.6
合計		286	100.0	162	100.0

(16) 伊東市転出後の居住地（○は1つ）

【転出者：問9】



伊東市転出後の居住地は、「関東地方」が53.7%と最も多く、次いで「中部地方」の35.8%となっている。平成27年度よりも、関東地方が6.6ポイント増加している。

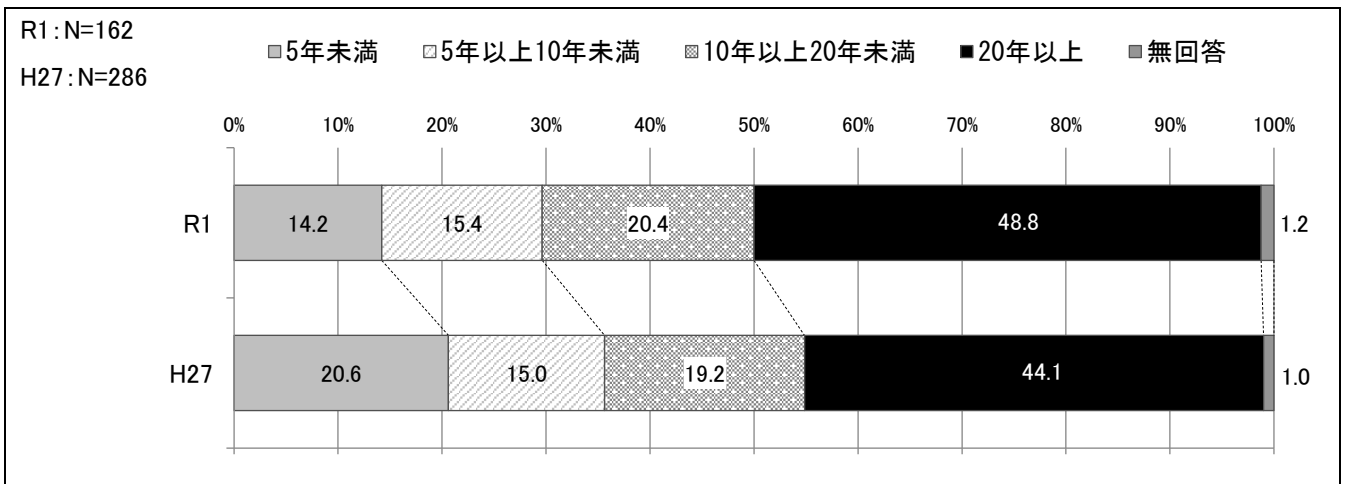
■伊東市転出後の居住地の詳細

地方区分	都道府県名	H27		R1	
		人数	割合	人数	割合
北海道地方	北海道	-	-	-	-0
	小計	-	-	-	-
東北地方	青森県	1	1.0	2	1.6
	岩手県	-	-	1	0.8
	宮城県	-	-	1	0.8
	秋田県	-	-	-	-
	山形県	1	1.0	1	0.8
	福島県	-	-	1	0.8
	小計	2	2.0	6	4.9
関東地方	茨城県	-	-	-	-
	栃木県	2	2.0	2	1.6
	群馬県	-	-	-	-
	埼玉県	2	2.0	10	8.1
	千葉県	3	2.9	3	2.4
	東京都	20	19.6	19	15.4
	神奈川県	21	20.6	32	26.0
	小計	48	47.1	66	53.7
中部地方	新潟県	-	-	-	-
	富山県	-	-	-	-
	石川県	-	-	-	-
	福井県	-	-	-	-
	山梨県	1	1.0	2	1.6
	長野県	-	-	-	-
	岐阜県	-	-	2	1.6
	静岡県	38	37.3	37	30.1
	愛知県	1	1.0	3	2.4
小計	40	39.2	44	35.8	

地方区分	都道府県名	H27		R1	
		人数	割合	人数	割合
近畿地方	三重県	1	1.0	1	0.8
	滋賀県	-	-	-	-
	京都府	-	-	-	-
	大阪府	2	2.0	-	-
	兵庫県	2	2.0	1	0.8
	奈良県	-	-	-	-
	和歌山県	-	-	-	-
小計	5	4.9	2	1.6	
中国地方	鳥取県	-	-	-	-
	島根県	-	-	1	0.8
	岡山県	1	1.0	-	-
	広島県	-	-	1	0.8
	山口県	-	-	-	-
	小計	1	1.0	2	1.6
四国地方	徳島県	-	-	-	-
	香川県	1	1.0	-	-
	愛媛県	-	-	-	-
	高知県	-	-	-	-
小計	1	1.0	-	-	
九州地方	福岡県	-	-	-	-
	佐賀県	1	1.0	-	-
	長崎県	-	-	-	-
	熊本県	-	-	-	-
	大分県	-	-	-	-
	宮崎県	1	1.0	-	-
	鹿児島県	-	-	-	-
	沖縄県	-	-	-	-
	小計	2	2.0	-	-
	海外	海外	-	-	1
小計		-	-	1	0.8
無回答		3	2.9	2	1.6
合計		102	100.0	123	100.0

(17) 転入前の前住地での居住年数（○は1つ）

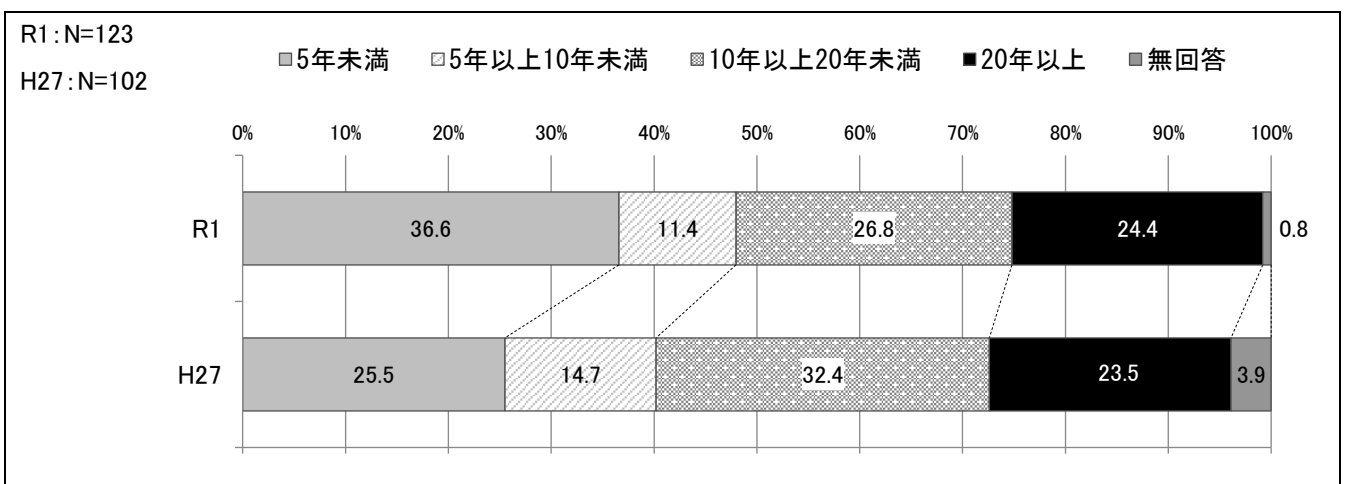
【転入者：問10】



転入前の前住地での居住年数は、「20年以上」が48.8%と半数近くを占めており、次いで「10年以上20年未満」の20.4%となっている。

(18) 転出前の伊東市での居住年数（○は1つ）

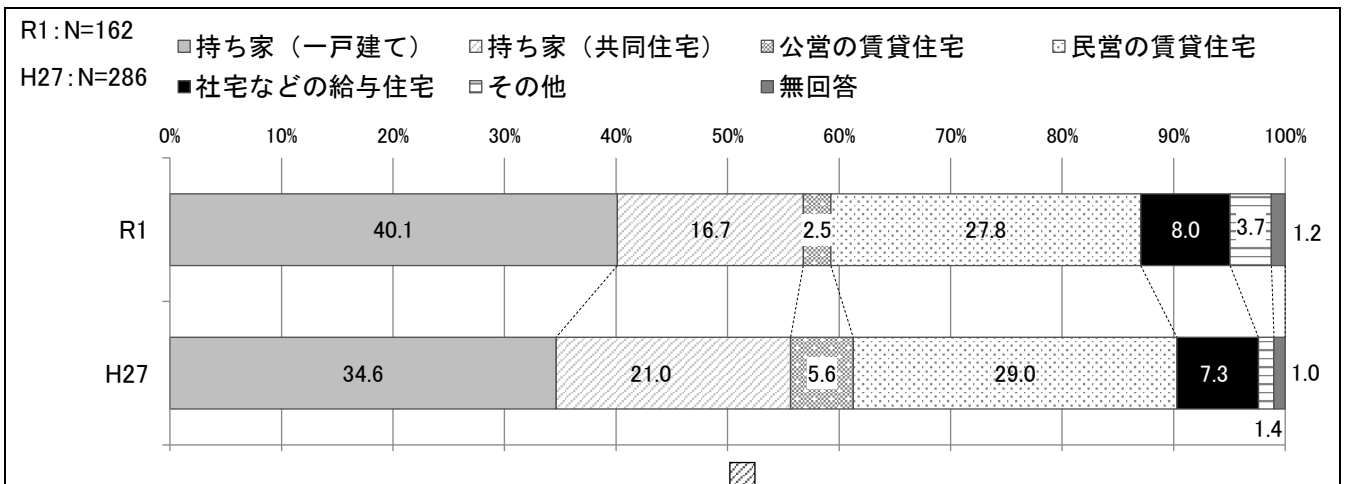
【転出者：問10】



転出前の伊東市での居住年数は、「5年未満」が36.6%と最も多く、平成27年に比べ、11.1ポイント増加している。

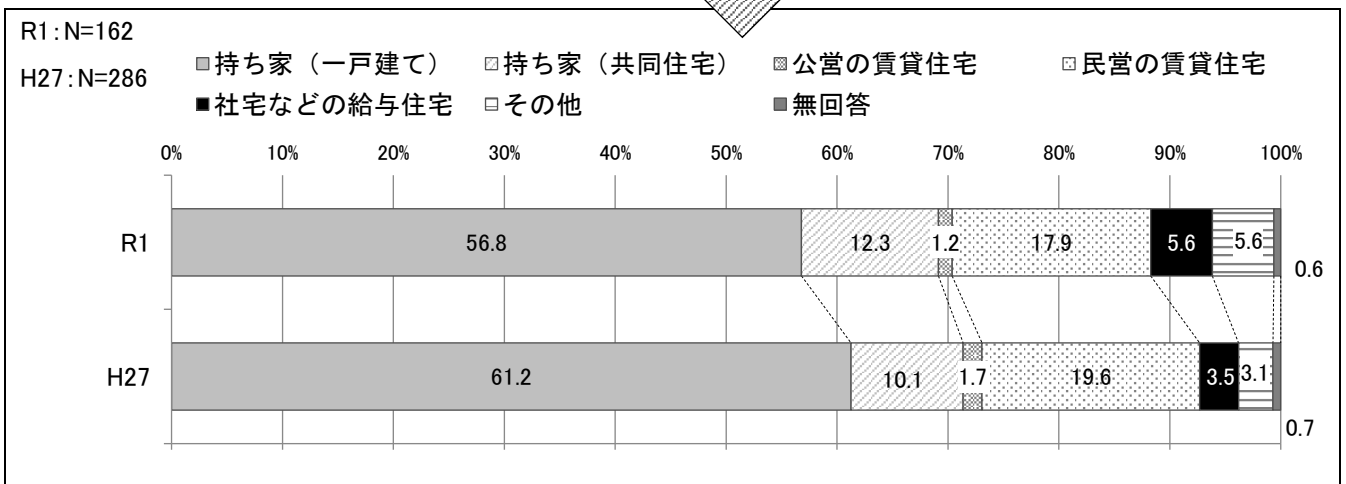
(19) 転入前の住宅の種類 (〇は1つ)

【転入者：問 11-1】



(20) 転入後の伊東市での住宅の種類 (〇は1つ)

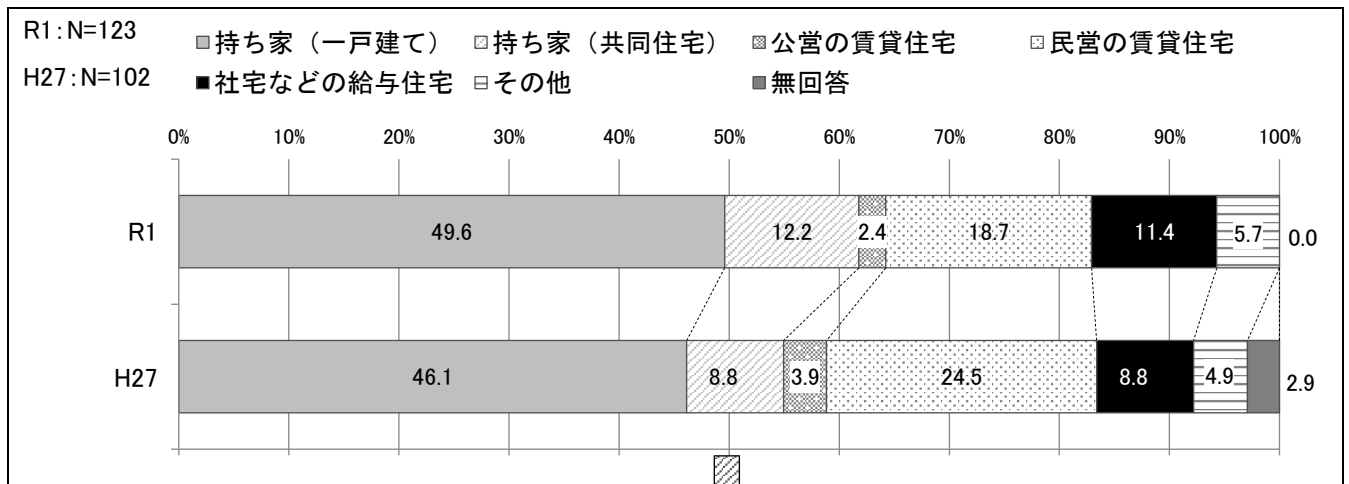
【転入者：問 11-2】



転入前は、「持ち家（一戸建て）」が40.1%であったのに対し、転入後の伊東市では56.8%と持ち家率が16.7ポイント上昇している。平成27年度の持ち家率の上昇幅は26.6ポイントと今回調査より大きかった。

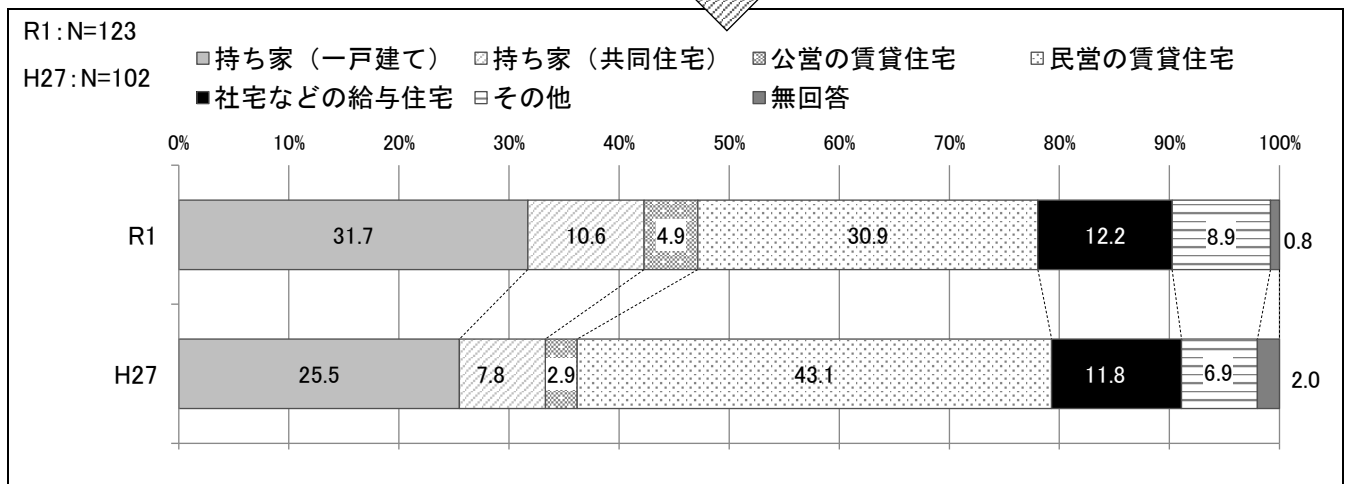
(21) 転出前の伊東市での住宅の種類 (〇は1つ)

【転出者：問 11-2】



(22) 転出後の住宅の種類 (〇は1つ)

【転出者：問 11-1】

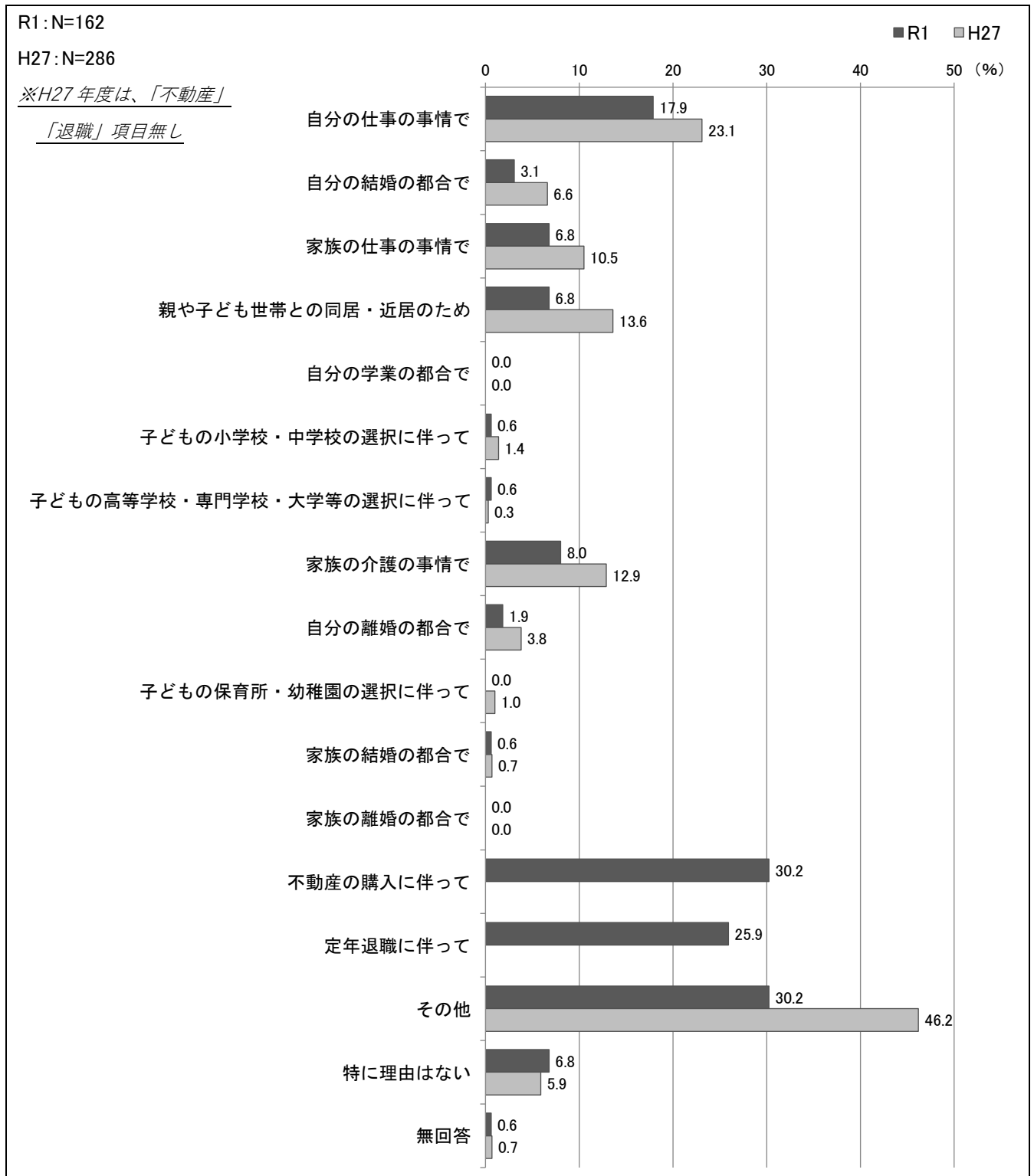


転出前の伊東市での住宅の種類は、「持ち家（一戸建て）」が49.6%と約半数を占めているが、転出後は31.7%と17.9ポイント減少している。

転出後の住宅の種類を平成27年度と比較すると、「持ち家（一戸建て）」が6.2ポイント増加したのに対し、「民間の賃貸住宅」は12.2ポイント減少している。

(23) 伊東市へ転入することになった自身を取り巻く環境の変化でのきっかけ (〇はいくつでも)

【転入者：問 12-1】

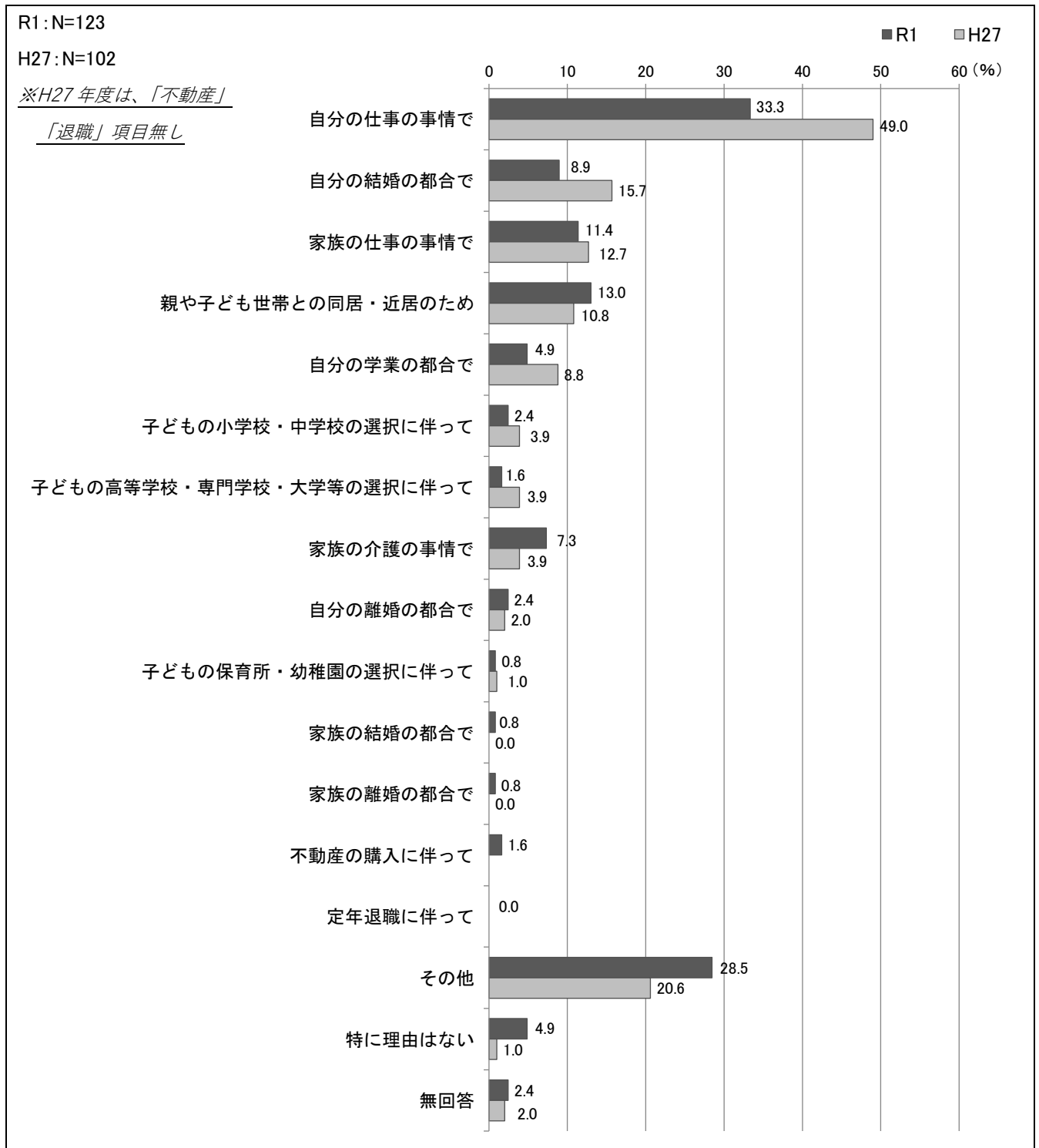


転入のきっかけとして、今回より追加した選択肢「不動産の購入に伴って」が30.2%、「定年退職に伴って」が25.9%と高くなっている。

【その他】 老人ホームへの入居、伊東市内に持ち家があった、健康上の理由 など

(24) 伊東市から転出することになった自身を取り巻く環境の変化でのきっかけ（〇はいくつでも）

【転出者：問 12-1】

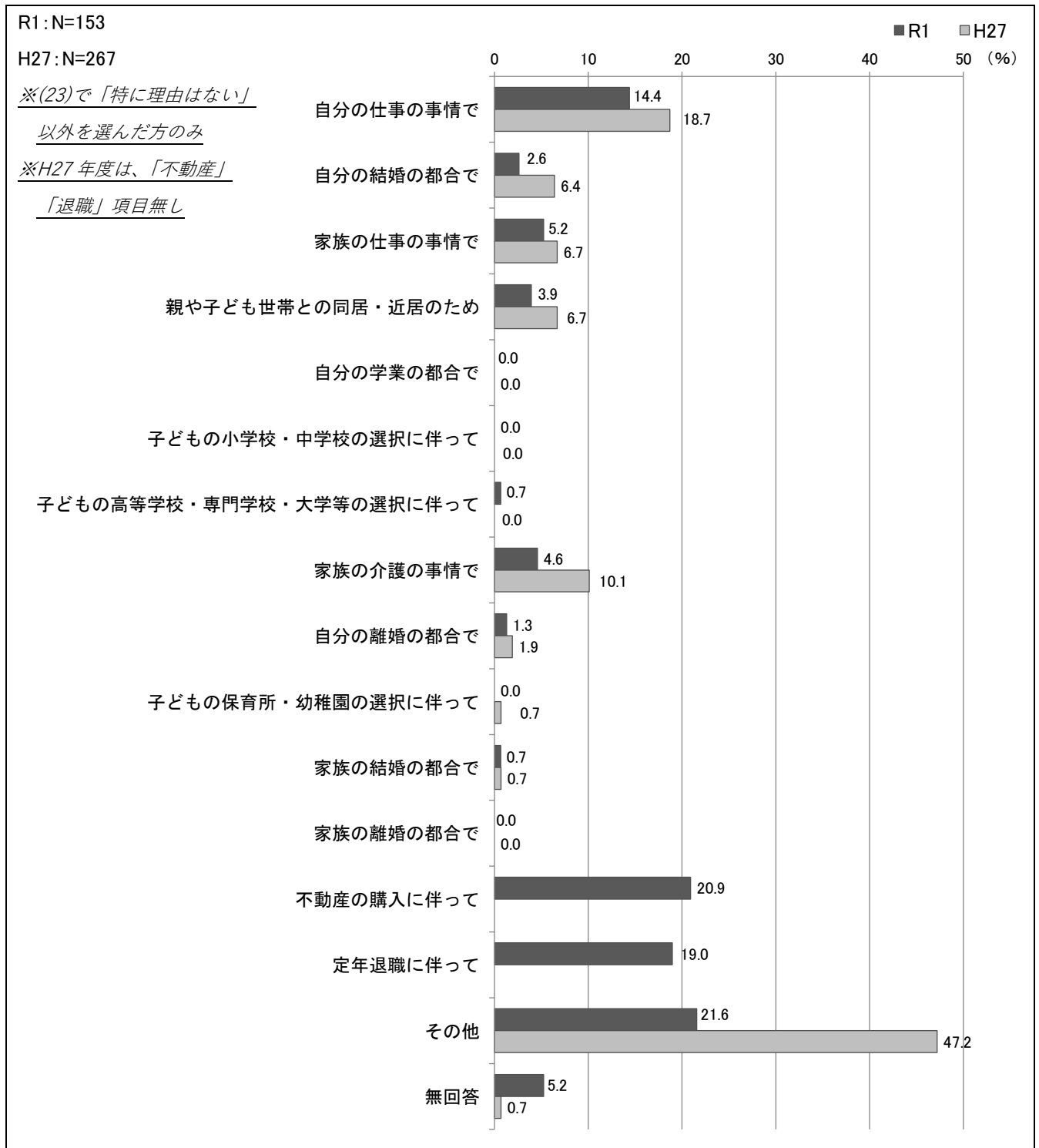


転出のきっかけは、「自分の仕事の事情で」が 33.3%と最も高くなっている。平成 27 年度と比較すると、15.7 ポイント減少している。

【その他】免許返納に伴い徒歩圏に病院がある場所へ転居した、実家に戻った など

(25) 伊東市へ転入することになった最大のきっかけ（〇は1つ）

【転入者：問 12-2】

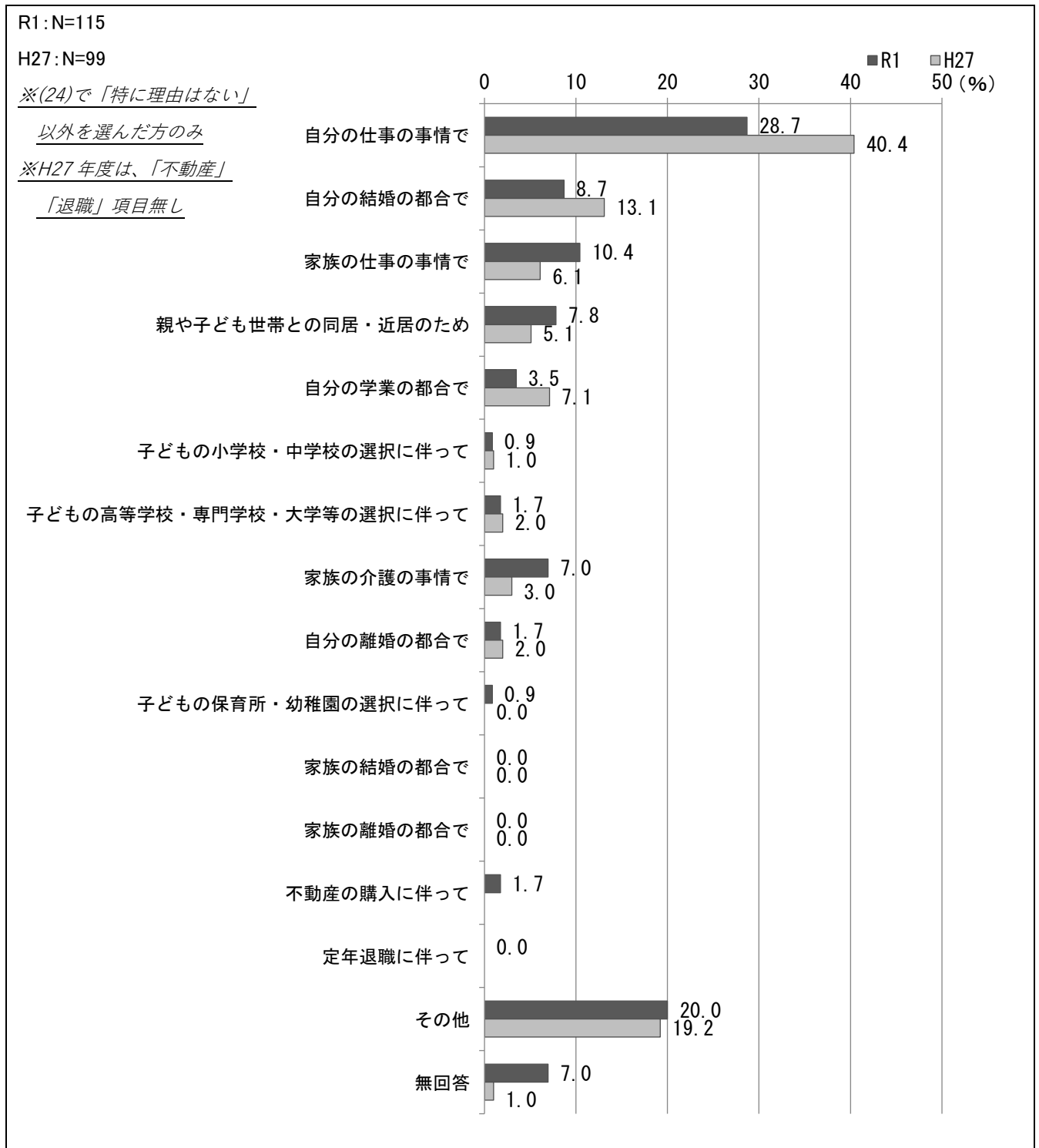


転入の最大のきっかけは、「不動産の購入に伴って」が20.9%、次いで「定年退職に伴って」の19.0%となっている。

【その他】老人ホームへの入居、再開発による立ち退き、健康上の理由 など

(26) 伊東市から転出することになった最大のきっかけ（〇はいくつでも）

【転出者：問 12-2】

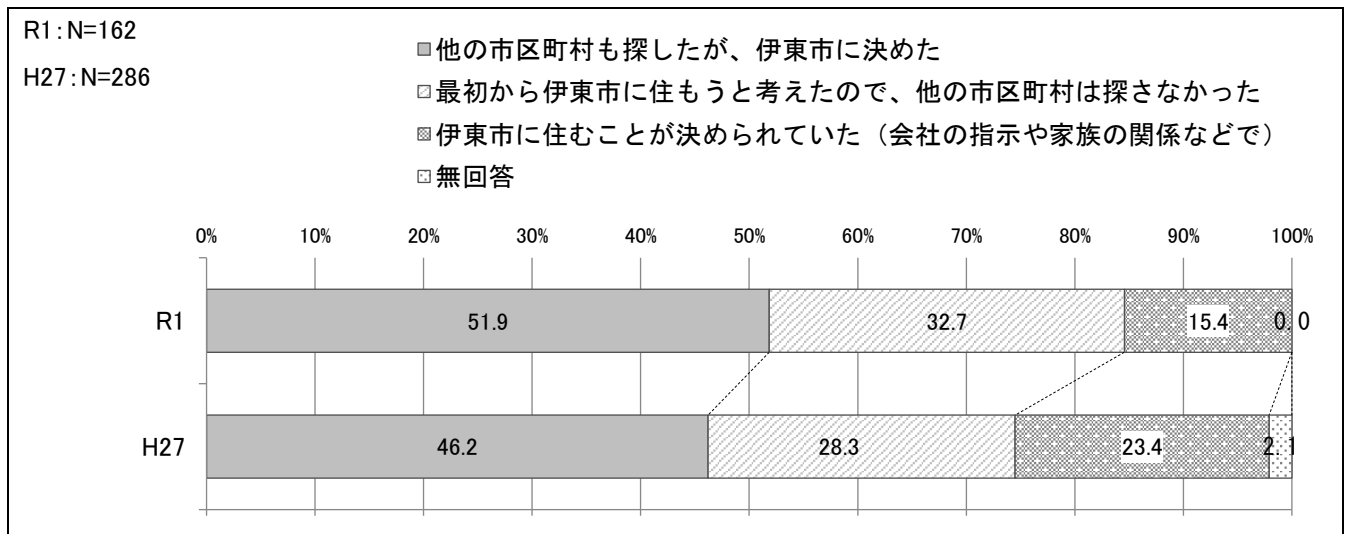


転出の最大のきっかけは、「自分の仕事の事情で」が 28.7%と最も高くなっているが、平成 27 年度と比較すると、11.7 ポイント減少している。

【その他】免許の返納に伴い便利な場所へ転居した、固定資産税が高い、健康上の理由 など

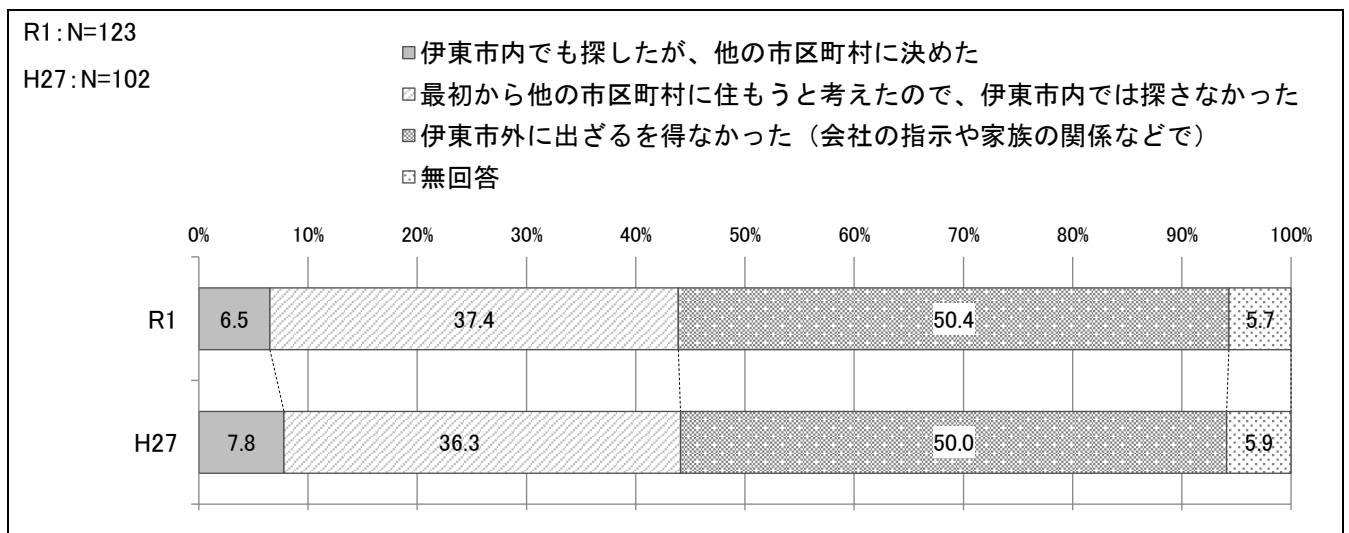
(27) 転入するにあたり、他の市区町村でも住まいを検討したか（○は1つ）

【転入者：問13】



転出するにあたり、伊東市内でも住まいを検討したか（○は1つ）

【転出者：問13】

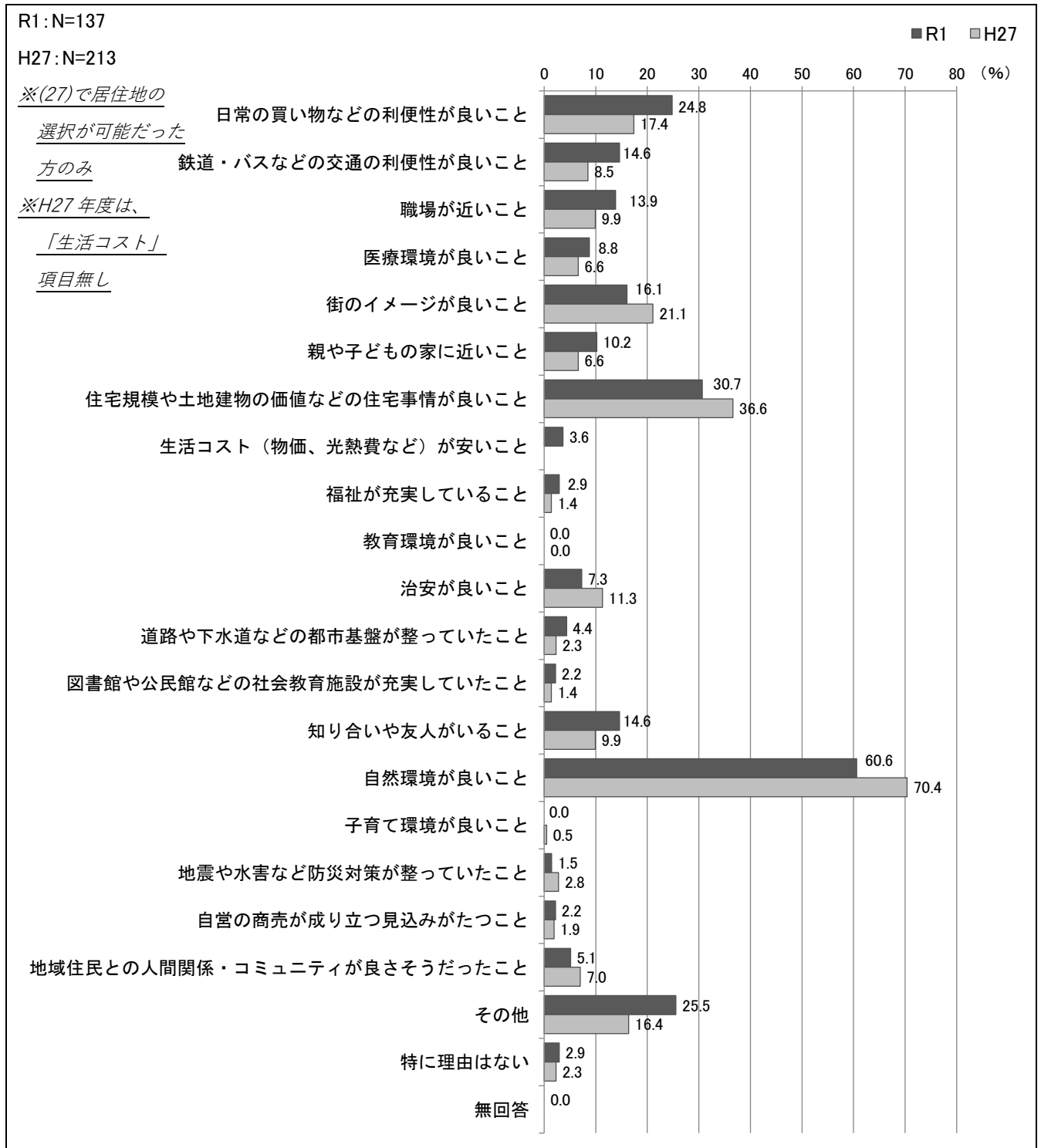


転入するにあたり、他の市区町村でも住まいを検討したかは、「伊東市内でも探したが、他の市区町村に決めた」が51.9%と最も高く、平成27年度よりも5.7ポイント高くなっている。

転出するにあたり、他の市区町村でも住まいを検討したかは、「伊東市外に出ざるを得なかった（会社の指示や家族の関係などで）」が50.4%と最も高く、平成27年度に比べ大きな変化は見られない。

(28) 伊東市を選んだ理由や重視した点 (〇はいくつでも)

【転入者：問 14-1】

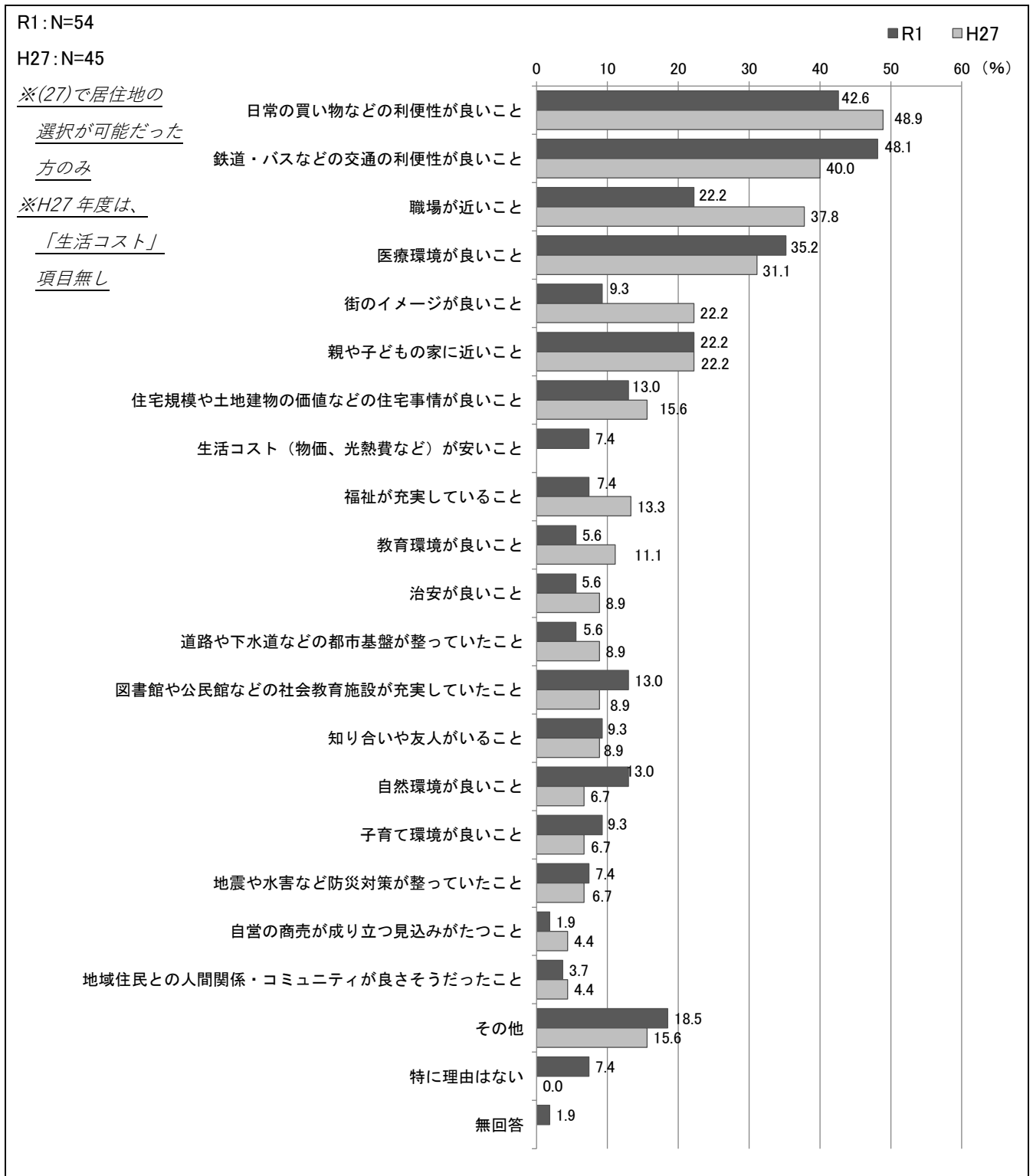


転入にあたり伊東市を選んだ理由や重視した点は、「自然環境が良いこと」が60.6%と最も高く、次いで「住宅規模や土地建物の価格などの住宅事情が良いこと」の30.7%、「日常の買い物などの利便性が良いこと」の24.8%と続いている。

【その他】温泉があること、気候が温暖であること、都心が近いこと など

現在の居住地である市区町村を選んだ理由や重視した点（〇はいくつでも）

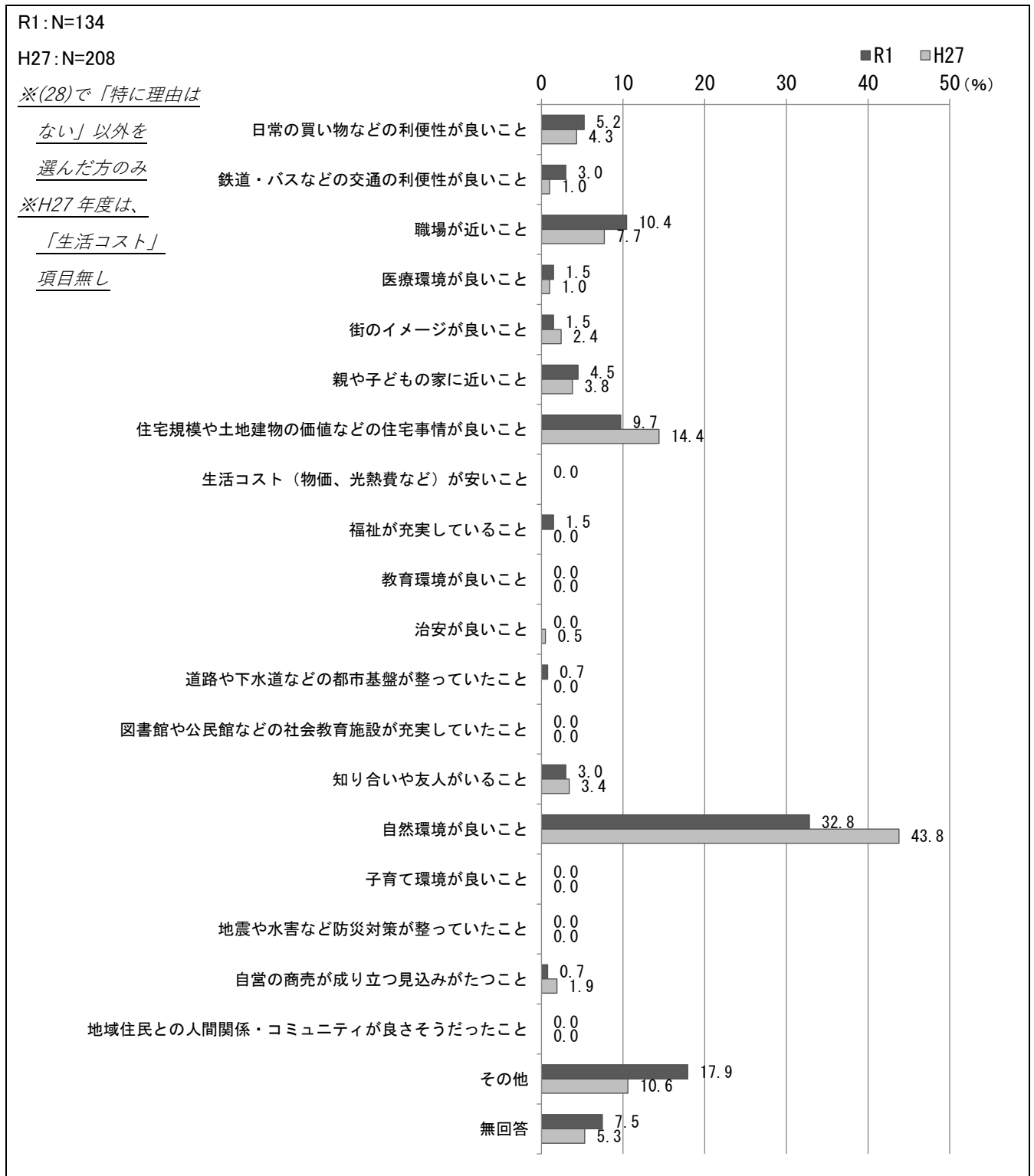
【転出者：問 14-1】



転出にあたり現在の居住地である市区町村を選んだ理由や重視した点は、「鉄道・バスなどの交通の利便性が良いこと」が48.1%、「日常の買い物などの利便性が良いこと」が42.6%、「医療環境が良いこと」が35.2%となっている。

(29) 伊東市を選んだ最も大きな理由や重視した点 (○は1つ)

【転入者：問 14-2】

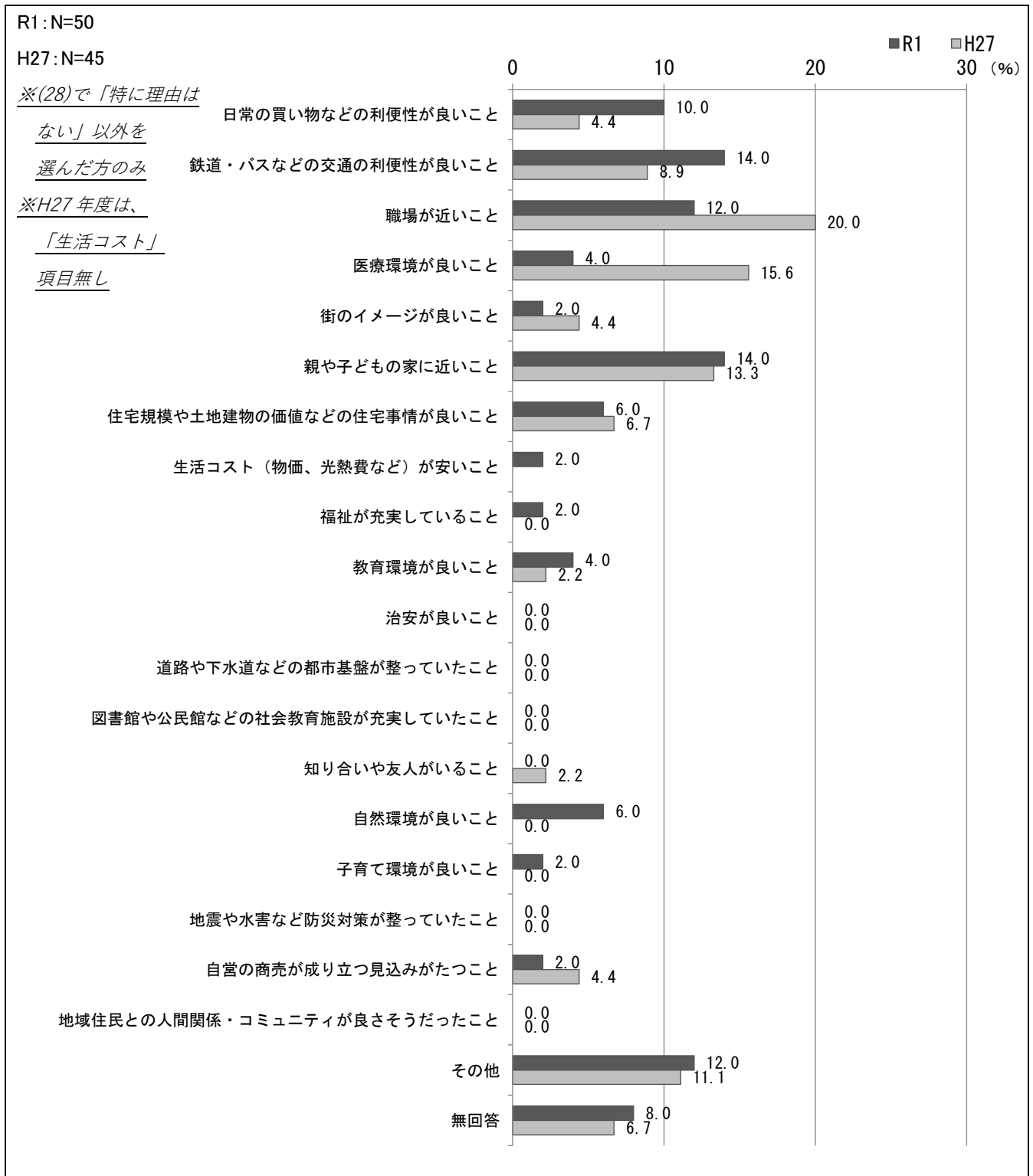


転入にあたり伊東市を選んだ最大の理由や重視した点は、「自然環境が良いこと」が32.8%と最も高くなっている。

【その他】別荘を所有していた、温泉がある など

現在の居住地である市区町村を選んだ最も大きな理由や重視した点（〇は1つ）

【転出者：問 14-2】



転出にあたり現在の居住地である市区町村を選んだ最大の理由や重視した点は、「鉄道・バスなどの交通の利便性が良いこと」と「親や子どもの家に近いこと」がともに14.0%となっている。次いで、「職場が近いこと」の12.0%となっている。

(30) 現在の住まいを決めるにあたり比較した地域（複数回答可）

【転入者：問15】

※(27)で「他の市区町村も探したが、伊東市に決めた」を選んだ方のみ

(人数：延べ人数、割合：%)

地方区分	都道府県名	H27		R1	
		人数	割合	人数	割合
北海道地方	北海道	3	2.3	-	-
	小計	3	2.3	0	0.0
東北地方	青森県	-	-	-	-
	岩手県	-	-	-	-
	宮城県	-	-	-	-
	秋田県	-	-	-	-
	山形県	-	-	-	-
	福島県	1	0.8	-	-
	小計	1	0.8	0	0.0
関東地方	茨城県	3	2.3	1	1.2
	栃木県	3	2.3	2	2.4
	群馬県	1	0.8	-	-
	埼玉県	3	2.3	3	3.6
	千葉県	28	21.2	19	22.6
	東京都	9	6.8	4	4.8
	神奈川県	45	34.1	20	23.8
	小計	92	69.7	49	58.3
中部地方	新潟県	-	-	1	1.2
	富山県	-	-	-	-
	石川県	-	-	-	-
	福井県	-	-	-	-
	山梨県	6	4.5	6	7.1
	長野県	7	5.3	6	7.1
	岐阜県	-	-	-	-
	静岡県	77	58.3	35	41.7
	愛知県	1	0.8	2	2.4
小計	91	68.9	50	59.5	

地方区分	都道府県名	H27		R1	
		人数	割合	人数	割合
近畿地方	三重県	3	2.3	2	2.4
	滋賀県	-	-	1	1.2
	京都府	1	0.8	2	2.4
	大阪府	-	-	-	-
	兵庫県	1	0.8	-	-
	奈良県	-	-	-	-
	和歌山県	1	0.8	-	-
小計	6	4.5	5	6.0	
中国地方	鳥取県	-	-	-	-
	島根県	-	-	-	-
	岡山県	1	0.8	-	-
	広島県	-	-	1	1.2
	山口県	-	-	-	-
	小計	1	0.8	1	1.2
四国地方	徳島県	-	-	-	-
	香川県	-	-	-	-
	愛媛県	-	-	-	-
	高知県	-	-	-	-
小計	0	0.0	0	0.0	
九州地方	福岡県	-	-	1	1.2
	佐賀県	-	-	-	-
	長崎県	-	-	2	2.4
	熊本県	1	0.8	1	1.2
	大分県	1	0.8	1	1.2
	宮崎県	-	-	0	-
	鹿児島県	-	-	1	1.2
	沖縄県	1	0.8	1	1.2
	小計	3	2.3	7	8.3
	海外	海外	-	-	1
小計		0	0.0	1	1.2
無回答		33	25.0	14	11.0
調査対象		132	-	84	-

転入者が現在の住まいを決めるにあたり比較した地域は、「中部地方」が50人、「関東地方」が49人となっており、平成27年度と同様の傾向となっている。

■現在の住まいを決めるにあたり比較した地域の詳細

【転入者】

都道府県名	市区町村(エリア)名	延べ人数
静岡県	熱海市	32
神奈川県	湯河原町	10
千葉県	館山市	5
神奈川県	三浦市	5
静岡県	東伊豆町	5
千葉県	(記入なし)	4
静岡県	三島市	4
神奈川県	小田原市	3
神奈川県	横浜市	3
静岡県	下田市	3
栃木県	那須町	2
千葉県	御宿町	2
千葉県	勝浦町	2
千葉県	南房総市	2
神奈川県	秦野市	2
神奈川県	葉山町	2
山梨県	甲府市	2
山梨県	北杜市	2
山梨県	八ヶ岳	2
長野県	(記入なし)	2
静岡県	伊豆市	2
静岡県	函南町	2
愛知県	知多市	2
宮城県	仙台市	1
茨城県	鹿嶋市	1
埼玉県	狭山市	1
埼玉県	所沢市	1
埼玉県	川越市	1
千葉県	勝山市	1
千葉県	佐倉市	1
千葉県	山武市	1
千葉県	いすみ市	1
千葉県	君津市	1
千葉県	富津市	1
千葉県	成田市	1
千葉県	房総半島	1
千葉県	印西市	1
東京都	国分寺市	1
東京都	練馬区	1
東京都	八王子市	1
東京都	北区	1
神奈川県	箱根町	1
神奈川県	(記入なし)	1
神奈川県	伊勢原市	1
新潟県	新潟市	1

都道府県名	市区町村(エリア)名	延べ人数
山梨県	上野原市	1
長野県	須坂市	1
長野県	伊那市	1
長野県	上田市	1
長野県	青木村	1
長野県	佐久市	1
静岡県	沼津市	1
静岡県	河津町	1
静岡県	三ヶ日町	1
静岡県	浜松市	1
静岡県	(記入なし)	1
愛知県	名古屋市	1
愛知県	南知多町	1
三重県	伊賀市	1
三重県	紀北町	1
滋賀県	(記入なし)	1
京都府	京都市	1
京都府	宇治市	1
広島県	広島市	1
広島県	呉市	1
香川県	高松市	1
福岡県	(福岡市)西区	1
福岡県	宗像市	1
福岡県	福津市	1
福岡県	久留米市	1
佐賀県	佐賀市	1
長崎県	長崎市	1
長崎県	佐世保市	1
熊本県	阿蘇市	1
大分県	別府市	1
鹿児島県	出水市	1
沖縄県	(記入なし)	1
フィリピン	ペナン島	1

現在の住まいを決めるにあたり比較した地域（複数回答可）

【転出者：問 15】

※(27)で「伊東市内でも探したが、他の市区町村に決めた」「最初から他の市区町村に住もうと考えたので、伊東市内では探さなかった」を選んだ方のみ

(人数：延べ人数、割合：%)

地方区分	都道府県名	H27		R1	
		人数	割合	人数	割合
北海道地方	北海道	-	-	-	-
	小計	0	0.0	0	0.0
東北地方	青森県	-	-	-	-
	岩手県	-	-	-	-
	宮城県	-	-	-	-
	秋田県	-	-	-	-
	山形県	-	-	-	-
	福島県	-	-	-	-
	小計	0	0.0	0	0.0
関東地方	茨城県	-	-	-	-
	栃木県	1	2.2	-	-
	群馬県	-	-	-	-
	埼玉県	-	-	5	9.3
	千葉県	1	2.2	1	1.9
	東京都	5	11.1	7	13.0
	神奈川県	9	20.0	9	16.7
	小計	16	35.6	22	40.7
中部地方	新潟県	-	-	-	-
	富山県	-	-	-	-
	石川県	-	-	-	-
	福井県	-	-	-	-
	山梨県	1	2.2	-	-
	長野県	-	-	-	-
	岐阜県	-	-	-	-
	静岡県	25	55.6	24	44.4
	愛知県	-	-	-	-
小計	26	57.8	24	44.4	

地方区分	都道府県名	H27		R1	
		人数	割合	人数	割合
近畿地方	三重県	-	-	-	-
	滋賀県	-	-	-	-
	京都府	-	-	-	-
	大阪府	-	-	-	-
	兵庫県	1	2.2	-	-
	奈良県	-	-	-	-
	和歌山県	-	-	-	-
小計	1	2.2	0	0.0	
中国地方	鳥取県	-	-	-	-
	島根県	-	-	-	-
	岡山県	-	-	-	-
	広島県	-	-	-	-
	山口県	-	-	-	-
	小計	0	0.0	0	0.0
四国地方	徳島県	-	-	-	-
	香川県	1	2.2	-	-
	愛媛県	1	2.2	-	-
	高知県	-	-	-	-
小計	2	4.4	0	0.0	
九州地方	福岡県	-	-	-	-
	佐賀県	-	-	-	-
	長崎県	-	-	-	-
	熊本県	-	-	-	-
	大分県	-	-	-	-
	宮崎県	-	-	-	-
	鹿児島県	-	-	-	-
	沖縄県	-	-	-	-
	小計	0	0.0	0	0.0
	海外	海外	-	-	-
小計	0	0.0	0	0.0	
無回答		19	42.2	24	44.4
調査対象		45	-	54	-

転出者が現在の住まいを決めるにあたり比較した地域は、「関東地方」が 22 人、「中部地方」が 24 人となっており、平成 27 年度と同様の傾向となっている。

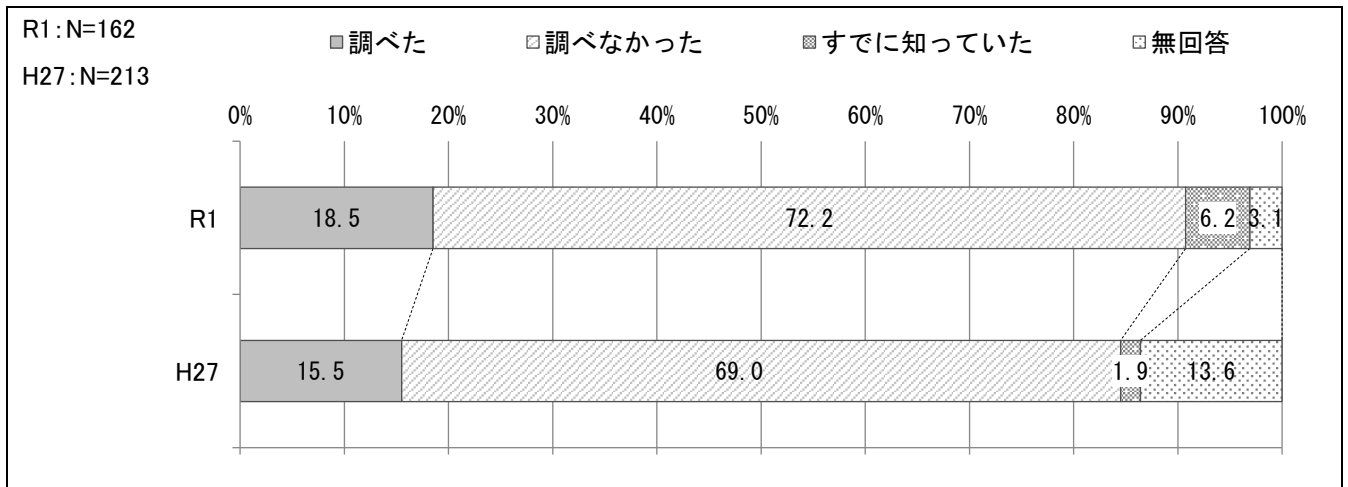
■現在の住まいを決めるにあたり比較した地域の詳細

【転出者】

都道府県名	市区町村(エリア)名	延べ人数
静岡県	熱海市	4
埼玉県	(記入なし)	3
神奈川県	小田原市	3
神奈川県	(記入なし)	3
静岡県	静岡市	3
静岡県	御殿場市	3
静岡県	長泉町	3
静岡県	三島市	3
東京都	(記入なし)	2
神奈川県	横浜市	2
静岡県	伊東市	2
静岡県	東伊豆町	2
静岡県	南伊豆町	2
埼玉県	桶川市	1
埼玉県	上尾市	1
千葉県	(記入なし)	1
東京都	品川区	1
東京都	世田谷区	1
東京都	調布市	1
東京都	町田市	1
東京都	板橋区	1
東京都	荒川区	1
神奈川県	大磯町	1
神奈川県	南足柄市	1
神奈川県	二宮町	1
静岡県	下田市	1
静岡県	清水町	1
静岡県	沼津市	1
静岡県	西伊豆町	1
静岡県	伊豆半島	1

(31) 伊東市を転居先を選ぶときに、伊東市の行政サービスや制度を調べたか（○は1つ）

【転入者：問16】

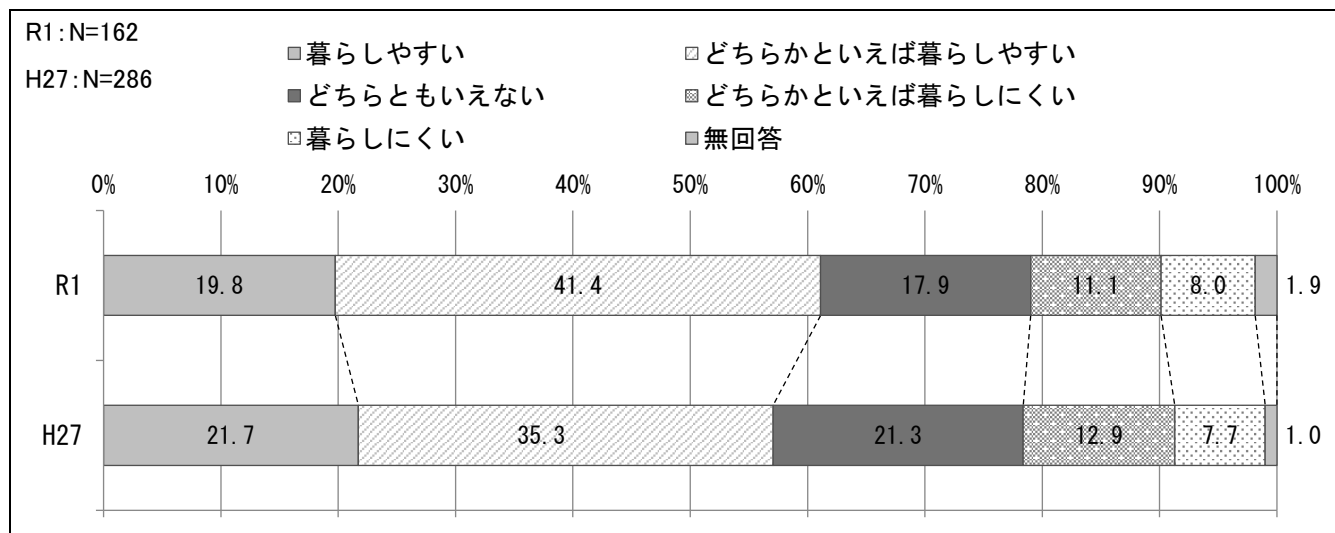


転入にあたり伊東市の行政サービス制度を調べたかは、「調べなかった」が72.2%と最も高く、「調べた」は18.5%、「すでに知っていた」が6.2%となっている。

3 転入（転出）して感じたことについて

(32) 伊東市の暮らしやすさ（○は1つ）

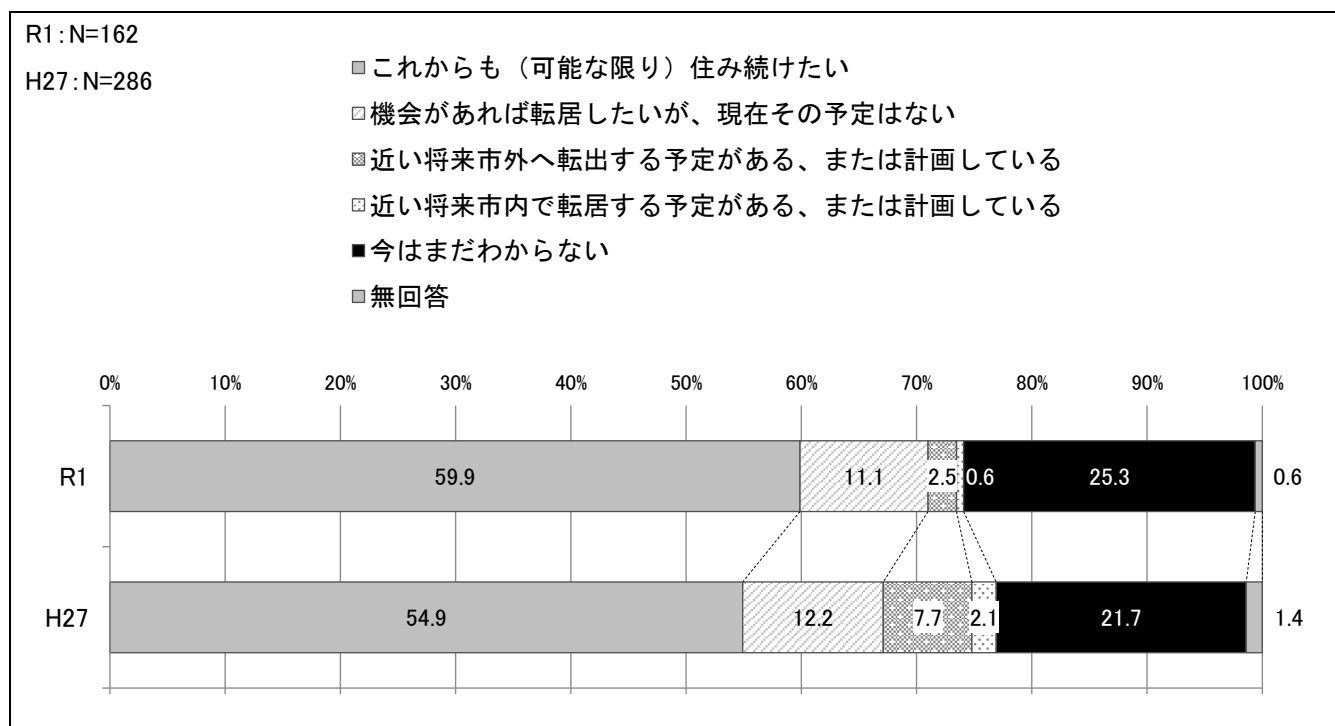
【転入者：問17】



転入者の伊東市の暮らしやすさは、「どちらかといえば暮らしやすい」が41.4%、次いで「暮らしやすい」の19.8%となっている。

(33) 今後も伊東市に住み続けたいと思うか（○は1つ）

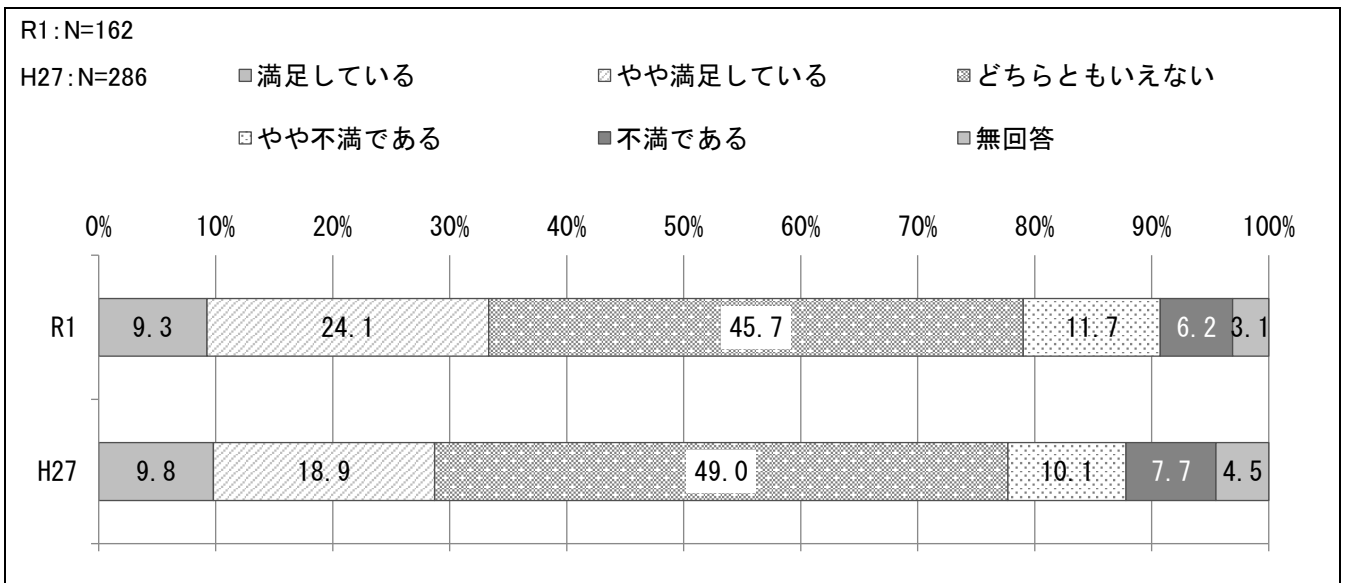
【転入者：問18】



転入者が今後も伊東市に住み続けたいと思うかは、「これからも（可能な限り）住み続けたい」が59.9%と約6割を占めている。

(34) 伊東市の行政施策全般についての満足度 (〇は1つ)

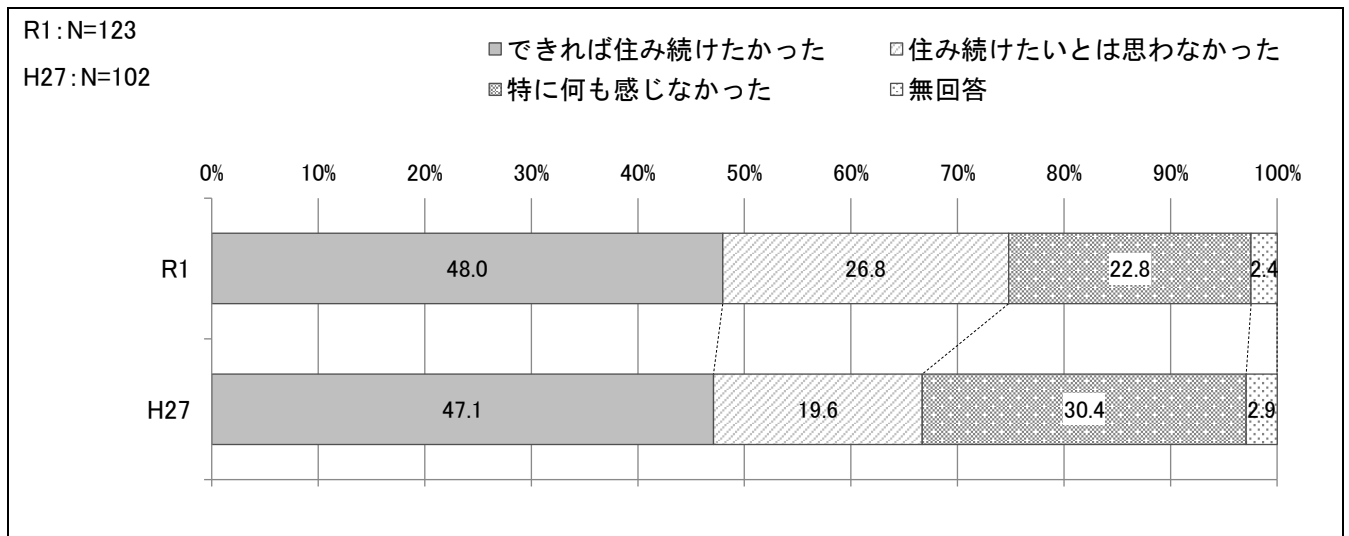
【転入者：問19】



転入者の伊東市の行政施策全般についての満足度は、「どちらともいえない」が45.7%と最も高く、『満足している』（満足している+やや満足している）が33.4%、『不満である』（不満である+やや不満である）が17.9%となっている。平成27年度に比べ『満足している』は5.6ポイント増加している。

(35) 伊東市を転出した時の気持ち (○は1つ)

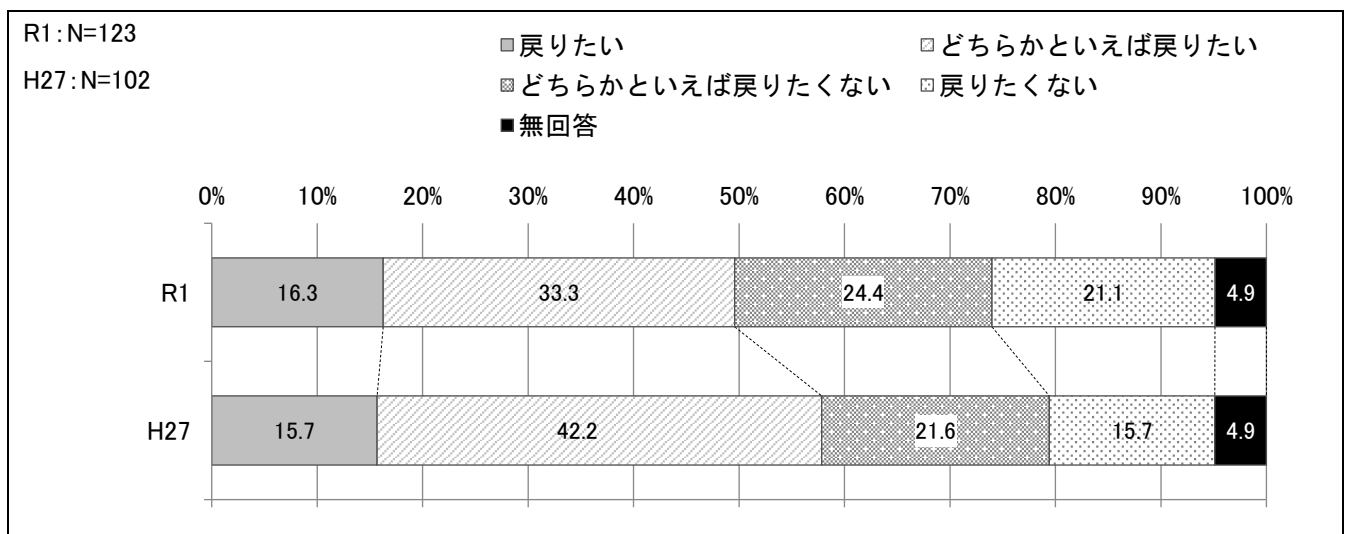
【転出者：問16】



転出者が伊東市を転出した時の気持ちは、「できれば住み続けたかった」が48.0%、「住み続けたいとは思わなかった」が26.8%となっている。

(36) 機会があれば伊東市に戻りたいと思うか (○は1つ)

【転出者：問17】

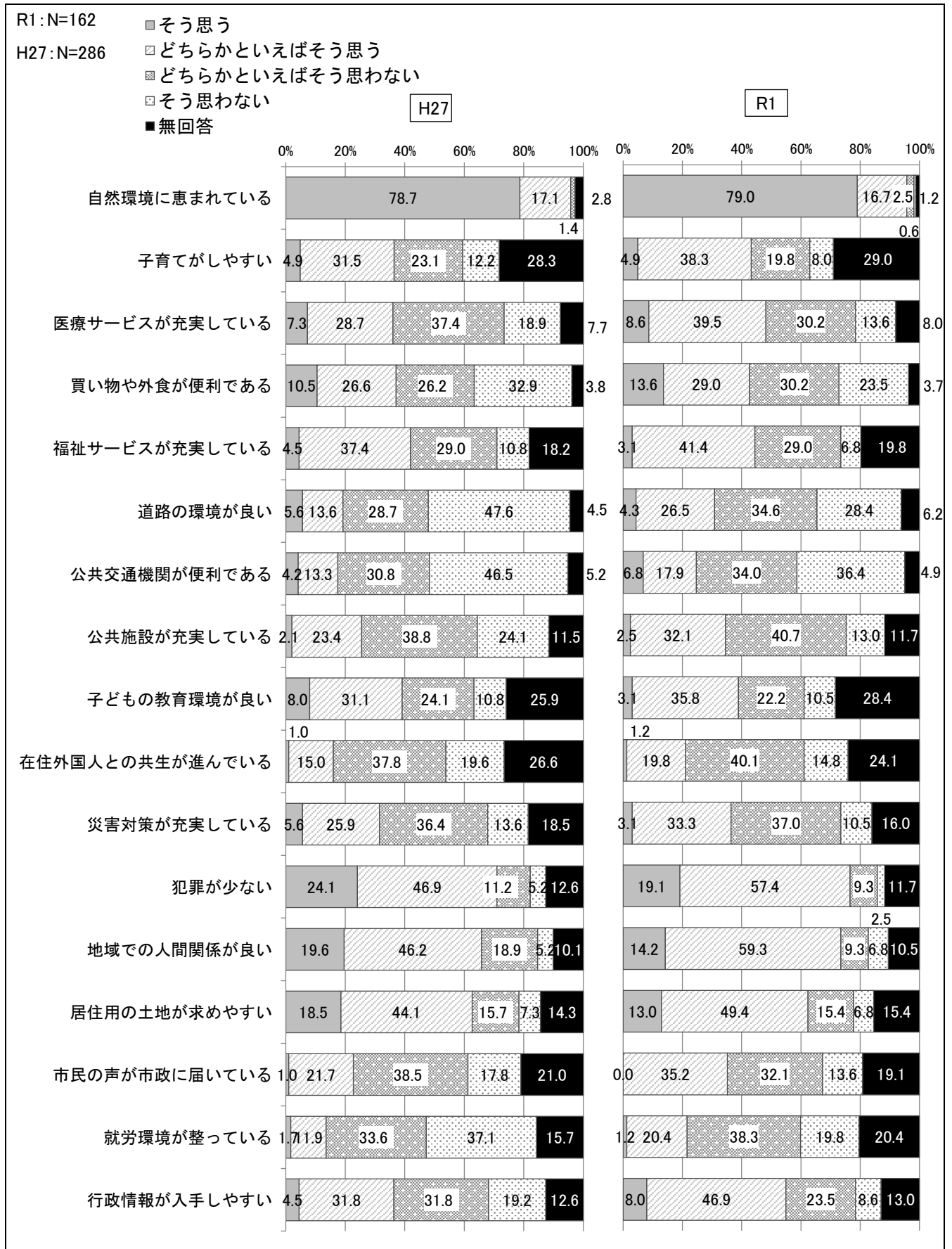


転出者が機会があれば伊東市に戻りたいと思うかは、「どちらかといえば戻りたい」が33.3%と最も多く、『戻りたい』(戻りたい+どちらかといえば戻りたい)が49.6%、『戻りたくない』(戻りたくない+どちらかといえば戻りたくない)が45.5%となっている。

平成27年度と比較すると、『戻りたい』は8.3ポイント減少、『戻りたくない』は8.2ポイント増加している。

(37) 伊東市の環境についてどう思うか (〇は1つずつ)

【転入者：問 20】

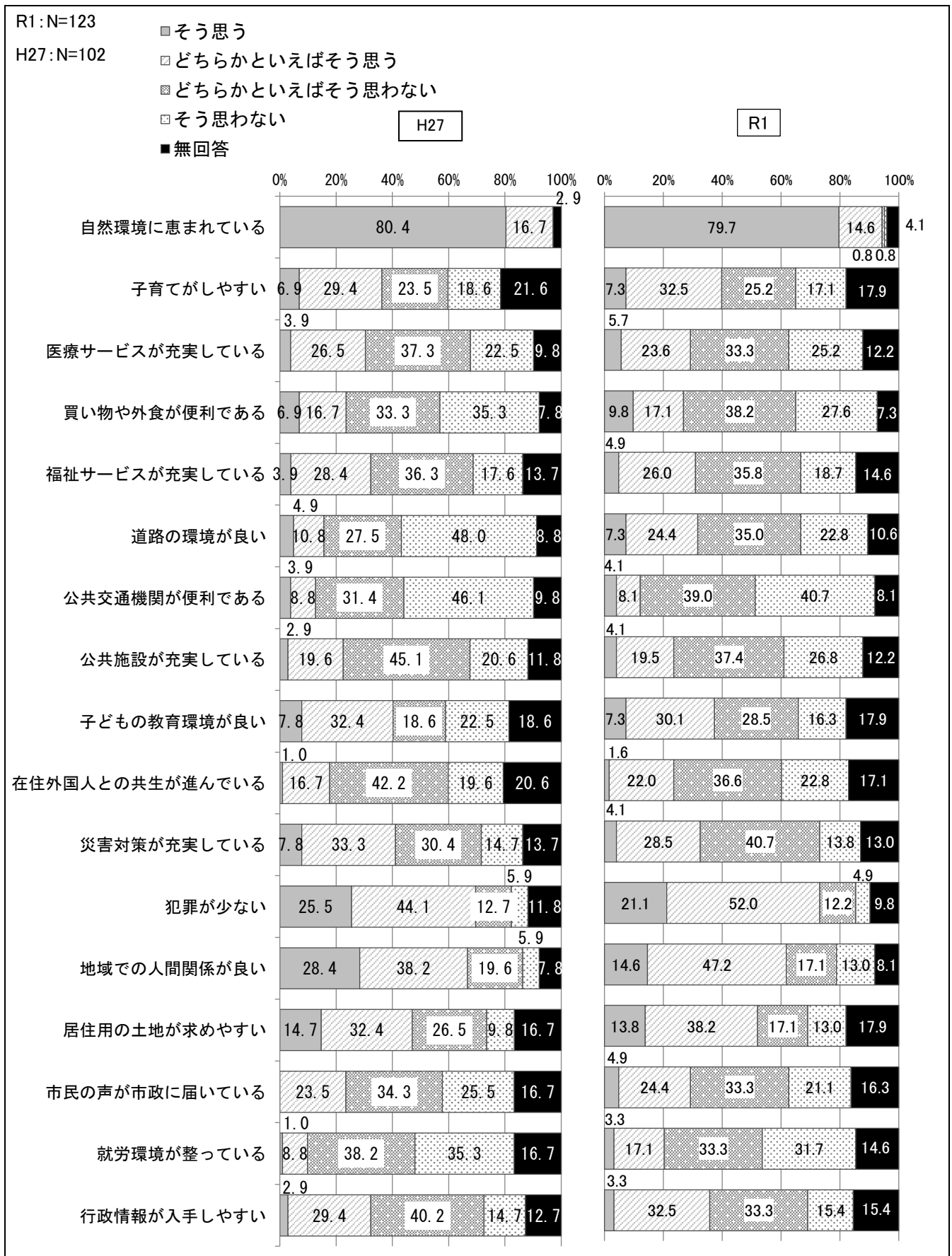


転入者では、伊東市の環境について【自然環境に恵まれている】において、「そう思う」が78.7%と最も高く、平成27年度と同様の傾向にある。

【道路の環境が良い】、【公共交通機関が便利である】、【就労環境が整っている】において、「そうは思わない」がそれぞれ28.4%、36.4%、19.8%と高くなっているものの、平成27年度と比較すると、それぞれ19.2ポイント、10.1ポイント、17.3ポイント減少している。

伊東市の環境についてどう思うか（〇は1つずつ）

【転出者：問18】

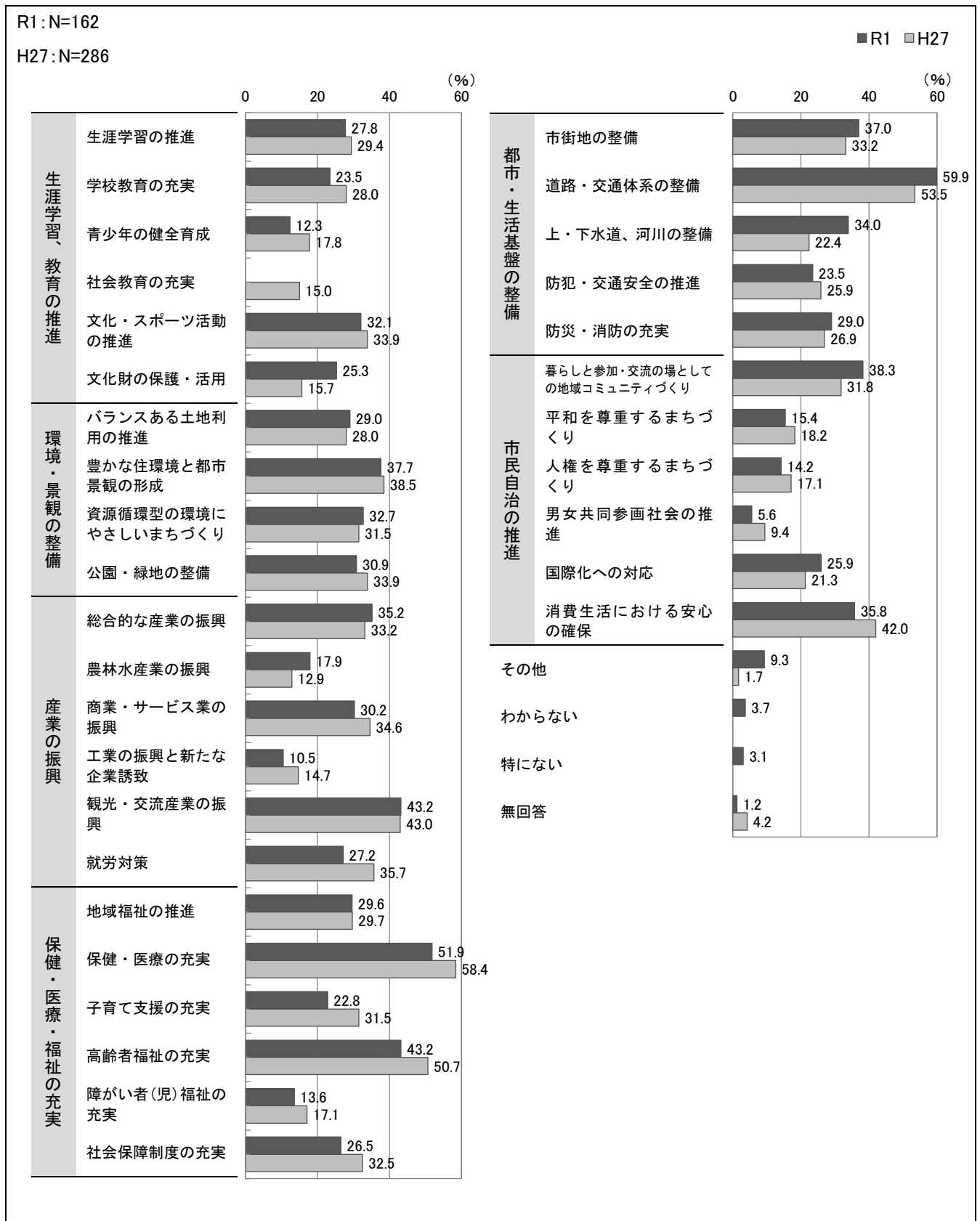


転出者では、伊東市の環境について【自然環境に恵まれている】において、「そう思う」が79.7%と最も高く、平成27年度と同様の傾向にある。【犯罪が少ない】においても、「そう思う」が21.1%と高くなっている。

一方、【道路の環境が良い】と【公共交通機関が便利である】において、「そうは思わない」がそれぞれ22.8%、40.7%と高くなっている。特に【道路環境が良い】については、平成27年度と比較すると、「そうは思わない」が25.2ポイントと大幅に減少している。

(38) 伊東市が「魅力あるまち」になるために必要な施策（〇はいくつでも）

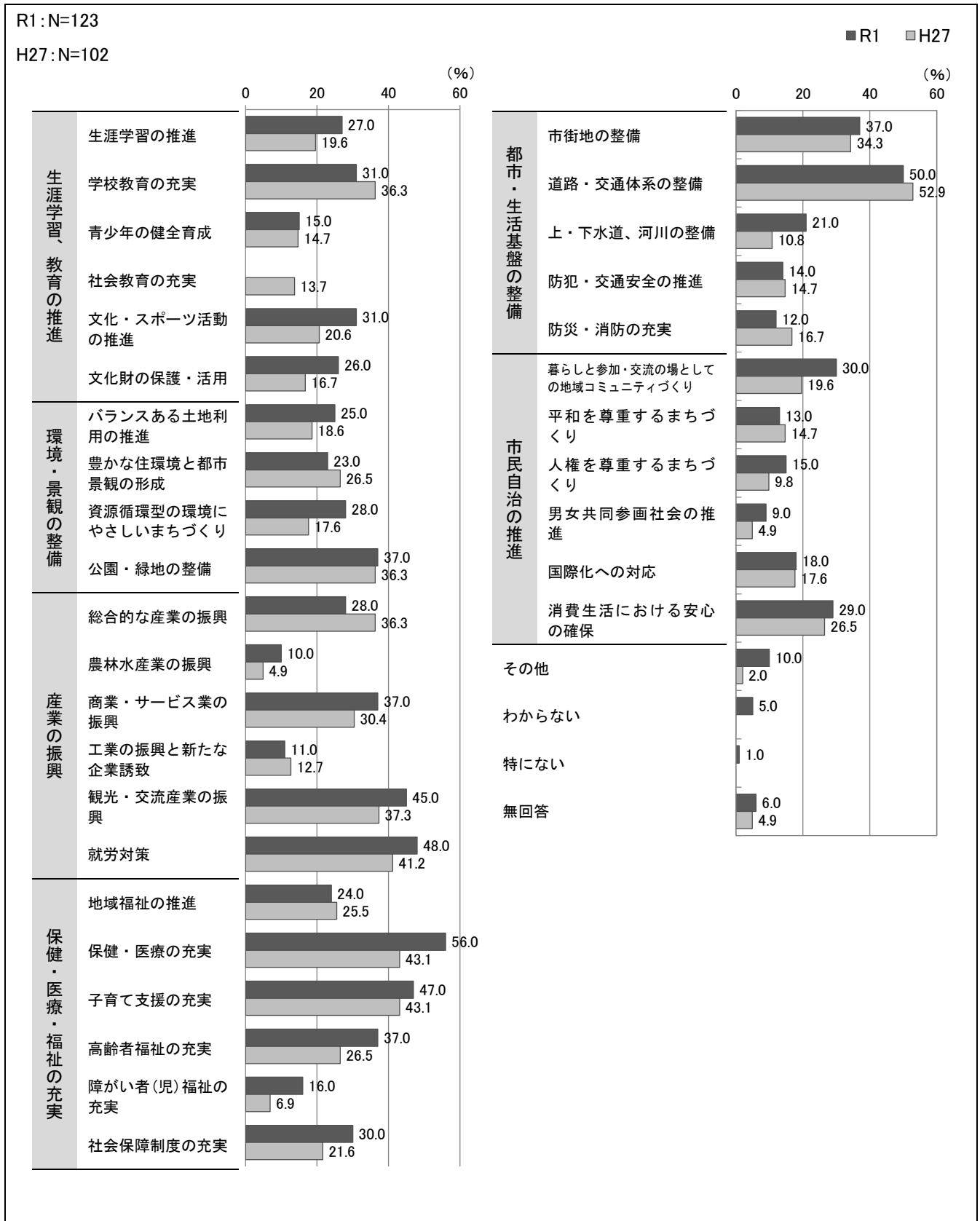
【転入者：問 21】



転入者が考える伊東市が「魅力あるまち」になるために必要な施策は、「道路・交通体系の整備」が 59.9%、次いで「保健・医療の充実」の 51.9%となっている。

伊東市が「魅力あるまち」になるために必要な施策（〇はいくつでも）

【転出者：問 19】

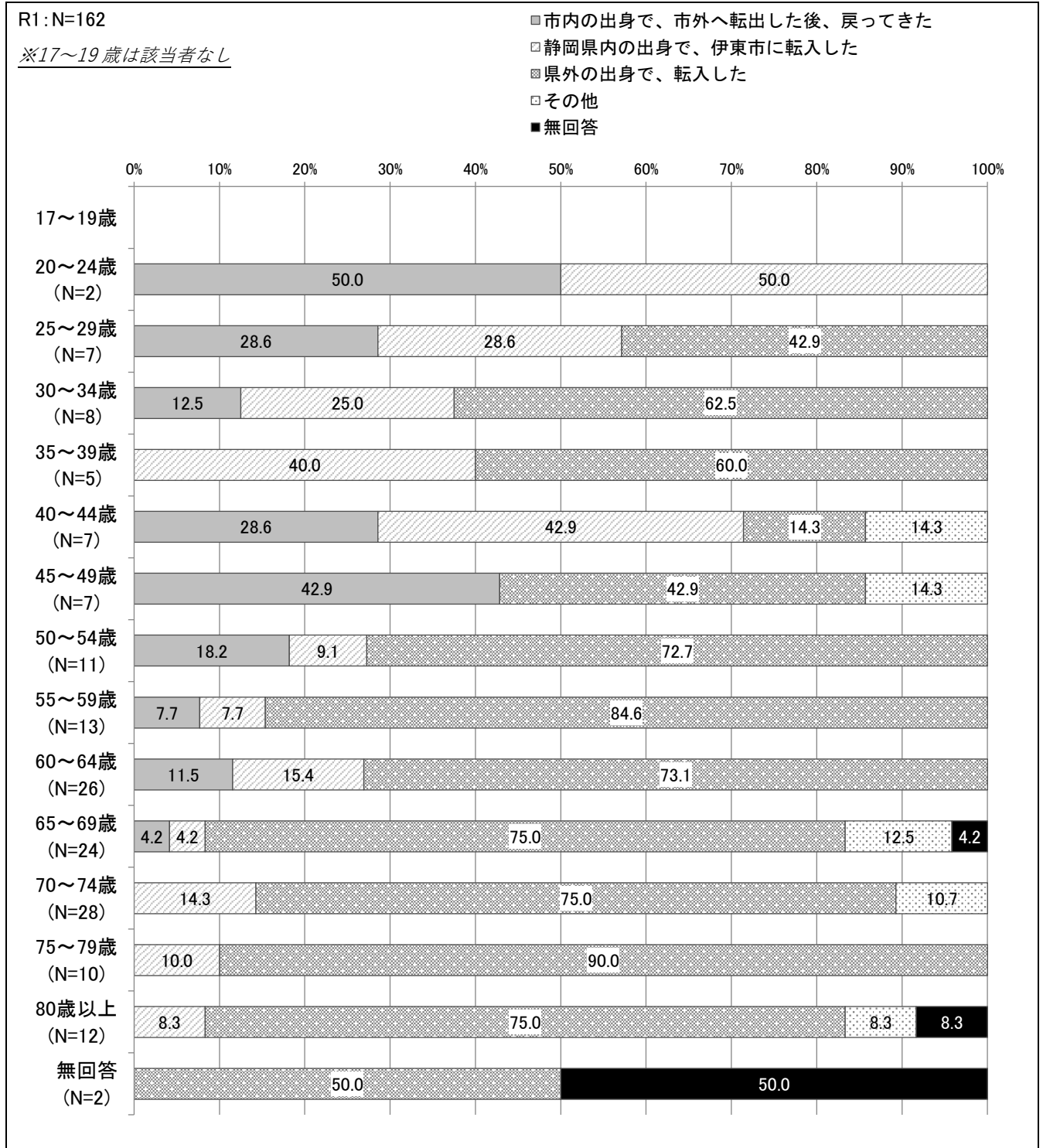


転出者が考える伊東市が「魅力あるまち」になるために必要な施策は、「保健・医療の充実」が56.0%と最も高く、「道路・交通体系の整備」が50.0%、「子育て支援の充実」47.0%と続いている。

4 クロス集計

(39) 年齢別・出身地と伊東市の関係性

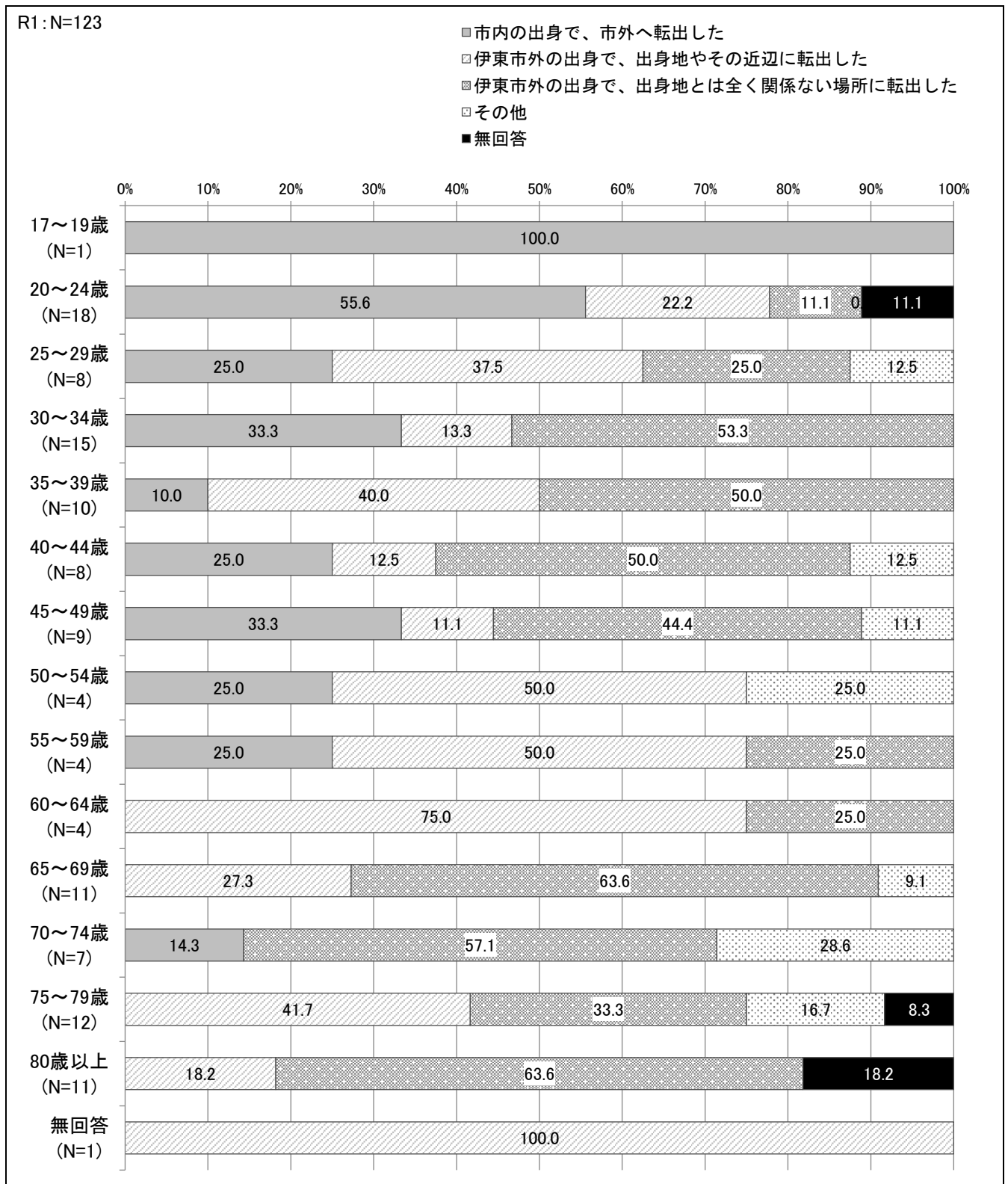
【転入者：問2×問8】



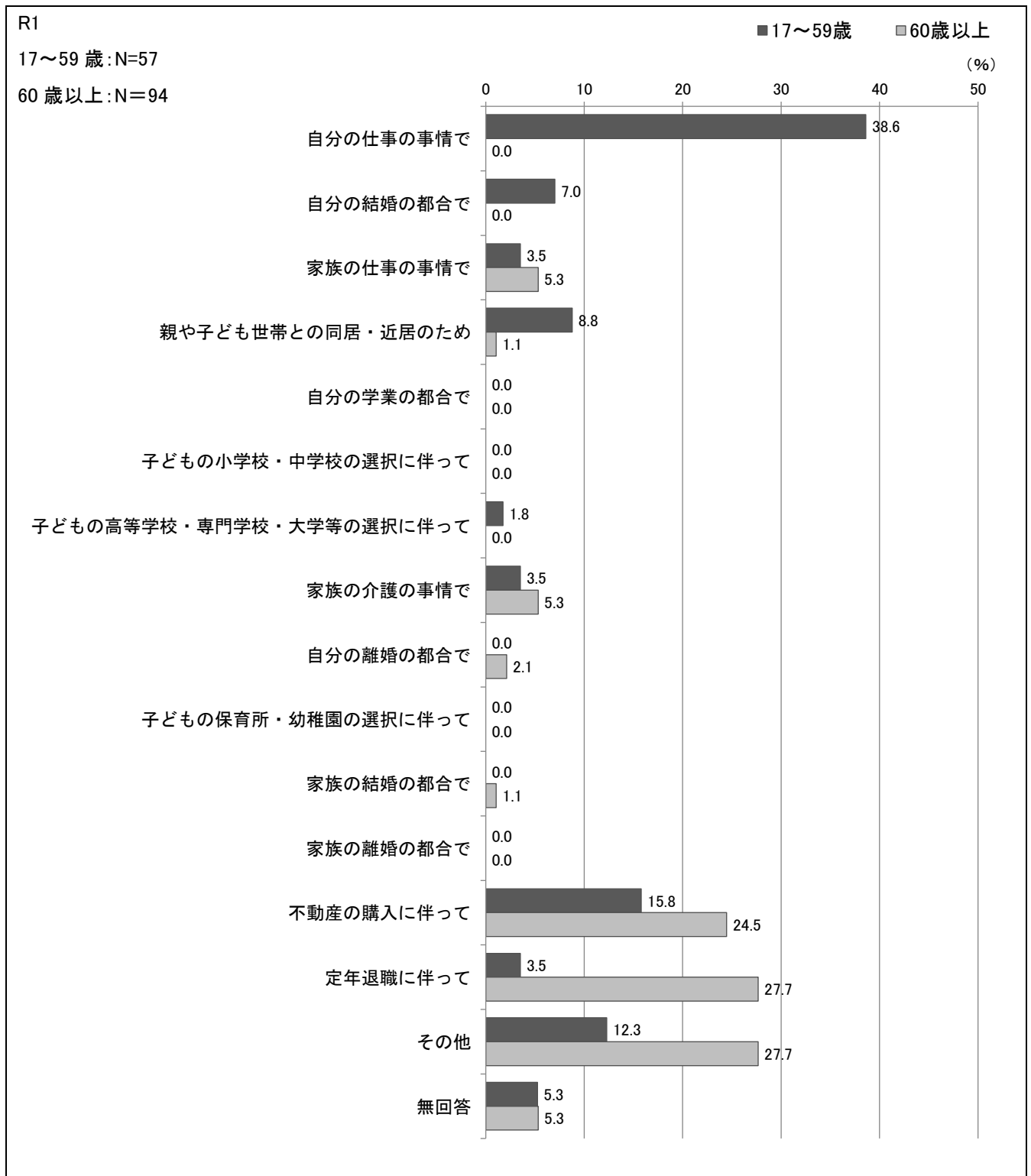
年齢別に転入者の出身地と伊東市の関係性を見ると、50歳以上で「県外の出身で、転入した」が7割以上を占めている。

(40) 年齢別・出身地と転出先の関係性

【転出者：問2×問8】

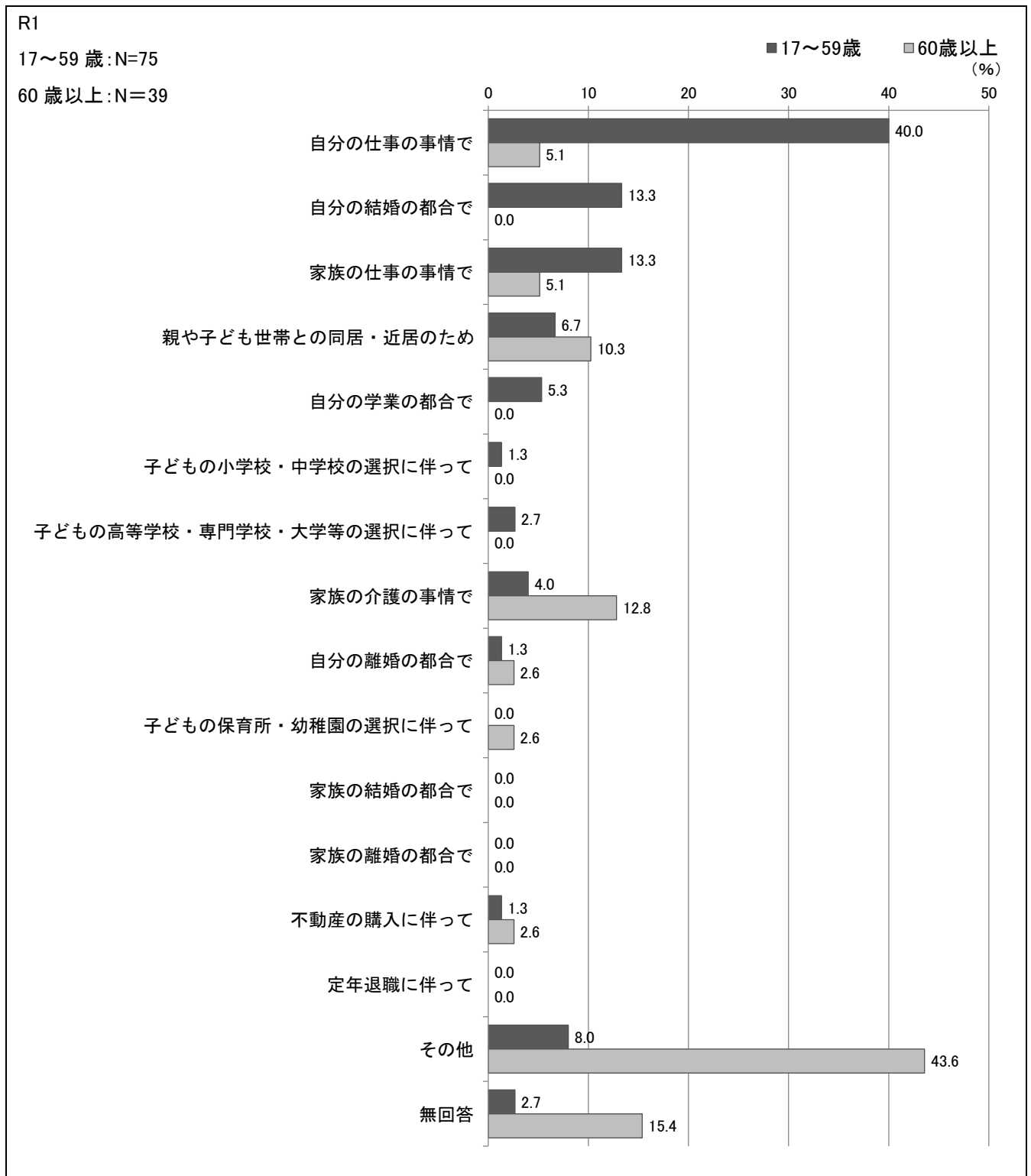


年齢別に転出者の出身地と伊東市の関係性を見ると、60歳未満で「市内の出身で、市外へ転出した」が10.0～55.6%となっている。母数的に多い65歳以上では「伊東市外の出身で、出身地とは全く関係ない場所に転出した」が多くなる傾向にある。



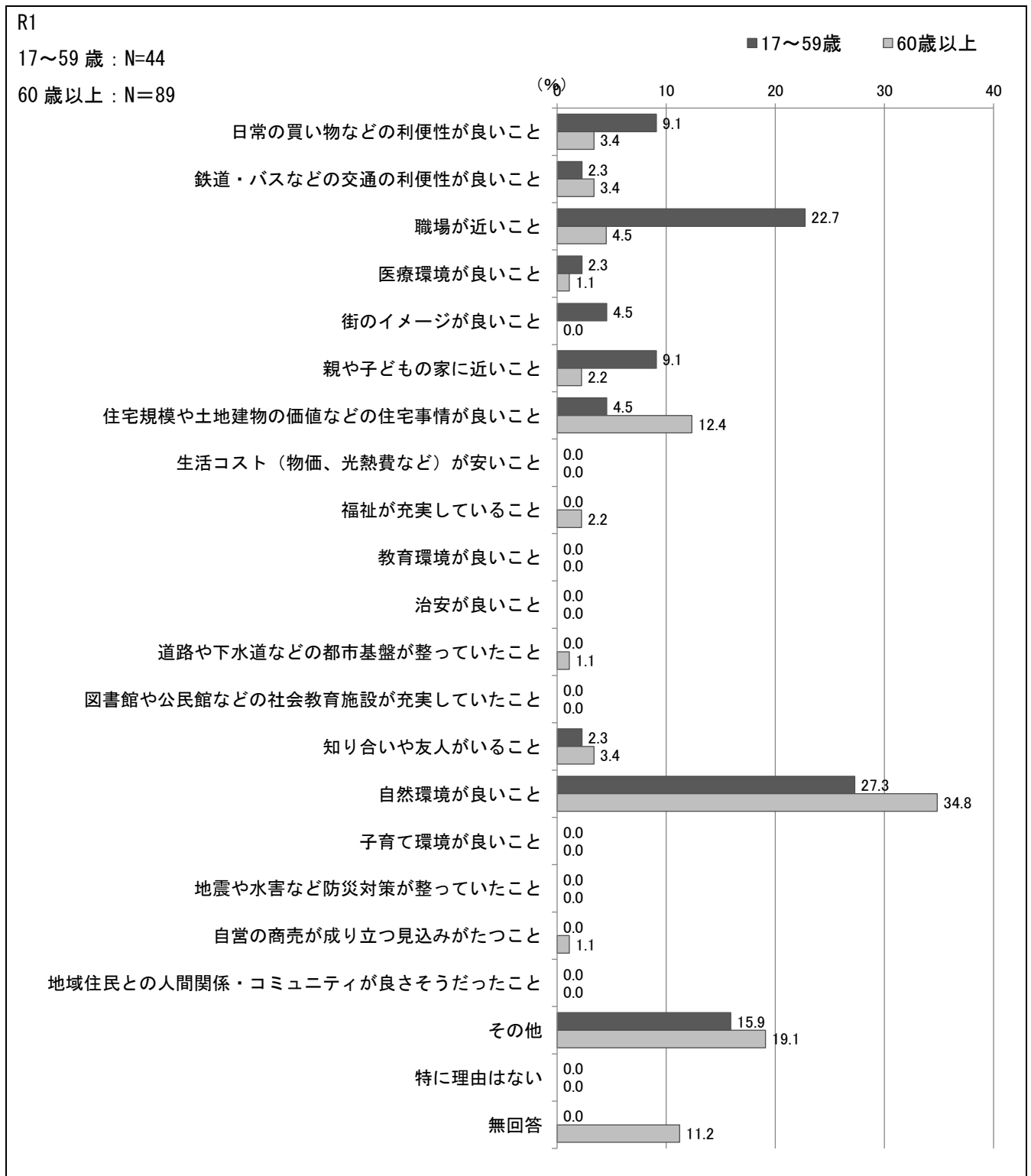
年齢別に転入者が伊東市へ転入することになった最大のきっかけを見ると、17歳以上59歳以下では、「自分の仕事の事情で」が38.6%と最も高く、60歳以上では、「定年退職に伴って」が27.7%と「不動産の購入に伴って」が24.5%と高くなっている。

【その他】 老人ホームへの入居、再開発による立ち退き、健康上の理由 など



年齢別に転出者が伊東市から転出することになった最大のきっかけを見ると、17歳以上59歳以下では、「自分の仕事の事情で」が40.0%と最も高く、次いで「自分の結婚の都合で」「家族の仕事の事情で」の13.3%となっている。

【その他】 老人ホームへの入居、再開発による立ち退き、健康上の理由 など

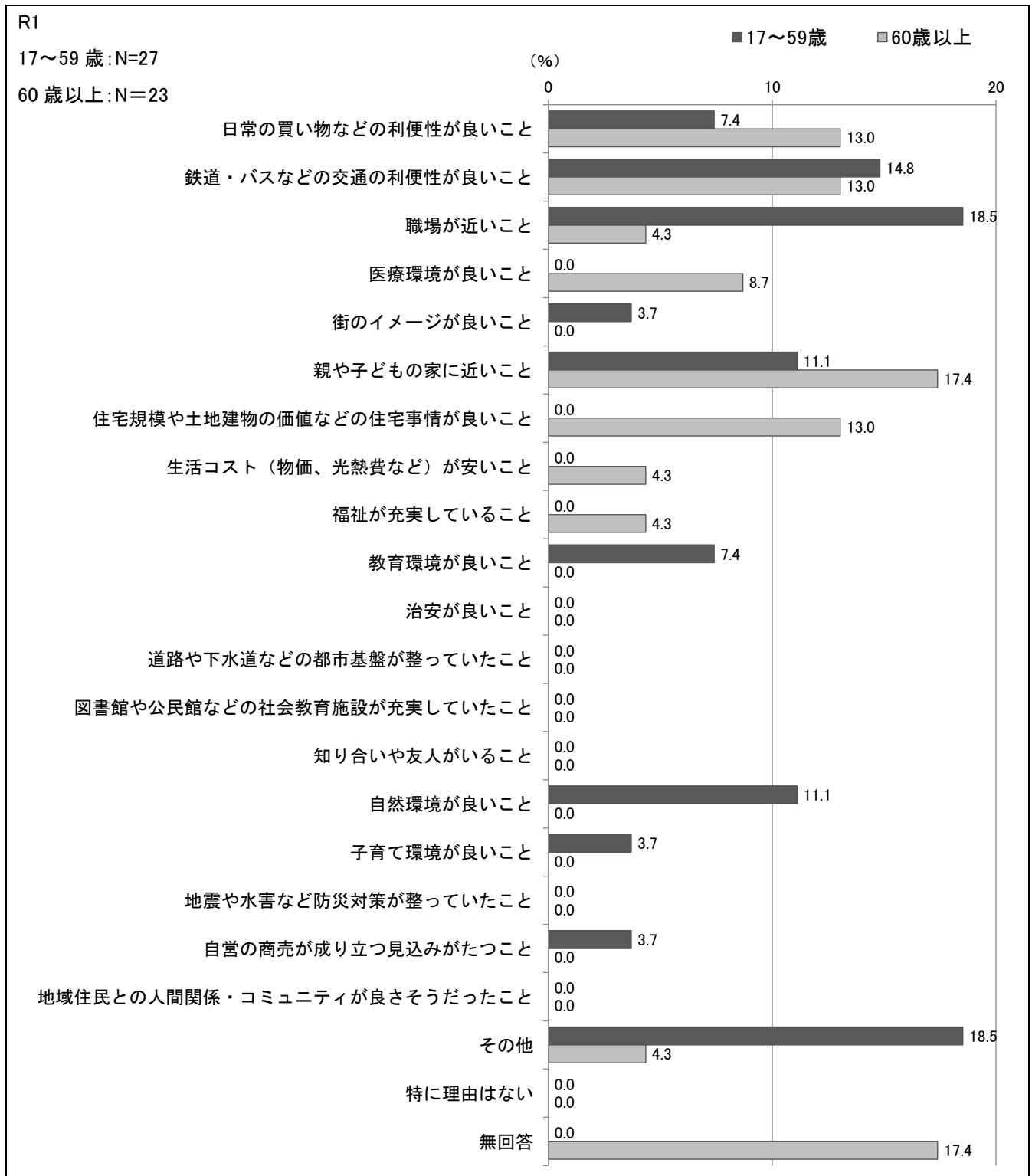


年齢別に転入者が伊東市を選んだ最も大きな理由や重視した点を見ると、17歳以上59歳以下では、「自然環境が良いこと」が27.3%と高く、次いで「職場が近いこと」となっている。60歳以上では、「自然環境が良いこと」が34.8%と最も高くなっている。

【その他】別荘を所有していた、温泉がある など

(44) 年齢別・現在の居住地である市区町村を選んだ最も大きな理由や重視した点

【転出者：問2×問14-2】



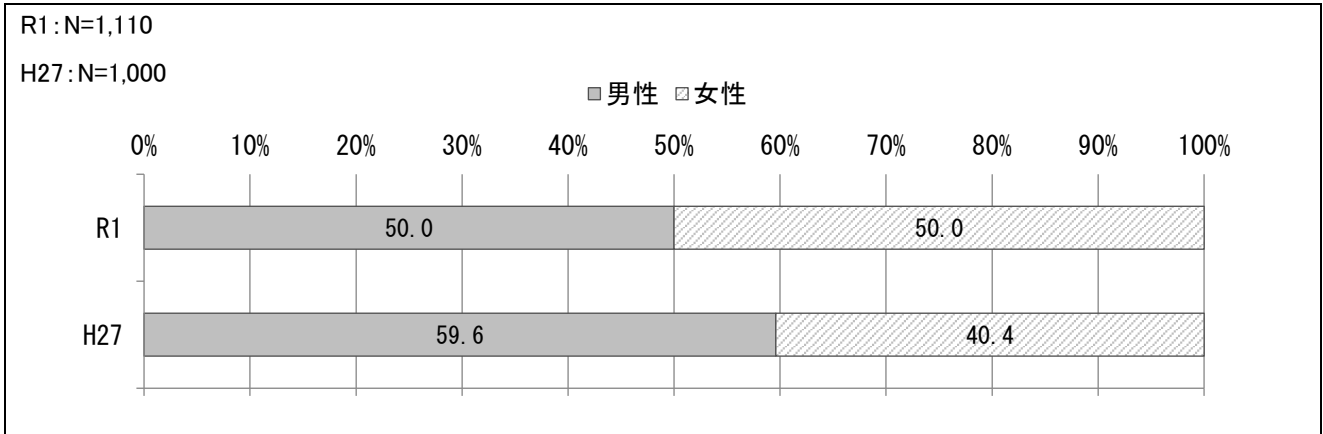
年齢別に転出者が現在の居住地である市区町村を選んだ最も大きな理由や重視した点を見ると、17歳以上59歳以下では、「職場が近いこと」が18.5%と高く、次いで「鉄道・バスなどの交通の利便性が良いこと」の14.8%となっている。60歳以上では、「親や子どもの家に近いこと」が17.4%と最も高くなっている。

【その他】税金・保険等が安い、伊東市に仕事が無かったから など

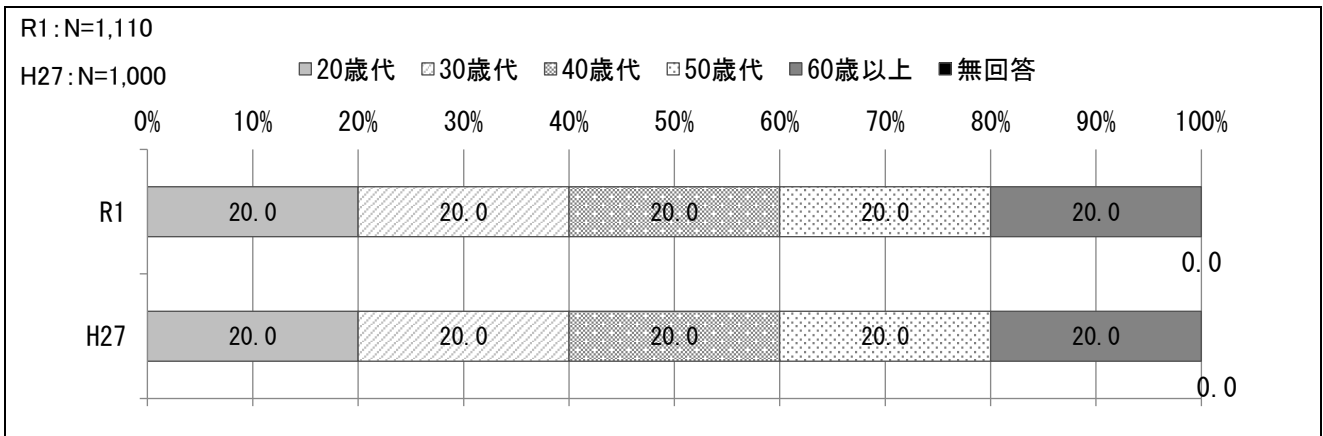
Ⅲ 移住意向に関するアンケート(WEB) 調査結果

1 あなた自身のことについて

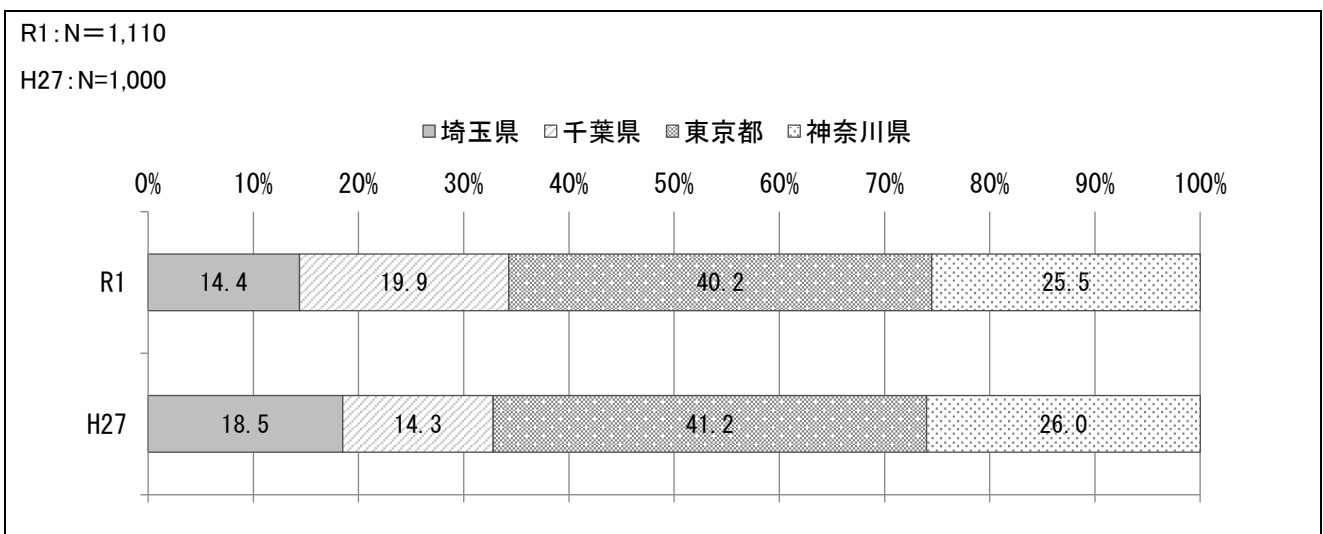
F1 性別 (○は1つ)



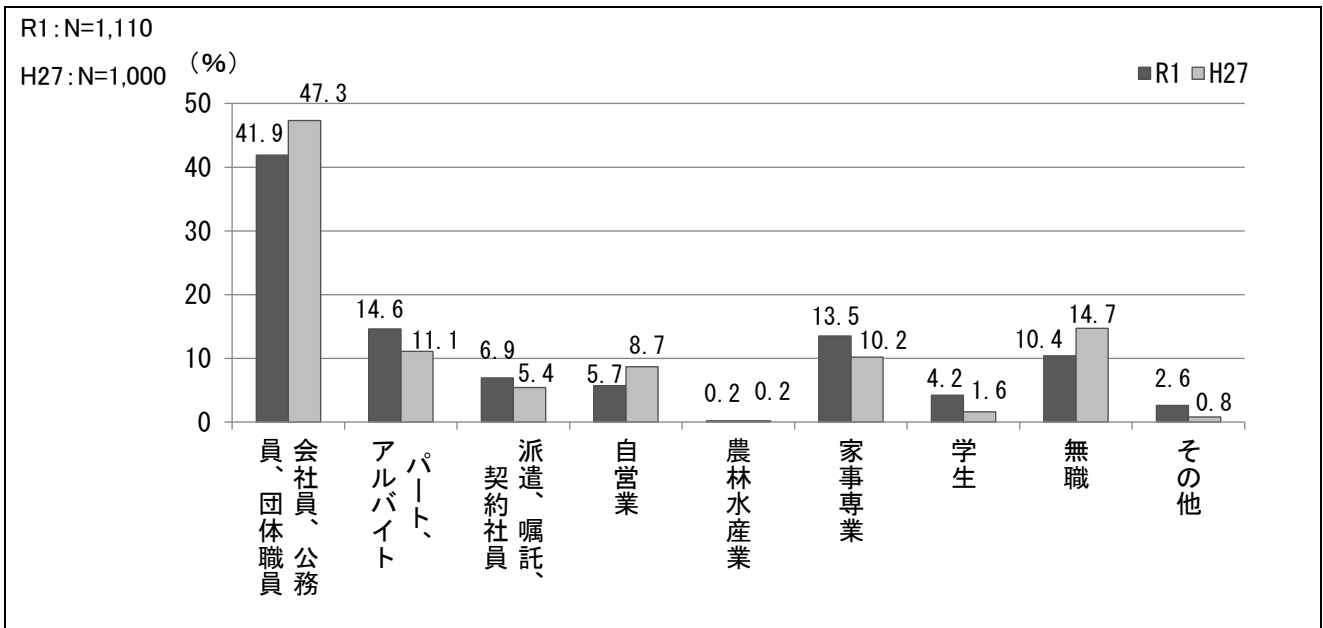
F2 年齢 (○は1つ)



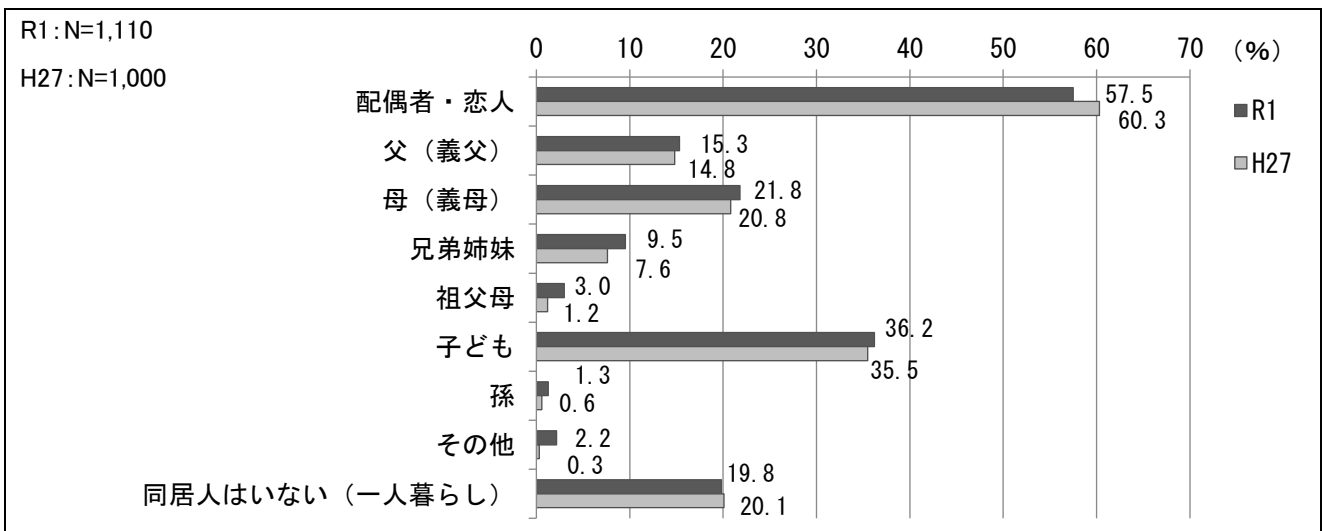
F3 居住地 (○は1つ)



問1 職業 (○は1つ)

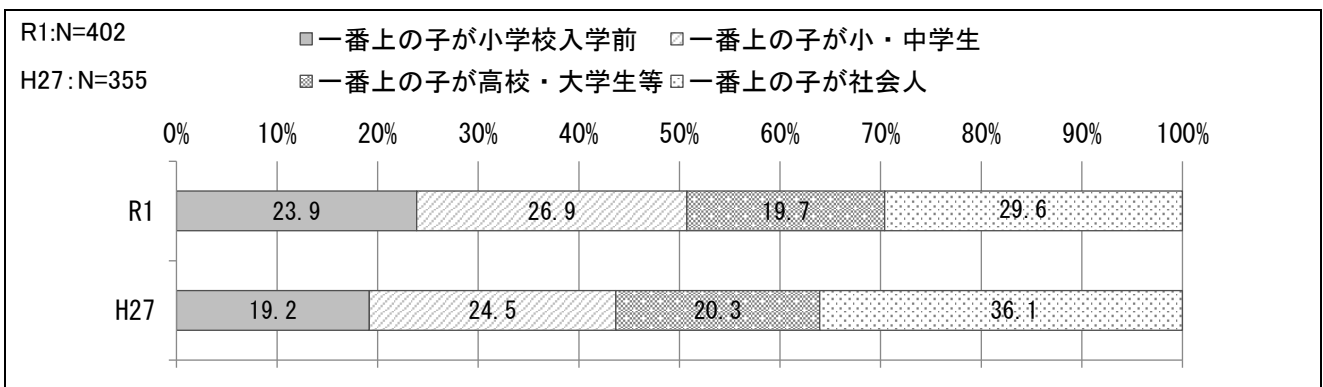


問2 同居人 (○はいくつでも)

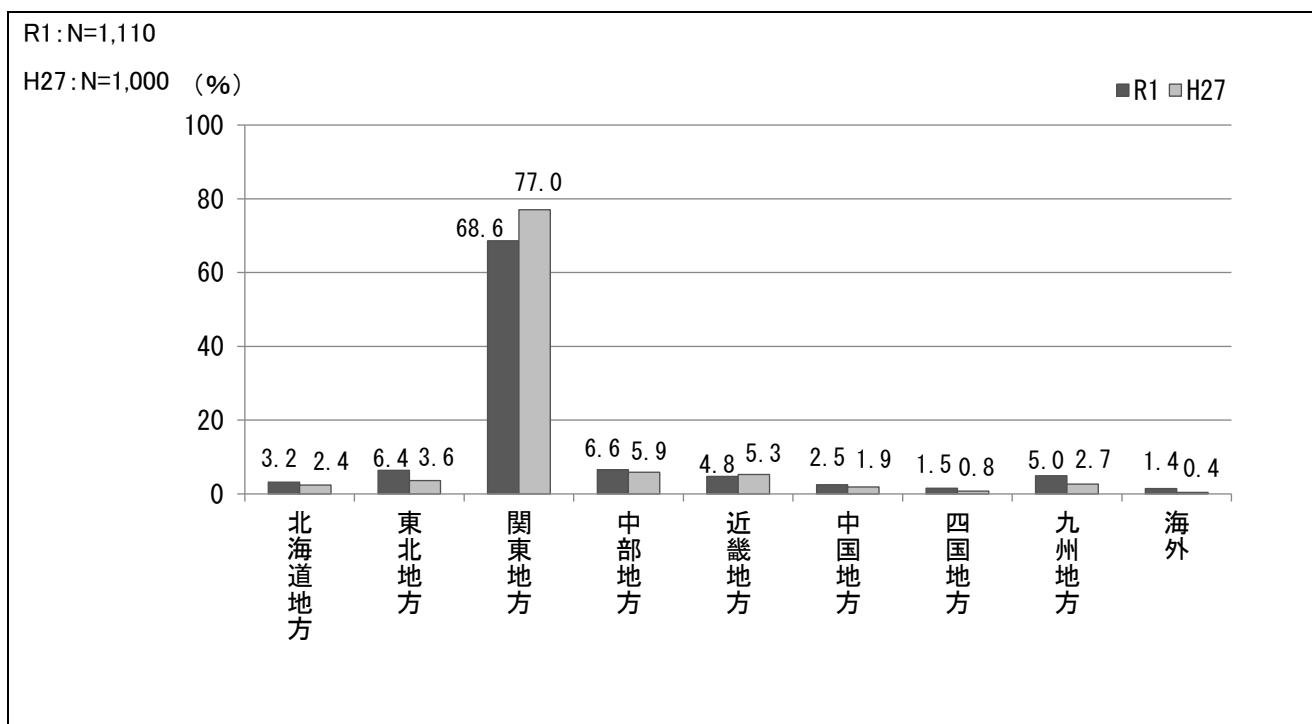


問3 同居している子の状況 (○は1つ)

※問2で「子ども」を選んだ方のみ



問4 出身地 (○は1つ)

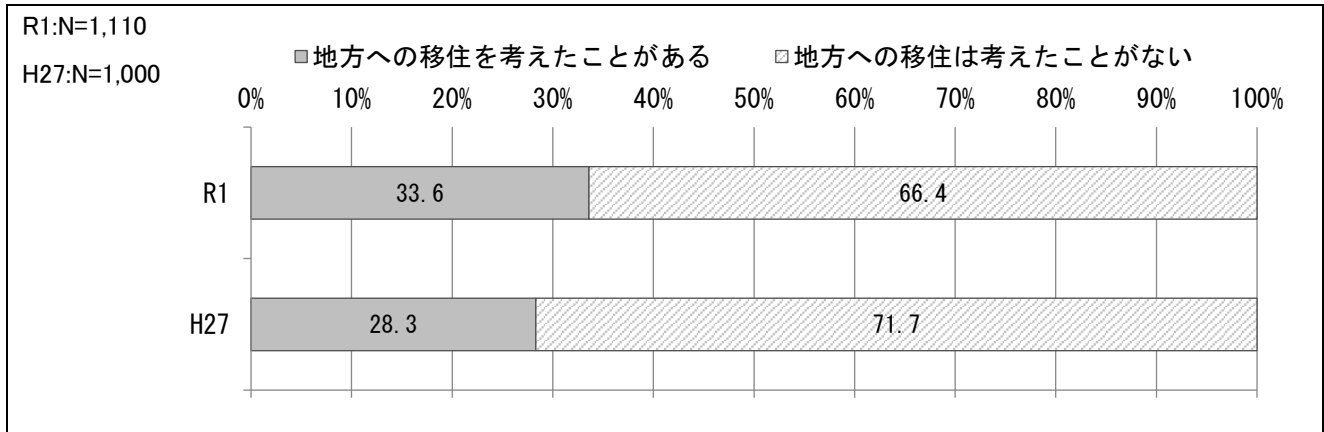


地方区分	都道府県名	人数	割合
北海道地方	北海道	35	3.2%
	小計	35	3.2%
東北地方	青森県	14	1.3%
	岩手県	10	0.9%
	宮城県	16	1.4%
	秋田県	8	0.7%
	山形県	8	0.7%
	福島県	15	1.4%
	小計	71	6.4%
	関東地方	茨城県	17
栃木県		5	0.5%
群馬県		4	0.4%
埼玉県		121	10.9%
千葉県		123	11.1%
東京都		317	28.6%
神奈川県		175	15.8%
小計		762	68.8%
中部地方	新潟県	15	1.4%
	富山県	2	0.2%
	石川県	5	0.5%
	福井県	1	0.1%
	山梨県	1	0.1%
	長野県	11	1.0%
	岐阜県	4	0.4%
	静岡県	14	1.3%
	愛知県	20	1.8%
	小計	73	6.6%

近畿地方	三重県	4	0.4%
	滋賀県	3	0.3%
	京都府	7	0.6%
	大阪府	20	1.8%
	兵庫県	12	1.1%
	奈良県	3	0.3%
	和歌山県	4	0.4%
	小計	53	4.9%
中国地方	鳥取県	0	0.0%
	島根県	3	0.3%
	岡山県	9	0.8%
	広島県	11	1.0%
	山口県	5	0.5%
小計	28	2.6%	
四国地方	徳島県	3	0.3%
	香川県	2	0.2%
	愛媛県	8	0.7%
	高知県	4	0.4%
	小計	17	1.6%
九州地方	福岡県	23	2.1%
	佐賀県	5	0.5%
	長崎県	3	0.3%
	熊本県	6	0.5%
	大分県	1	0.1%
	宮崎県	7	0.6%
	鹿児島県	7	0.6%
	沖縄県	3	0.3%
	小計	55	5.0%
	海外	海外	16
小計	16	1.4%	
調査数		1,110	100%

2 地方への移住について

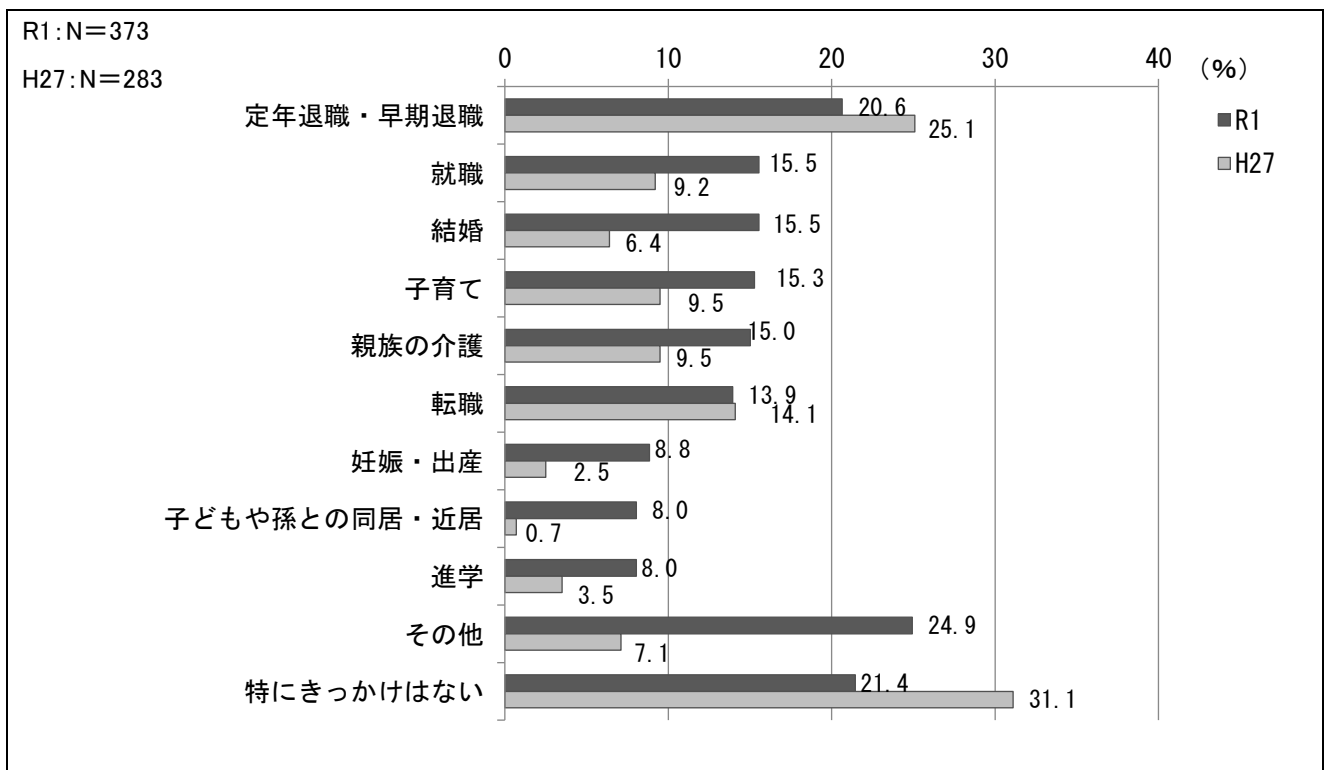
問5 地方への移住に関する考え（○は1つ）



地方への移住に関する考えは、「地方への移住を考えたことがある」が33.6%、「地方への移住は考えたことがない」が71.7%となっている。平成27年度よりも、地方への移住を考えたことがあるが5.3ポイント増加している。

問6 地方への移住を考えたきっかけ（○はいくつでも）

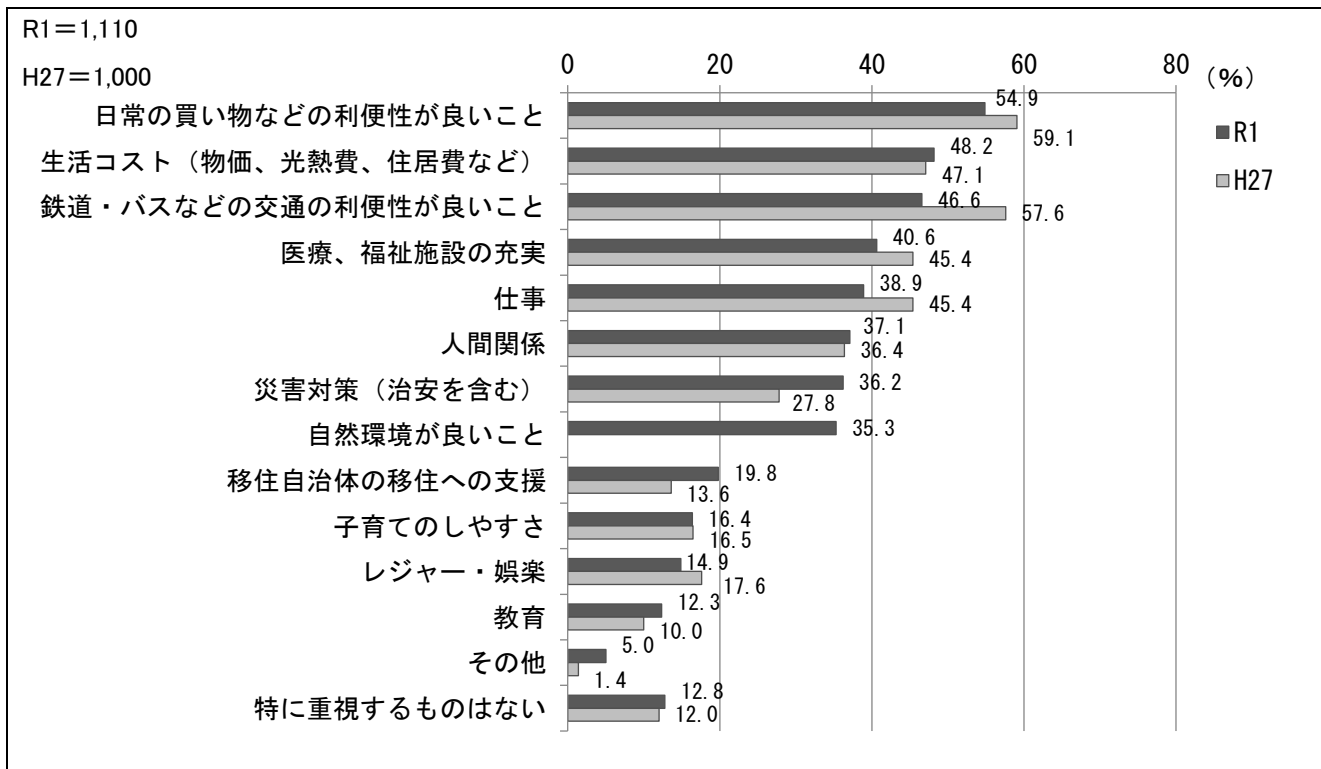
※問5で「地方への移住を考えたことがある」を選んだ方のみ



地方への移住を考えたきっかけは、「定年退職・早期退職」が20.6%と最も高く、「就職」「結婚」が15.5%、「子育て」15.3%、「親族の介護」15.0%などと続いている。平成27年度よりも「子どもや孫との同居・近居」が7.3ポイント増加している。

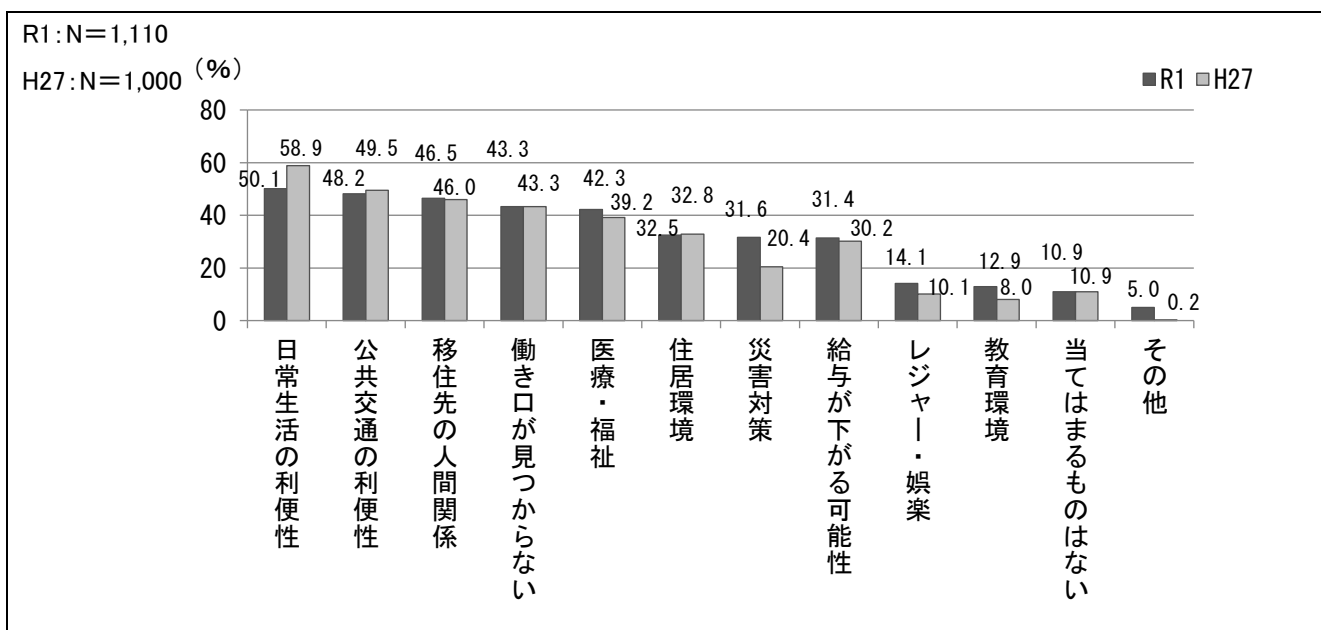
問7 移住を考える上で重視する点（〇はいくつでも）

※H27年度は「自然環境が良いこと」項目無し



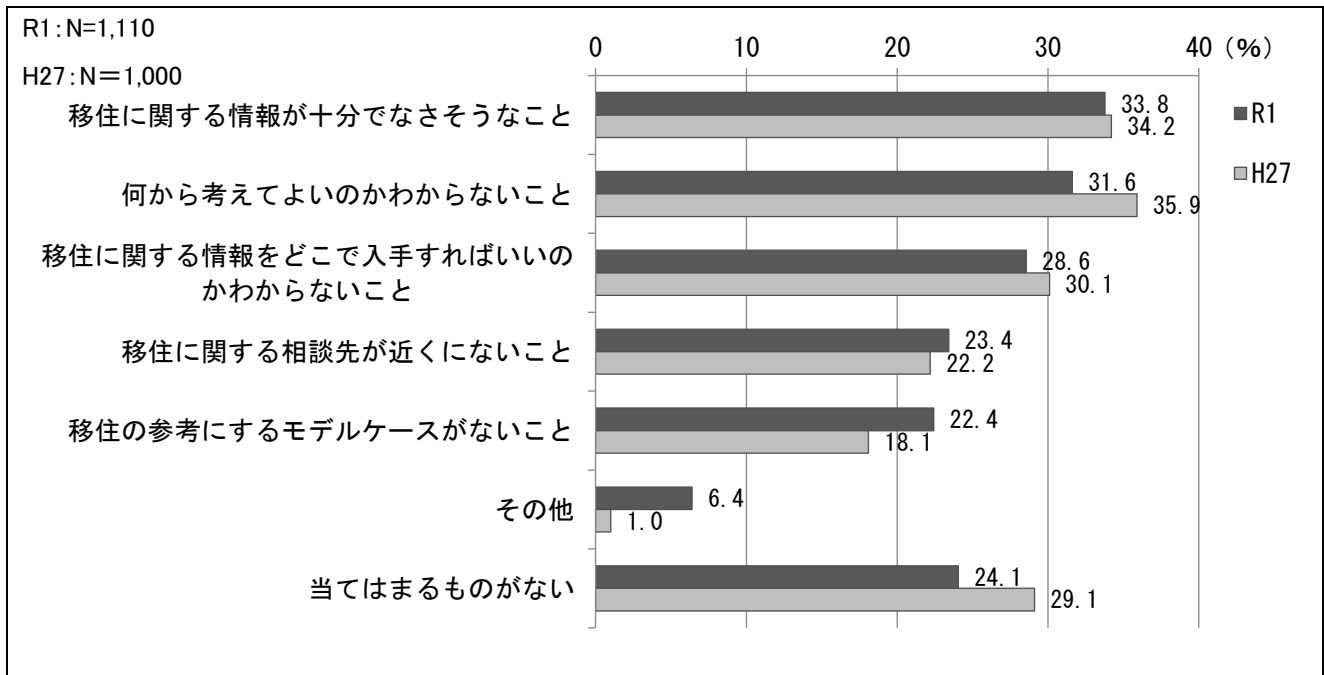
移住を考える上で重視する点は、「買い物の利便性」が 54.9%と最も高く、「生活コスト」が 48.2%、「交通の利便性」が 46.6%などと続いている。平成 27 年度と同様の傾向を示している。

問8 地方への移住をするとした場合、不安なことや懸念される点（〇はいくつでも）



地方への移住をするとした場合、不安なことや懸念される点は、「日常生活への利便性」が 50.1%と最も高く、「公共交通の利便性」が 48.2%、「移住先の人間関係」が 46.5%などと続いている。平成 27 年度よりも「災害対策」が 11.2 ポイント増加している。

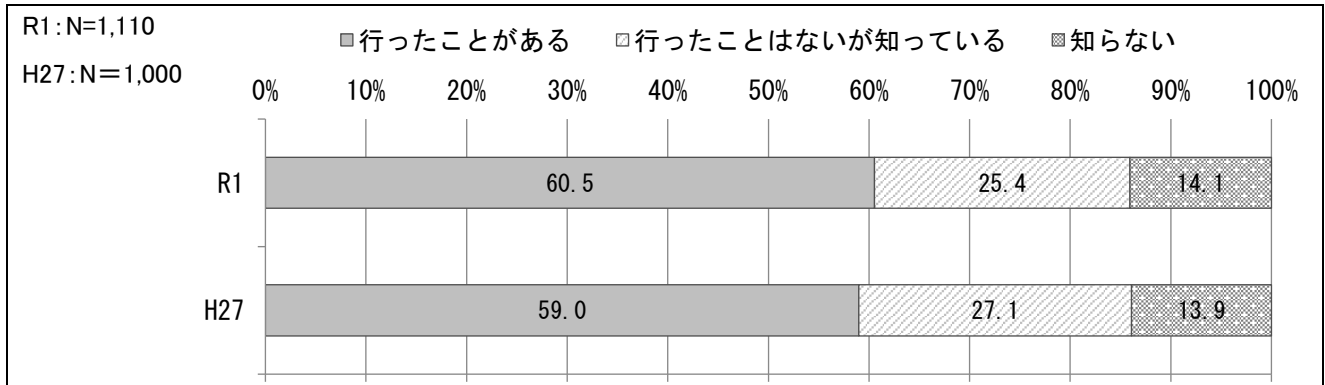
問9 移住を検討する上で困ること（〇はいくつでも）



移住を検討する上で困ることは、「移住に関する情報が十分でなさそうなこと」が 33.8%と最も高く、「何から考えてよいのかわからないこと」が 31.6%、「移住に関する情報をどこで入手すればいいのかわからないこと」が 28.6%と続いている。平成 27 年度と同様の傾向を示している。

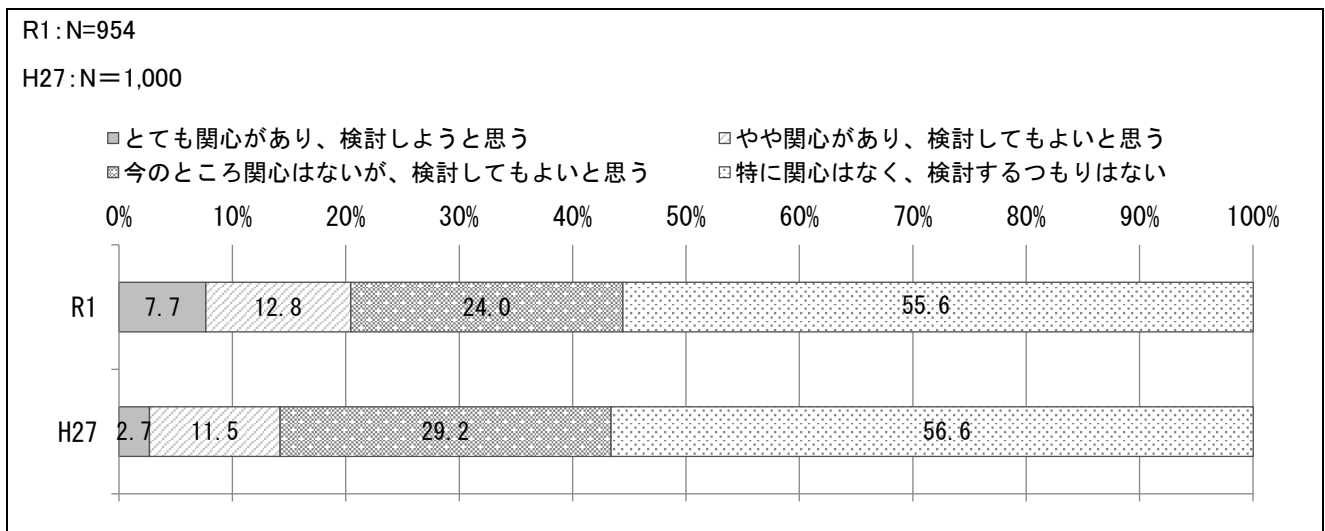
3 静岡県伊東市について

問 10 静岡県伊東市の認知状況（○は1つ）



静岡県伊東市の認知情報は、「行ったことがある」が60.5%、「行ったことはないが知っている」が25.4%、「知らない」が14.1%となっている。平成27年度と同様の傾向を示している。

問 11 地方に移住するとした場合、静岡県伊東市への移住の検討（○は1つ）

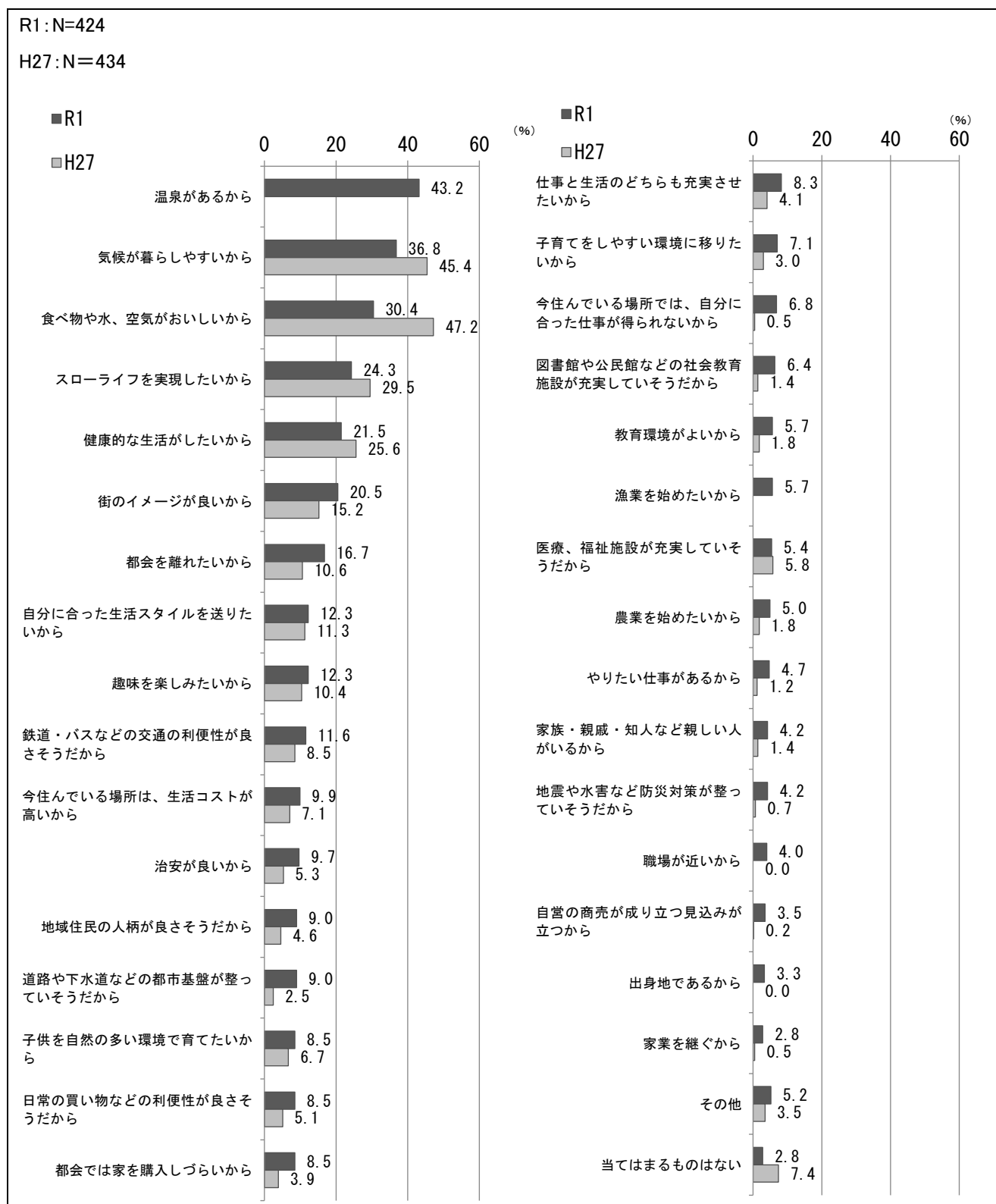


地方に移住するとした場合、静岡県伊東市の移住の検討については、「特に関心はなく、検討するつもりもない」が55.6%と最も高く、『検討意向がある』（とても関心があり、検討しようと思う+やや関心があり、検討してもよいと思う+今のところ関心はないが、検討してもよいと思う）が44.4%となっている。平成27年度と同様の傾向を示している。

問 12 移住先の候補として、伊東市に関心を持った理由(〇はいくつでも)

※問 11 で「検討意向がある」を選んだ方が対象

※H27年度は「温泉があるから」、「漁業を始めたいから」項目無し



移住先の候補として、伊東市に関心を持った理由は、「温泉があるから」が 43.2%と最も高く、「気候が暮らしやすいから」が 36.8%、「食べ物や水、空気がおいしいから」が 30.4%などと続いている。平成 27 年度調査よりも多様な種類の選択肢が選ばれている。

伊東市
移住意向に関するアンケート
調査結果報告書

令和2年3月

発行／伊東市 企画部 市政戦略課 地域政策係
〒414-8555 静岡県伊東市大原二丁目1番1号
電話 0557-32-1062 FAX 0557-36-1104